

京都薬科大学教育研究業績録

第 4 1 集

2 0 2 2

(2022 年 1 月～12 月)

2 0 2 3

教 員 一 覧 表

() は兼務 五十音順

2022年5月1日現在

	教授	准教授	講師	助教	助手
学長	赤路 健一				
副学長	斎藤 博幸				
薬化学	古田 巧	小林 祐輔		浜田 翔平	
薬品製造学	南部 寿則	小島 直人		岩崎 宏樹	
薬品化学	大石 真也	小林 数也			
生薬学		中村 誠宏			
薬品分析学	武上 茂彦				
代謝分析学	安井 裕之	木村 寛之		内藤 行喜	
薬品物理化学	(斎藤 博幸)	長尾耕治郎		扇田 隆司	
衛生化学	長澤 一樹	高山健太郎		森戸 克弥	
公衆衛生学	渡辺 徹志			松本 崇宏	
微生物・感染制御学	八尋錦之助			鴨志田 剛	
細胞生物学	藤室 雅弘		関根 勇一		
生化学	中山 祐治			齊藤 洋平	
				幸 龍三郎	
病態生理学	芦原 英司	細木 誠之		戸田 侑紀	
病態生化学	秋葉 聡	石原 慶一		河下 映里	
薬物治療学	加藤 伸一	松本健次郎		安田 浩之	
臨床薬理学	中田 徹男	小原 幸		鳥羽 裕恵	
薬理学	田中 智之	藤井 正徳			田村 裕穂
臨床腫瘍学		中田 晋		飯居 宏美	
薬剤学	山本 昌	勝見 英正		森下 将輝	
薬物動態学	栄田 敏之		伊藤由佳子	河淵 真治	
臨床薬学	西口 工司		辻本 雅之		
臨床薬剤疫学	村木 優一			豕瀬 諒	
統合薬科学系	高田 和幸				
健康科学		長澤 吉則		棚橋嵩一郎	
物理学	田中 憲一				
数学	上野 嘉夫				
一般教育	佐藤 毅	今井 千壽	岩崎 大輔	朝比奈裕子	
	實川眞理子	坂本 尚志	岸野 良治		
	野崎亜紀子				
薬学教育研究センター	細井 信造		開 章宏	吉村 典久	
臨床薬学教育研究センター	橋詰 勉	津島 美幸	今西 孝至	地寄 悠吾	
	矢野 義孝		中村 暢彦		
			松村千佳子		
情報処理教育研究センター	藤原 洋一		石川 誠司		
学生実習支援センター	(藤原 洋一)	木村 徹		金瀬 薫	徳山 友紀
				河野 享子	
				高尾 郁子	
				高田 哲也	
				平山恵津子	
図書館	(古田 巧)				
薬用植物園	(渡辺 徹志)			月岡 淳子	
放射性同位元素研究センター	(赤路 健一)	河嶋 秀和			
バイオサイエンス研究センター	(加藤 伸一)	斉藤美知子			
創薬科学フロンティア研究センター	(大石 真也)				
共同利用機器センター	(古田 巧)		服部 恭尚		

目次

薬化学	1
薬品製造学	4
薬品化学	9
生薬学	15
薬品分析学	18
代謝分析学	20
薬品物理化学	27
衛生化学	31
公衆衛生学	36
微生物・感染制御学	41
細胞生物学	45
生化学	48
病態生理学	51
病態生化学	53
薬物治療学	57
臨床薬理学	60
薬理学	63
臨床腫瘍学	65
薬剤学	70
薬物動態学	74
臨床薬学	78
臨床薬剤疫学	81
統合薬科学系	88
健康科学	92
物理学	95
数学	97
一般教育	98
薬学教育研究センター	103
臨床薬学教育研究センター	104
学生実習支援センター	109
薬用植物園	110
放射性同位元素研究センター	111
バイオサイエンス研究センター	114
共同利用機器センター	116

論文

1. SYNTHESIS OF AMIDE-FUNCTIONALIZED THIA[7]HELICENE-LIKE MOLECULE AND ITS SUPRAMOLECULAR ASSEMBLY IN THE SOLID STATE

Takumi Inoue, Shohei Hamada, Rina Nakamura, Yusuke Kobayashi, Takahiro Sasamori, Takumi Furuta

Heterocycles 104(4) 786-796 2022 年

2. Syntheses, and Structural and Physical Properties of Axially Chiral Biaryl Dicarboxylic Acids Bearing Chalcogen Atoms.

Takuya Murai, Shohei Hamada, Yusuke Kobayashi, Takahiro Sasamori, Takumi Furuta

Chemical & pharmaceutical bulletin 70(9) 605-615 2022 年

3. One-Pot Preparation of (NH)-Phenanthridinones and Amide-Functionalized [7]Helicene-like Molecules from Biaryl Dicarboxylic Acids

Takuya Murai, Yongning Xing, Mayu Kurokawa, Toshifumi Kuribayashi, Masanori Nikaido, Elghareeb E. Elboray, Shohei Hamada, Yusuke Kobayashi, Takahiro Sasamori, Takeo Kawabata, Takumi Furuta

Journal of Organic Chemistry 87(9) 5510-5521 2022 年 5 月 6 日

4. N-Acylimino- λ^3 -iodanes from the Metathesis of Iodosoarenes and Nitriles for the Photoinduced C-H Perfluoroacylaminations of (Hetero)Arenes

Tomohiro Kimura, Shohei Hamada, Takumi Furuta, Yoshiji Takemoto, Yusuke Kobayashi

Organic Letters 24(26) 4835-4839 2022 年 7 月 8 日

Misc

1. ありそうでなかったビニル化試薬 ～ビニルアントレニウムによるビニル化反応の開発～

浜田翔平

化学, 77, 66. 2022 年

2. ハロゲン結合による分子活性化および分子安定化を利用した反応開発 2-ヨウ素化アゾリニウム塩を中心に

小林祐輔

ファルマシア 58 928-932 2022 年

3. 抗血栓薬服用中の患者における消化管出血時の薬剤選択に関わった症例

横井裕一, 古田 巧, 村木優一

京都薬科大学紀要 3-1 155-160 2022 年

4. ハロゲン結合を利用した触媒開発とアミドの糖鎖修飾反応への応用

小林祐輔

京都薬科大学紀要 3-2 174-183 2022 年

書籍等出版物

1. 月刊ファインケミカル 特集「ヨウ素化学の進展と今後の展望」

担当範囲 超原子価ヨウ素試薬の新規活性化法の開発

小林祐輔

シーエムシー出版 51, 40-47 2022 年

講演・口頭発表等

1. ビアリアル型アミノ酸の創製からカルコゲン元素による触媒構造の制御へ

古田巧

近畿化学協会ヘテロ原子部会 2021 年度第 3 回懇話会, 2022 年 2 月 (招待講演)

2. カルコゲン元素を有する不斉ロジウム二核錯体の合成と立体構造の解析

村井琢哉, 浜田翔平, 小林祐輔, 笹森貴裕, 古田巧

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 (オンライン開催)

3. カルコゲン結合で構造制御した軸性不斉ウレア誘導体の合成

中村梨那, 太田萌絵, 井上拓美, 村井琢哉, 笹森 貴裕, 浜田翔平, 小林祐輔, 古田 巧

日本薬学会第 142 年会, 名古屋市 (オンライン開催) 2022 年 3 月

4. カルコゲン結合による基質認識を志向したロジウム二核錯体の合成と位置選択性の検討

松山千夏, Elghareeb Elboray, 井上拓美, 村井琢哉, 浜田翔平, 小林祐輔, 古田 巧

日本薬学会第 142 年会, 名古屋市 (オンライン開催) 2022 年 3 月

5. 新規 N-アシルナイトレン等価体の開発と応用

小林 祐輔, 俵 龍太郎, 浜田 翔平, 古田 巧

日本薬学会第 142 年会, 名古屋市 (オンライン開催) 2022 年 3 月

6. 超原子価ニクトゲン反応剤の開発と応用

小林 祐輔, 石田 渚, 浜田 翔平, 古田 巧

日本薬学会第142年会, 名古屋市 (オンライン開催) 2022年3月

7. Electronic Tuning 型ニトロキシル酸化触媒によるイソクロマンの酸化的カップリング反応の検討

矢野恭子, 浜田翔平, Elghareeb Elboray, 小林祐輔, 川端猛夫, 古田 巧

日本薬学会第142年会, 名古屋市 (オンライン開催) 2022年3月

8. 二重のカルコゲン結合で構造制御したウレアの合成とその立体構造

井上 拓美, 太田萌絵, 中村梨那, 網島 唯, 高橋 暖, 村井琢哉, 笹森 貴裕, 浜田翔平, 小林祐輔, 古田 巧

第20回次世代を担う有機化学シンポジウム, 渋谷区 (オンライン開催) 2022年5月

9. 天然型 N- β -GlcNAc-Asn 及び非天然型 N- α -GlcNAc-Asn の効率的合成法の開発

小林祐輔, 山西雅子, 中辻雄哉, 中寛史, 竹本佳司

第64回天然有機化合物討論会, 静岡市清水文化会館 (静岡県清水市) 2022年9月

10. ニトロキシルラジカルを触媒としたベンジル・アリル位のシリルエーテル選択的酸化

阪本圭織, 浜田翔平, 宮崎瑛梨, 小林祐輔, 川端猛夫, 古田 巧

第72回 日本薬学会 関西支部大会, 摂南大学 (大阪府枚方市) 2022年10月

11. カルコゲン結合で立体制御した軸性不斉ウレアの合成と立体構造

高橋 暖, 中村梨那, 太田萌絵, 井上 拓美, 村井琢哉, 笹森 貴裕, 浜田翔平, 小林祐輔, 古田 巧

第72回 日本薬学会 関西支部大会, 摂南大学 (大阪府枚方市) 2022年10月

12. Synthesis, Characterization, and Application of N-Acylimino-lambda³-iodanes Bearing Intramolecular Halogen Bonding

Yusuke Kobayashi, Tomohiro Kimura, Sayaka Yamamoto, Shohei Hamada, Takumi Furuta, Yoshiji Takemoto

5th International Symposium on Halogen Bonding (ISXB5), Chiba

13. ベンジル・アリル位のシリルエーテル選択的酸化反応の開発

浜田翔平, 阪本圭織, 宮崎瑛梨, 小林祐輔, 川端猛夫, 古田 巧

第48回反応と合成の進歩シンポジウム, 千葉市民会館 (千葉県千葉市) 2022年11月

論文

1. Chemical structures and induction of cell death via heat shock protein inhibition of the prenylated phloroglucinol derivatives isolated from *Hypericum erectum*
Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Erika Ohnishi, Masaya Okayama, Takahiro Kitagawa, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Naoto Kojima, Masayuki Yamashita, Tetsushi Watanabe
Fitoterapia 156 105097-105097 2022 年 1 月
2. Construction of sulfur-containing compounds with anti-cancer stem cell activity using thioacrolein derived from garlic based on nature-inspired scaffolds
Taichi Yoneda, Naoto Kojima, Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Tomoe Ohta, Tasusada Yoshida, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura
Organic & Biomolecular Chemistry 20(1) 196-207 2022 年 1 月
3. JCI-20679 suppresses autophagy and enhances temozolomide-mediated growth inhibition of glioblastoma cells
Shota Ando, Chiami Moyama, Naoto Kojima, Mitsugu Fujita, Kaito Ohta, Yukina Kohno, Hiromi Ii, Susumu Nakata
Biochemical and Biophysical Research Communications 591 62-67 2022 年 2 月
4. Structure–antitumor activity relationship of hybrid acetogenins focusing on connecting groups between heterocycles and the linker moiety
Kaito Ohta, Tetsuya Fushimi, Mutsumi Okamura, Akinobu Akatsuka, Shingo Dan, Hiroki Iwasaki, Masayuki Yamashita, Naoto Kojima
RSC Advances 12(25) 15728-15739 2022 年 5 月
5. JCI-20679 suppresses the proliferation of glioblastoma stem cells by activating AMPK and decreasing NFATc2 expression levels
Shota Ando, Naoto Kojima, Chiami Moyama, Mitsugu Fujita, Kaito Ohta, Hiromi Ii, Susumu Nakata
Molecular Medicine Reports 26(1) 238 2022 年 5 月 27 日
6. Rhodium(II)-Catalyzed Site-Selective Intramolecular Insertion of Aryldiazoacetates into Unactivated Primary C-H Bond: A Direct Route to 2-Unsubstituted Indanes
Hisanori Nambu, Ryoya Amano, Takafumi Tamura, Takayuki Yakura
ADVANCED SYNTHESIS & CATALYSIS 364(14) 2422-2428 2022 年 7 月

7. Synthesis of Acetogenin Analogs Comprising Pyrimidine Moieties Linked by Amine Bonds and Their Inhibitory Activity against Human Cancer Cell Lines

Hiroyuki Hosomi, Akinobu Akatsuka, Shingo Dan, Hiroki Iwasaki, Hisanori Nambu, Naoto Kojima
Chemical and Pharmaceutical Bulletin 70(11) 823-826 2022 年 11 月 1 日

講演・口頭発表等

1. Structure-antitumor activity relationship of hybrid molecules of annonaceous acetogenins and insecticides

Naoto Kojima

2022 National Taiwan University School of Pharmacy Research Day and International Conference
2022 年 5 月 6 日 National Taiwan University School of Pharmacy

2. 高反応性スピロクロプロパンの開裂-環化反応の開発とその応用

南部寿則

日本薬学会東北支部主催 第 20 回化学系若手セミナー 2022 年 10 月 15 日

3. バンレイシ科アセトゲニン類をモチーフとする 新規抗がんリード化合物の創製研究

小島直人

有機合成化学協会 関西支部賞 受賞講演会 2022 年 11 月 21 日

4. Divergent Synthesis and Biological Activity Evaluation of Acetogenin Thiophene Analogs Having Shorter Alkyl Side Chain

Kaito Ohta, Akinobu Akatsuka, Shingo Dan, Hiroki Iwasaki, Masayuki Yamashita, Naoto Kojima
ACS Spring 2022 2022 年 3 月 21 日

5. アセトゲニン誘導体 JCI-20679 は p-AMPK タンパク質の発現上昇と NFATc2 の発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する

安藤翔太, 小島直人, 茂山千愛美, 藤田 貢, 飯居宏美, 中田 晋

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

6. 抗がん剤抵抗性の改善を目指した新規プレニル化フロログルシノールの Hsp105 阻害活性評価

松本崇宏, 大西英里加, 岡山真也, 今堀大輔, 太田智絵, 吉田達貞, 小島直人, 山下正行, 渡辺徹志

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

7. 膠芽腫細胞に対するアセトゲニン誘導体 JCI-20679 とテモゾロミドの併用による抗腫瘍効果

岡本仁志, 安藤翔太, 茂山千愛美, 小島直人, 河野雪那, 飯居宏美, 中田 晋

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

8. 新規アセトゲニン誘導体 NK-134 はヒト肺がん A549 細胞の細胞増殖を抑制し担癌マウスにおいて抗腫瘍効果を示す

小西洸之助, 岡本斉子, 小島直人, 江川季生, 安藤翔太, 茂山千愛美, 飯居宏美, 中田 晋

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

9. 分子内不斉 Heck 反応を用いた(+)-dichroanal A の不斉全合成

小関 稔, 鈴木梨佳子, 山北美優, 福田可南子, 仁木亜弥, 青木朱衣, 岩崎宏樹, 小島直人, 山下正行, 川崎郁勇

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

10. 15-16 位を threo 配置に固定したアセトゲニンチオフェン誘導体の構造活性相関研究

細見紘幸, 小柴佐和子, 松本卓也, 上田 拓, 小菅真央, 飯居宏美, 中田 晋, 岩崎宏樹, 山下正行, 小島直人

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

11. SED を用いた 3-ヒドロキシメチルインドール誘導体合成反応における置換基効果の検討

東 莉奈, 岩崎宏樹, 三須健太郎, 近藤彩音, 小島直人, 山下正行

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 28 日

12. ヨウ化サマリウムを用いたラジカルイプソ置換型反応による位置選択的閉環反応の開発と天然物合成への展開

池本麻莉, 岩崎宏樹, 久保田由美, 柴田遥香, 小島直人, 山下正行

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 28 日

13. 末端アルキル側鎖を減炭したアセトゲニンチオフェン誘導体の COMPARE 解析による標的部位の推定

大田海斗, 赤塚明宣, 旦 慎吾, 岩崎宏樹, 山下正行, 小島直人

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 28 日

14. キラルアミンの不斉マイケル付加反応による四級不斉炭素構築法の開発

青木朱衣, 小関 稔, 中川志保, 仁木亜弥, 岩崎宏樹, 小島直人, 山下正行, 川崎郁勇

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 28 日

15. 複素環連結部位をアミド等価体に置換したアセトゲニン誘導体の合成とその抗腫瘍活性評価

大田海斗, 伏見哲也, 岡村睦美, 赤塚明宣, 旦 慎吾, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人

第 42 回有機合成若手セミナー 2022 年 8 月 10 日

16. ロジウム(II)触媒を連続的に用いた one-pot 反応による actinoallolide A フラノン部の立体選択的構築

南部寿則, 目黒祥大, 杉山光史, 矢倉隆之

第 51 回複素環化学討論会 2022 年 9 月 16 日

17. 15-16 位を threo 配置に固定したアセトゲニンチオフェン誘導体の合成とがん細胞増殖抑制活性
細見紘幸, 小柴佐和子, 松本卓也, 飯居宏美, 中田 晋, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人
第 51 回複素環化学討論会 2022 年 9 月 17 日

18. 膠芽腫幹細胞では JCI-20679 処理により AMPK の活性化と NFATc2 の発現低下が引き起こされる
安藤翔太, 小島直人, 茂山千愛美, 藤田 貢, 飯居宏美, 中田 晋
第 81 回日本癌学会学術総会 2022 年 9 月 30 日

19. リンイリドを用いたスピロシクロプロパンの開裂-環化反応による炭素環構築法の開発
南部寿則, 大貫悠太, 増田雄人, 矢倉隆之
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

20. JCI-20679 はテモゾロミドによる膠芽腫細胞の増殖抑制効果を増強する
安藤翔太, 小島直人, 茂山千愛美, 藤田 貢, 飯居宏美, 中田 晋
第 72 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

21. 分子内不斉 Heck 反応を基盤とした (+) -dichroanal A の不斉全合成
小関 稔, 福田可南子, 鈴木梨佳子, 山北美憂, 松本卓也, 青木朱衣, 仁木亜弥, 岩崎宏樹, 小島直人, 山下正行, 川崎郁勇
第 72 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

22. 超原子価ヨウ素試薬を用いた 5-アルコキシ-4-アリールテトラヒドロフラン-2-オン誘導体の簡便な 合成法の開発
松本卓也, 岡崎紗耶, 青木朱衣, 仁木亜弥, 岩崎宏樹, 小関 稔, 山下正行, 小島直人, 川崎郁勇
第 72 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

23. (+) -Dichroanal A の不斉全合成研究
小関 稔, 鈴木梨佳子, 山北美憂, 福田可南子, 松本卓也, 青木朱衣, 仁木亜弥, 岩崎宏樹, 小島直人, 山下正行, 川崎郁勇
第 72 回 日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

24. 複素環連結部位に着目したハイブリッド型アセトゲニン類の合成と抗腫瘍活性評価
大田海斗, 伏見哲也, 岡村睦美, 赤塚明宣, 旦 慎吾, 岩崎宏樹, 山下正行, 南部寿則, 小島直人
第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2022 年 11 月 23 日

25. イリドによるスピロシクロプロパンの開裂-環化反応
大貫悠太, 増田雄人, 山崎航河, 南部寿則, 矢倉隆之
第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム 2022 年 11 月 29 日

26. SED を用いた N-Allenyl-2-iodoaniline の環化反応による 3-hydroxymethylindole の合成
岩崎宏樹, 近藤彩音, 東莉奈, 山下正行, 小島直人, 南部寿則
第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム 2022 年 11 月 29 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. イリド求核剤を用いるスピロシクロプロパンの開裂-環化反応による炭素環構築法の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
南部 寿則

2. 新規抗がん剤の創製を指向したアセトゲニン誘導体の THF 環部分の構造活性相関研究
日本学術振興会 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 2016 年 4 月 - 2022 年 3 月
小島 直人

産業財産権

1. WO/2022/255499 NOVEL AMP-ACTIVATED PROTEIN KINASE ACTIVATOR
Nakata Susumu, Kojima Naoto

論文

1. バンドウイルカの雄における NK3 受容体拮抗剤の避妊薬としての有用性の検討

五十部有紀, 中村翔, 松田二子, 山本昂輝, 大石真也, 依田貴之, 勝俣悦子, 前多敬一郎

動物園水族館雑誌 64(2) 31-36 2022 年 9 月

2. The Effects of Side-Chain Configurations of a Retro-Inverso-Type Inhibitor on the Human T-Cell Leukemia Virus (HTLV)-1 Protease.

Chiayuki Awahara, Daiki Oku, Saki Furuta, Kazuya Kobayashi, Kenta Teruya, Kenichi Akaji, Yasunao Hattori

Molecules (Basel, Switzerland) 27(5) 2022 年 3 月 2 日

3. Design of Coibamide A Mimetics with Improved Cellular Bioactivity.

Takashi Kitamura, Rikito Suzuki, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Kerry L McPhail, Shinya Oishi

ACS Medicinal Chemistry Letters 13(1) 105-110 2022 年 1 月 13 日

Misc

1. Synthesis and Structural Optimization of Macrocyclic BACE1 Inhibitors with a Hydrophobic Cross-Linked Structure

Kazuya Kobayashi, Takuya Otani, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji

Proceedings of the 36th European and the 12th International Peptide Symposium 137-140 2022 年 11 月

講演・口頭発表等

1. 鏡像モノボディの化学合成法の確立と機能評価

佐藤志乃, 岩本直也, 眞鍋麻彩子, 井貫晋輔, 大野浩章, 野中元裕, 大石真也

第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2022 年 11 月 23 日

2. 麻疹ウイルス膜融合阻害ペプチドの構造最適化研究

山口夕貴, 高原葵, 青木啓輔, 中津亨, 平田和成, 鈴木聡志, 林宏典, 河治久実, 井貫晋輔, 大野浩章, 加藤博章, 村山和隆, 児玉栄一, 大石真也

第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2022 年 11 月 23 日

3. スプラットルシフェラーゼを利用したスクリーニング法による新規 MR1 リガンドの同定と その構造活性相関研究

松岡巧朗, 服部明, 大石真也, 有地法人, 掛谷秀昭, 山崎晶, 大野浩章, 井貫晋輔

第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2022 年 11 月 23 日

4. VEGF 結合活性を示す鏡像 VHH 抗体の探索研究

青木啓輔, 野中元裕, 小田幸穂, 東克暁, 眞鍋麻彩子, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也

第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム 2022 年 11 月 23 日

5. 鏡像 VHH 抗体の免疫原性評価と免疫ライブラリーを用いた配列取得

眞鍋麻彩子, 前田佳夕, 青木啓輔, 薄井友輔, 高橋里菜, 大野浩章, 森瀬讓二, 岡昌吾, 大石真也, 野中元裕

第 95 回日本生化学会大会 2022 年 11 月 9 日

6. Structure-activity relationship study on the P1' structure of a peptidic BACE1 inhibitor and its application to macrocyclic derivatives.

Kazuya Kobayashi, Takuya Otani, Saki Ijiri, Yuki Kawasaki, Hiroki Matsubara, Takahiro Miyagi, Taishi Kitajima, Risa Iseki, Katsuyasu Ishizawa, Naoka Shindo, Kouta Okawa, Kouta Ueda, Syun Ando, Momoka Kawakita, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji

第 59 回ペプチド討論会 2022 年 10 月 27 日

7. Synthesis and functional analysis of mirror-image monobody

Naoya Iwamoto, Yukino Sato, Asako Manabe, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Motohiro Nonaka, Shinya Oishi

第 59 回ペプチド討論会 2022 年 10 月 26 日

8. Synthetic study on microvionin for the stereochemical assignment of the avionin moiety

Ayuta Yamaguchi, Shinsuke Inuki, Norihito Arichi, Shinya Oishi, Hiroaki Ohno

第 59 回ペプチド討論会 2022 年 10 月 26 日

9. Investigation of the immunogenicity of mirror-image single-domain antibody binding to vascular endothelial growth factor

Keisuke Aoki, Motohiro Nonaka, Sakiho Oda, Katsuaki Higashi, Asako Manabe, Shinsuke Inuki, Hiroaki Ohno, Shinya Oishi

第 59 回ペプチド討論会 2022 年 10 月 26 日

10. The effects of side-chain configurations of a retro-inverso-type inhibitor on the human T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) protease.

ChiYuki Awahara, Daiki Oku, Saki Furuta, Kenta Teruya, Akira Sanjoh, Kazuya Kobayashi, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji

第 59 回ペプチド討論会 2022 年 10 月 26 日

11. 抗 MCP-1 人工抗体のミラーイメージ選択

三浦清楓, 近藤太志, 薄井友輔, 大石真也, 藤野公茂, 林剛介, 村上裕

第 12 回 CSJ 化学フェスタ 2022 2022 年 10 月 18 日

12. ペプチド性 BACE1 阻害剤への環状化戦略の応用と架橋構造の最適化

小林数也, 大谷拓也, 服部恭尚, 赤路健一

第 72 回日本薬学会関西支部大会 2022 年 10 月 8 日

13. N-アミジピロリジン型 BACE1 阻害剤の立体異性体および複素環を有する誘導体の合成と活性評価

川上夏輝, 木村蘭希, 服部恭尚, 大石真也, 小林数也

第 72 回日本薬学会関西支部大会 2022 年 10 月 8 日

14. マクロラクトン構造を改変した Coibamide A 誘導体の構造活性相関研究

鈴木力斗, 喜多村隆志, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也

第 72 回日本薬学会関西支部大会 2022 年 10 月 8 日

15. MCP-1 に結合するミラーイメージ人工抗体の創製

三浦清楓, 近藤太志, 薄井友輔, 大石真也, 藤野公茂, 林剛介, 村上裕

第 16 回バイオ関連化学シンポジウム 2022 年 9 月 12 日

16. 可視光レドックス触媒を用いたスピロ環化反応を鍵とする zephyrcarinatine C および D の全合成

井貫晋輔, 竹内春佳, 中川航平, 川邊隆彰, 市村敦彦, 大石真也, 大野浩章

第 64 回天然有機化合物討論会 2022 年 9 月 7 日

17. Synthesis and structural optimization of macrocyclic BACE1 inhibitors with a hydrophobic cross-linked structure.

Kazuya Kobayashi, Takuya Otani, Yasunao Hattori, Kenichi Akaji

36th European Peptide Symposium/12th International Peptide Symposium 2022 年 8 月 29 日

18. メチル基にまつわる小さな話

大石真也

第 54 回若手ペプチド夏の勉強会 2022 年 8 月 9 日

19. 血管内皮増殖因子 VEGF に対して 特異的に結合する鏡像 VHH 抗体の探索

青木啓輔, 野中元裕, 小田幸穂, 東克暁, 眞鍋麻彩子, 井貫晋輔, 大野浩章, 大石真也

第 54 回若手ペプチド夏の勉強会 2022 年 8 月 8 日

20. MAIT 細胞の活性化を担う MR1 リガンドの構造活性相関研究

松岡巧朗, 本園千尋, 服部明, 掛谷秀昭, 山崎晶, 大石真也, 大野浩章, 井貫晋輔

創薬懇話会 in 名古屋 2022 年 7 月 1 日

21. ヒドロキシエチルアミン型 BACE1 阻害剤における P1'位の構造活性相関研究

小林数也, 大谷拓也, 安藤駿, 川北百花, 石沢克康, 井関梨紗, 北嶋太志, 進藤尚加, 大川晃汰, 上田康太, 服部恭尚, 赤路健一

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

22. 1 位を置換したデカヒドロイソキノリンを有する SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の設計と合成研究

板野一就, 西脇侑司, 島恭平, 岸本翔, 大西康司, 吉澤慎一郎, 小林数也, 服部恭尚, 赤路健一

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

23. P1-P3 側鎖間にアリール型架橋構造を導入した大環状 BACE1 阻害剤の合成研究

藤本和也, 大谷拓也, 木村明穂, 内海慈乃, 小林数也, 服部恭尚, 赤路健一

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 鏡像型タンパク質の特性を活かした創薬スキャフォールドの創製と応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月

大石 真也, 野中 元裕

2. 家畜の排卵・卵胞発育制御法の開発に資するエストロゲンフィードバック機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(S) 基盤研究(S) 2021 年 7 月 - 2026 年 3 月

束村 博子, 大蔵 聡, 平林 真澄, 羽田 真悟, 真方 文絵, 上野山 賀久, 大石 真也, 井上 直子, 中村 翔

3. 受容体共役因子による B 型肝炎ウイルス感染制御と創薬研究

肝炎等克服実用化研究事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

大石 真也, 小林 数也

4. ヒドロキシプロリンを基盤とする汎用的プロテアーゼ阻害剤設計戦略の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月

小林 数也

5. CDR グラフトによる抗体様分子ライブラリーの開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 2022 年 6 月 - 2024 年 3 月

野中 元裕, 大石 真也

6. コロナウイルス制圧のための新規膜融合阻害ペプチドの創出と合理的な設計法の確立

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 2021 年 7 月 - 2024 年 3 月

児玉 栄一, 大石 真也

7. Modulation of Protein Biogenesis and Secretion by Natural Product Translocon Ligands

NIH 2019 年 6 月 - 2024 年 1 月

Shinya Oishi

8. 抗ウイルス薬シーズ探索のための鏡像スクリーニング系の構築と応用

武田科学振興財団 薬学系研究奨励 2020 年 11 月 - 2023 年 3 月

大石 真也

9. 構造解析・生物進化学による学際融合は、迅速かつ有効なペプチド PPI 創製に有用である

AMED 創薬基盤推進研究事業 2020 年 6 月 - 2023 年 3 月

大石真也, 小林数也

10. 免疫原性に起因する副作用の回避を指向した鏡像型 VHH 抗体の開発

AMED 創薬基盤推進研究事業 2020 年 6 月 - 2023 年 3 月

野中元裕, 大石真也

11. 鏡像抗体様分子の創製基盤の確立と医薬応用

アステラス病態代謝研究会 研究助成金 2020 年 12 月 - 2022 年 9 月

大石真也

12. 鏡像抗体様分子の探索プラットフォームの構築と機能分子探索への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽) 挑戦的研究(萌芽) 2020 年 7 月 - 2022 年 3 月

大石 真也, 野中 元裕

13. 生体分子の鏡映変換による医薬品探索技術の開発と応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2018 年 4 月 - 2022 年 3 月

大石 真也, 近藤 恭光

14. 免疫機能調節剤の探索に向けた鏡像スクリーニング系の構築と応用

東京生化学研究会 研究奨励金 2020 年 12 月 - 2022 年 3 月

大石真也

15. ケミカルバイオロジー・数理解析を利用した B 型肝炎創薬研究

AMED 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業 2020 年 4 月 - 2022 年 3 月

大石真也, 小林数也

16. 免疫抑制性受容体 TIGIT 阻害活性を有する小分子化合物の開発研究

AMED 次世代がん医療創生研究事業 2016 年 5 月 - 2022 年 3 月

大石真也

生薬学

論文

1.Effects of piperine, a component of pepper (*Piper nigrum*), on herpes simplex virus type-1 in Vero cells

Seikou Nakamura, Tomoyo Namura, Yuka Nishimura

JAASP 11 1-5 2022 年 8 月

2.Analysis of Active Compounds Using Target Protein Cofilin-Cucurbitacins in Cytotoxic Plant *Bryonia cretica*.

Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Moeko Morita, Ayako Ohta, Toshio Morikawa, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura

Toxins 14(3) 2022 年 3 月 16 日

3.Chemical Structures of Phenylbutanoids From Rhizomes of *Zingiber cassumunar*

Seikou Nakamura, Junko Iwami, Yutana Pongpiriyadacha, Souichi Nakashima, Hisashi Matsuda, Masayuki Yoshikawa

Natural Product Communications 17(2) 1934578X2210778-1934578X2210778 2022 年 2 月

4.Construction of sulfur-containing compounds with anti-cancer stem cell activity using thioacrolein derived from garlic based on nature-inspired scaffolds

Taichi Yoneda, Naoto Kojima, Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura

Organic & Biomolecular Chemistry 20(1) 196-207 2022 年

講演・口頭発表等

学会発表

1.薬用植物キク科アーティチョーク含有セスキテルペンラクトン cynaropicrin のがん細胞増殖抑制評価とその標的タンパク質の探索

荒木康佑, 中村誠宏

第 12 回 4 大学連携研究フォーラム 2022 年 11 月 29 日

2.アカネ (*Rubia argyi*) 根部含有成分のがん幹細胞に対する増殖抑制評価

田中珠美, 玉野優果, 月岡淳子, 松本崇宏, 中嶋聡一, 松田久司, 中村誠宏

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 11 日

3.ショウガ科 *Boesenbergia rotunda* 含有シクロヘキセニルカルコン panduratin A の合成とがん幹細胞に対する増殖抑制評価

吉谷優奈, 山下遥加, 高橋彩乃, 小堀由郁子, 玉野優果, 鶴川孔汰, 松本崇宏, 松田久司, 中村誠宏
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 11 日

4.ネギ属植物ニンニク (*Allium sativum*) およびエシャロット (*A. cepa* var. *aggregatum*) を用いた環状含硫黄化合物の単離・合成およびそれらの生成過程の考察

和田 遼, 米田太一, 松田久司, 中村誠宏
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 11 日

5.マイクロ波加熱連続反応を利用した香辛料カレーリーフ由来カルバゾール成分の合成とがん幹細胞増殖抑制評価

鶴川孔汰, 中尾桃菜, 吉谷優奈, 米田太一, 松本崇宏, 篠崎朱里, 吉治 萌, 中村誠宏
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 11 日

6.キク科アーティチョーク (*Cynara scolymus*) 含有セスキテルペンラクトン cynaropicrin のがん細胞に対する抑制作用および親和性を示すタンパク質の解明研究

荒木康佑, 松本朋子, 中嶋聡一, 吉治 萌, 松田久司, 中村誠宏
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 10 日

7.*Bacopa monniera* 由来 A β 結合性低分子化合物による A β の検出と神経保護作用の解析

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木 葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 中村誠宏, 松本崇宏, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 松田久司, 高田和幸
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 10 日

8.Identification for high-affinity proteins to sesquiterpene lactone, cynaropicrin, from leaves of *Cynara scolymus* L. with cytotoxicity and inhibitory activity against nitric oxide production in RAW264.7 cells

Seikou Nakamura, Tomoko Matsumoto, Souichi Nakashima, Yasunao Hattori, Tomoshige Ando, Hisashi Matsuda

The 10th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference 2022 2022 年 7 月 29～31 日

講演

1.薬用食品由来成分を利用した難治性疾患予防・治療薬の開発研究

中村誠宏
日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 11 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

代表

1. アシクロビルリン酸化酵素制御に基づく薬用植物由来抗単純ヘルペスウイルス薬の開発

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2020 年 4 月 - 2023 年 3 月 中村誠宏, 小川慶子, 中嶋聡一

分担

2. 糖化タンパク質による神経新生阻害をターゲットとする新規認知症治療薬シード探索研究

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2021 年 4 月 - 2024 年 3 月 中嶋聡一, 中村誠宏

3. がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(B)

2020 年 4 月 - 2024 年 3 月 松本崇宏, 太田智絵, 中村誠宏, 渡部匡史, 渡辺徹志, 齊藤洋平

4. ドーパミン受容体を介する肺線維化の病因機序の解明と新規治療薬の開発

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2020 年 4 月 - 2023 年 3 月 川人 豊, 中村誠宏, 細木誠之, 河野正孝

薬品分析学

論文

1. Spectroscopic study of cyclen-based F-19 NMR probe for detection of hydrogen sulfide

Shigehiko Takegami, Yuki Aramoto, Atsuko Konishi

ANALYTICAL SCIENCES 38(5) 813-820 2022 年 5 月

2. Bortezomib is an effective enhancer for chemical probe-dependent superoxide detection

Misaki Matsumoto, Hikari Sawada, Kazumi Iwata, Masakazu Ibi, Nozomi Asaoka, Masato Katsuyama, Kaori Shintani-Ishida, Hiroshi Ikegaya, Shigehiko Takegami, Atsushi Umemura, Chihiro Yabe-Nishimura

Frontiers in Medicine 9 2022 年 12 月 21 日

書籍等出版物

1. 薬学機器分析 第3版

萩中淳, 武上茂彦 (担当: 共編者(共編著者))

廣川書店 2022 年 3 月 (ISBN: 9784567255776)

講演・口頭発表等

1. 初年次教育の「場」とは何か? : 3 大学のコロナ以前・以後の事例を通して

武上茂彦

第 27 回 FD フォーラム 第 8 分科会 2022 年 2 月

2. 電気化学発光および水晶振動子マイクロバランス法の信号増幅のための多粒子結合型リポソームの調製

田中亜季, 小西敦子, 武上茂彦

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

3. 電気化学発光および水晶振動子マイクロバランス法における多粒子結合型リポソームの信号増幅効果の検討

田中亜季, 小西敦子, 武上茂彦

第 82 回分析化学討論会 2022 年 5 月

4. 発光現象を活用した“人に優しい”診断・分析技術の開発

武上茂彦

大阪府立茨木高等学校 学問発見講座 2022 年 7 月

5.疎水性イオン液体含有コルチゾールインプリントゲルのワンステップ作製法の検討

松本侑季奈, 小西敦子, 中條恵介, 田中亜季, 武上茂彦

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.多粒子結合イオン液体ナノ粒子を用いた超高感度電気化学発光イムノアッセイ法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

武上茂彦

論文

1. Population pharmacokinetics of linezolid and its major metabolites PNU-142300 and PNU-142586 in adult patients.

Norihiro Sakurai, Hiroshi Kawaguchi, Junko Abe, Gaku Kuwabara, Waki Imoto, Wataru Shibata, Koichi Yamada, Hiroyuki Yasui, Yasutaka Nakamura, Hiroshi Kakeya

Pharmacotherapy 42(9) 707-715 2022 年 9 月

2. Copper-mediated radioiodination and radiobromination via aryl boronic precursor and its application to $^{125}\text{I}/^{77}\text{Br}$ -labeled prostate-specific membrane antigen imaging probes.

Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Ichiro Sasaki, Shigeki Watanabe, Yasuhiro Ohshima, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Manami Koda, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui, Noriko S. Ishioka

Bioorganic & Medicinal Chemistry 69 116915 2022 年 9 月

3.L-Serine-Modified Poly-L-Lysine as a Biodegradable Kidney-Targeted Drug Carrier for the Efficient Radionuclide Therapy of Renal Cell Carcinoma.

Hidemasa Katsumi, Sho Kitada, Shintaro Yasuoka, Rie Takashima, Tomoki Imanishi, Rina Tanaka, Satoru Matsuura, Hiroyuki Kimura, Hidekazu Kawashima, Masaki Morishita, Akira Yamamoto

Pharmaceutics 14(9) 1946 2022 年 9 月 14 日

4. Novel synthesis of an ^{18}F aryl boronic acid ester as a reagent for ^{18}F -labeling via Suzuki coupling.

Yusuke Yagi, Hiroyuki Kimura, Yuto Kondo, Takahiro Higuchi

Tetrahedron Letters 104 154010 2022 年 7 月

5. Sophisticated expression responses of ZNT1 and MT in response to changes in the expression of ZIPs.

Shino Nagamatsu, Yukina Nishito, Hana Yuasa, Nao Yamamoto, Taiki Komori, Takuya Suzuki, Hiroyuki Yasui, Taiho Kambe

Scientific reports 12(1) 7334 2022 年 5 月 5 日

6. Nicotinic Acetylcholine Receptors and Microglia as Therapeutic and Imaging Targets in Alzheimer's Disease.

Kazuyuki Takata, Hiroyuki Kimura, Daijiro Yanagisawa, Koki Harada, Kaneyasu Nishimura, Yoshihisa Kitamura, Shun Shimohama, Ikuo Tooyama

Molecules 27(9) 2780 2022 年 4 月

7. Preventive Effects of β -Cryptoxanthin, a Potent Antioxidant and Provitamin A Carotenoid, on Lifestyle-Related Diseases—A Central Focus on Its Effects on Non-Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD).

Azusa Nishino, Takashi Maoka, Hiroyuki Yasui

Antioxidants 11(1) 43 2022 年 1 月

8. Exercise Performance Upregulatory Effect of R- α -Lipoic Acid with γ -Cyclodextrin.

Yuki Hashimoto, Katsuhiko Yoshizawa, Yuka Kaido, Akiko Takenouchi, Keiji Terao, Hiroyuki Yasui, Yutaka Yoshikawa

Nutrients 14(1) 21 2022 年 1 月

MISC

1.腫瘍を標的としたラジオセラノスティクス創薬と臨床応用.

木村寛之

「アクチノイド物性化学とその応用」専門研究会 報告書 : [2022] 44-48 2022 年 3 月

書籍等出版物

1.放射性医薬品開発研究への招待

公益社団法人日本アイソトープ協会 第 2 期理工・ライフサイエンス部会 RI 利用推進専門委員会 創薬研究レビュー作成ワーキンググループ 編 (木村寛之 担当:分担執筆, 範囲: 第 2 章 放射性医薬品開発 (設計・合成・標識編); 第 9 章 セラノスティクス; 特集 RI を用いた医薬研究者のキャリアパス)

公益社団法人日本アイソトープ協会 2022 年 4 月

2.化学物質の分析

日本薬学会 編 (安井裕之 担当:分担執筆, 範囲:第 8 章 分析の準備 SBO 28; 第 9 章 分析技術 SBO 29; アドバンスト G)

東京化学同人 2022 年 3 月 (ISBN: 9784807917280)

講演・口頭発表等

1.Neuroprotection and detection of A β by a low molecular weight compound derived from natural product.

Aina Fukuda, Souichi Nakashima, Yoshimi Oda, Kaneyasu Nishimura, Aoi Hanaki, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Kimura, Seikou Nakamura, Takahiro Matsumoto, Kazuyuki Takata

The 96th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society 2022 年 12 月 1 日

2.ロボットによる分注自動化のための電動ピペット用チップ着脱デバイスの開発.

藤原康宣, 戸谷一英, 菊池華央, 上野裕太郎, 佐賀駿磨, 八重樫温人, 木村寛之, 茂木克雄, 鎌田智也, 小此木孝仁

第 39 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム 2022 年 11 月 16 日

3. Microfluidic technology for making string-like cell tissues.

Katsuo Mogi, Hiroyuki Kimura, Naoki Takada

11th IEEE CPMT Symposium Japan 2022 年 11 月 9 日

4. Synthesis of Radioiodinated Peptides by Direct and Indirect Radiolabeling Using a Copper Mediated Iododeboronation.

Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui

The 5th International Symposium on Halogen Bonding 2022 年 11 月 8 日

5. Synthesis and evaluation of a novel sugar conjugated platinum complex labeled with ^{191}Pt .

Marina Omokawa, Hiroyuki Kimura, Yuichi Hatsukawa, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui

65th Radiobioassay & Radiochemical Measurements Conference 2022 年 11 月 2 日

6. 放射線治療における分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の役割.

木村寛之

2022 年度 日本放射線技術学会近畿支部 秋季勉強会 2022 年 10 月 8 日

7. チオウレアおよび 1,3-ジメチルチオウレアは $^1\text{O}_2$ ならびに $\cdot\text{OH}$ に対して効率的な消去活性を有する抗酸化物質である.

岡本未奈子, 安井裕之

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

8. ビートによる生活習慣病予防/治療の探索研究.

赤松紗衣, 安井裕之, 吉川 豊

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

9. 糖尿病予防を目的としたインスリン様作用を持つ亜鉛錯体のアルドース還元酵素阻害活性の評価.

山崎千恵子, 内藤行喜, 吉川 豊, 安井裕之

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

10. Development and evaluation of molecular imaging probes targeting EphA2 receptor.

Takenori Furukawa, Hiroyuki Kimura, Akane Yoshimura, Hiroyuki Yasui

The World Molecular Imaging Congress 2022 2022 年 10 月 1 日

11.¹⁹¹Pt 標識白金錯体の合成とマウスにおける体内分布評価.

面川真里奈, 木村寛之, 初川雄一, 河嶋秀和, 安井裕之

第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会/第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月 17 日

12.Erythropoietin-producing hepatocellular A2 受容体を標的とした放射性ヨウ素標識低分子化合物の合成と評価.

古川武典, 木村寛之, 志賀智華, 吉村茜音, 屋木祐亮, 河嶋秀和, 安井裕之

第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会/第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月 17 日

13.銅触媒を用いた脱ホウ素ハロゲン化反応に基づく放射性ヨウ素標識ペプチドの効率的合成.

近藤悠斗, 木村寛之, 佐々木美音, 服部恭尚, 河嶋秀和, 安井裕之

第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会/第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月 17 日

14.銅触媒下脱ホウ素ヨウ素化反応及びヒュスゲン環化付加反応の連続制御による放射性ヨウ素標識ペプチドの効率的合成.

近藤悠斗, 木村寛之, 小池澄奈, 田村優衣, 服部恭尚, 安井裕之

第 25 回ヨウ素学会シンポジウム 2022 年 9 月 13 日

15.Bacopa monniera 由来 Aβ 結合性低分子化合物による Aβ の検出と神経保護作用の解析.

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木 葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 中村誠宏, 松本崇宏, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 松田久司, 高田和幸

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 10 日

16.ミネラル摂取による骨粗鬆症モデルマウスの骨代謝に及ぼす影響.

吉川 豊, 新垣あやね, 新谷路子, 鴨志田伸吾, 内藤行喜, 安井裕之

第 33 回日本微量元素学会学術集会 2022 年 9 月 9 日

17.炎症反応の惹起を起因とする肝臓中の分布変動による体内亜鉛調節機構.

安井裕之, 中川善太郎, 西藤有希奈

第 33 回日本微量元素学会学術集会 2022 年 9 月 9 日

18.ボロン前駆体を介した放射性ヨウ素化反応及びヒュスゲン環化付加反応の単一銅触媒による連続的な反応制御.

近藤悠斗, 木村寛之, 田村優衣, 服部恭尚, 安井裕之

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月 7 日

19.新規糖連結白金錯体の ^{191}Pt 標識体の合成と薬剤特性の評価.

面川真里奈, 木村寛之, 初川雄一, 河嶋秀和, 安井裕之

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月 7 日

20.Erythropoietin-producing hepatocellular A2 受容体を標的とした腫瘍イメージングプローブの開発.

古川武典, 木村寛之, 志賀智華, 吉村茜音, 屋木祐亮, 河嶋秀和, 安井裕之

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月 7 日

21. ^{68}Ga を用いた標識法と PET イメージングプローブの開発.

木村寛之

第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月 6 日

22.抗糖尿病効果をもつ亜鉛錯体の終末糖化産物(AGEs)生成阻害作用の検討.

内藤行喜, 塚本勝之, 西林妃菜, 八木雅之, 吉川 豊, 安井裕之

第 31 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2022 年 6 月 18 日

23. γ -シクロデキストリン包接 R- α -リポ酸の運動パフォーマンス向上効果について.

橋本優希, 義澤克彦, 海渡祐香, 竹之内明子, 寺尾啓二, 安井裕之, 吉川 豊

第 31 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2022 年 6 月 18 日

24.コラーゲン分子の線維形成を阻害する金属イオンのメタロキス解析.

田中詠吉, 福井ひより, 宇野莉央, 安井裕之

第 31 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム 2022 年 6 月 18 日

25.Sophisticate responses of ZNT1 and MT to alteration of ZIP protein expression.

Yukina Nishito, Shino Nagamatsu, Hiroyuki Yasui, Taiho Kambe

the International Conference of Trace Elements and Minerals 2022 2022 年 6 月 7 日

26.Imaging of beta cell using PET probes.

Hiroyuki Kimura

Joint symposium supported by Japan Society for the Promotion of Science and Academy of Finland. 2022 年 6 月 7 日

27.最新核医学における標識化合物の基礎と応用.

木村寛之

第 22 回日本核医学会春季大会スポンサーズセミナー4 2022 年 5 月 7 日

28.Development and clinical application of molecular Imaging probes targeting prostate specific

membrane antigen (PSMA).

Hiroyuki Kimura

2022 National Taiwan University School of Pharmacy Research Day and International Conference.

2022 年 5 月 6 日

29.F-18 標識ボロン酸誘導体との鈴木カップリング反応を用いた新規 F-18 標識法の開発.

屋木祐亮, 近藤悠斗, 樋口隆弘, 木村寛之

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 28 日

30.新規糖連結白金錯体を用いたがん治療薬の開発.

面川真里奈, 木村寛之, 初川雄一, 河嶋秀和, 安井裕之

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

31.NSAIDs 誘起性小腸傷害における亜鉛の役割.

大塚勇輝, 来嶋ひな, 中井梨華子, 安井裕之, 天ヶ瀬紀久子

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

32.潰瘍性大腸炎の年齢に依存した発症頻度と亜鉛動態との関連性評価.

葛原寛子, 嶋田佳子, 西藤有希奈, 安井裕之

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

33.老化に伴う金属代謝異常に起因する神経変性疾患の病態発症・進行の分子メカニズムの解明.

上宇宿帆香, 西藤有希奈, 嶋田佳子, 安井裕之

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

34.ボロン酸前駆体を用いた銅触媒下での放射性ヨウ素化反応を用いたペプチド直接標識法に与える含水溶媒の影響.

近藤悠斗, 木村寛之, 佐々木美音, 小池澄奈, 服部恭尚, 安井裕之

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

35.腫瘍を標的としたラジオセラノスティクス創薬と臨床応用.

木村寛之

2021 年度 京都大学複合原子力科学研究所 専門研究会「アクチノイド物性化学とその応用」2022 年 3 月 3 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.亜鉛要求酵素の活性変動を分子基盤とした炎症性腸疾患の病態解析と新規治療戦略の探索

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

安井 裕之

2.原発性アルドステロン症の核医学検査法の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

木村 寛之

3.亜鉛錯体を用いたインスリン抵抗性改善効果・糖尿病の発症予防効果へのチャレンジ

日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2021 年 8 月 - 2023 年 3 月

内藤 行喜

4.RT/AR が切り開く医薬品調製デジタルトランスフォーメーション

科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) トライアウト 2022 年 10 月 - 2024 年 3 月

木村 寛之

論文

1.Mechanisms of enhanced aggregation and fibril formation of Parkinson's disease-related variants of α -synuclein.

Takashi Ohgita, Norihiro Namba, Hiroki Kono, Toshinori Shimanouchi, Hiroyuki Saito

Scientific reports 12(1) 6770-6770 2022 年 4 月 26 日

2.Current Status and Challenges of Analytical Methods for Evaluation of Size and Surface Modification of Nanoparticle-Based Drug Formulations.

Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Yosuke Demizu, Hiroyuki Saito, Ken-Ichi Izutsu, Kumiko Sakai-Kato

AAPS PharmSciTech 23(5) 150-150 2022 年 5 月 20 日

3.Design and Synthesis of 6-O-Phosphorylated Heparan Sulfate Oligosaccharides to Inhibit Amyloid β Aggregation.

Kenji Uchimura, Kazuchika Nishitsuji, Li-Ting Chiu, Takashi Ohgita, Hiroyuki Saito, Fabrice Allain, Veeranjanyulu Gannedi, Chi-Huey Wong, Shang-Cheng Hung

Chembiochem : a European journal of chemical biology 23(15) e202200191 2022 年 8 月 3 日

4.Analysis of the interaction of cyclosporine congeners with cell membrane models.

Mizuka Nakao, Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Hiroyuki Saito, Yosuke Demizu, Ken-Ichi Izutsu, Kumiko Sakai-Kato

Journal of pharmaceutical and biomedical analysis 218 114874-114874 2022 年 9 月 5 日

5. Effect of hydrophobic moment on membrane interaction and cell penetration of apolipoprotein E-derived arginine-rich amphipathic α -helical peptides

Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Mana Kotani, Hiroki Kono, Chihiro Saito, Hiroko Tamagaki-Asahina, Kazuchika Nishitsuji, Kenji Uchimura, Takeshi Sato, Ryuji Kawano, Kumiko Sakai-Kato, Ken-ichi Izutsu, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 12(1) 2022 年 12 月

6.Temperature sensitivity of Notch signaling underlies species-specific developmental plasticity and robustness in amniote brains

Nomura T, Nagao K, Shirai R, Gotoh H, Umeda M, Ono K

Nature Communications 13 96 2022 年

7.Cell-autonomous control of intracellular temperature by unsaturation of phospholipid acyl chains

Murakami A, Nagao K, Sakaguchi R, Kida K, Hara Y, Mori Y, Okabe K, Harada Y, Umeda M
Cell Reports 38(11) 110487-110487 2022 年

8.Regulation of thermoregulatory behavior by commensal bacteria in Drosophila

Suito T, Nagao K, Juni N, Hara Y, Sokabe T, Atomi H, Umeda M
Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 86(8) 1060-1070 2022 年

9.The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration

Hirano K, Tsuchiya M, Shiomi A, Takabayashi S, Suzuki M, Ishikawa Y, Kawano Y, Takabayashi Y, Nishikawa K, Nagao K, Umemoto E, Kitajima Y, Ono Y, Nonomura K, Shintaku H, Mori Y, Umeda M, Hara Y
Life Science Alliance 6(2) e202201783 2022 年

Misc

1.エクソソームを含む細胞外小胞の特性解析に利用されるナノトラッキング解析法

加藤くみ子, 八幡志穂, 原矢佑樹, 扇田隆司, 出水庸介, 斎藤博幸, 伊豆津健一
Pharm Tech Japan 38(2) 2022 年

2. リン脂質輸送による細胞の変形能制御

塩見 晃史, 長尾 耕治郎, 梅田 眞郷
生化学 94(1) 108-111 2022 年 2 月

3. リン脂質の構造と分布の制御を介した細胞機能の調節機構

長尾 耕治郎
膜 47(5) 297-302 2022 年 9 月

4. 昆虫の体温調節行動を司る因子

水藤 拓人, 長尾 耕治郎, 梅田 眞郷
実験医学 40(19) 3085-3090 2022 年 12 月

5.速度論的・熱力学的解析によるタンパク質凝集・アミロイド線維化機構の解明

水口(深瀬) 智晴, 扇田 隆司, 斎藤 博幸
生物物理 62(4) 224-227 2022 年

書籍等出版物

1.Measurement of Thermoregulatory Behavior in *Drosophila melanogaster*

Suito T, Nagao K, Kai M, Juni N, Sokabe T, Umeda M

Behavioral Neurogenetics 77-91 2022 年

講演・口頭発表等

1.アミロイドーシス変異 apoA-I の凝集・線維化過程の速度論的・熱力学的解析

南波憲宏、扇田隆司、島内寿徳、斎藤博幸

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

2.ヒト及びマウス α シヌクレインの凝集・線維化に対する N 末側変異の影響

河野弘樹、鎌田真央、扇田隆司、斎藤博幸

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

3.新規抗アポ E モノクローナル抗体を用いたアポ E アイソフォーム特異的検出系の構築

坂井瑚都、中野未悠、扇田隆司、森田いずみ、大山浩之、小林典裕、斎藤博幸

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

4.ヒトとマウスの α シヌクレインの比較による線維化制御機構の解析

扇田隆司、河野弘樹、森田いずみ、大山浩之、島内寿徳、小林典裕、斎藤博幸

第 43 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 2022 年 10 月 6 日

5. α シヌクレインの線維化及び細胞毒性に対する高凝集性領域の寄与

河野弘樹、鎌田真央、南波憲宏、扇田隆司、森田いずみ、大山浩之、長尾耕治郎、小林典裕、斎藤博幸

第 72 回薬学会関西支部大会 2022 年 10 月 8 日

6.脂質膜環境におけるヒト及びマウス α シヌクレインの凝集・線維化挙動

扇田隆司、河野弘樹、島内寿徳、斎藤博幸、

膜シンポジウム 2022 2022 年 11 月 9 日

7.ショウジョウバエ細胞におけるリン脂質の構造と分布の制御

長尾耕治郎

第 95 回日本生化学会大会 2022 年 11 月 10 日

8.アポ E アイソフォームを特異的に検出可能なイムノアッセイ系の構築

坂井瑚都、中野未悠、扇田隆司、木口裕貴、森田いずみ、大山浩之、長尾耕治郎、小林典裕、斎藤博幸

第 12 回京都四大学連携研究フォーラム 2022 年 11 月 29 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. アミロイド共存分子によるタンパク質凝集・線維化制御機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

斎藤 博幸

2. 膜脂質リモデリングを介する細胞自律的な温度適応機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

長尾 耕治郎

3. 細胞外基質による細胞機能制御機構の包括的理解とその応用基盤の研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(A) 2021 年 4 月 - 2025 年 3 月

木岡 紀幸, 阿部 雄一, 長尾 耕治郎, 小段 篤史

4. ショウジョウバエの温度応答と適応を決定づける脂質の同定

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2021 年 4 月 - 2025 年 3 月

曾我部 隆彰, 長尾 耕治郎

5. アミロイド凝集核を構成する異常型 α シヌクレインの構造特性の物理化学的解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

扇田 隆司

論文

1. Formation of N-acyl-phosphatidylethanolamines by cytosolic phospholipase A2 ϵ in an ex vivo murine model of brain ischemia.
S M Khaledur Rahman, Zahir Hussain, Katsuya Morito, Naoko Takahashi, Mohammad Mamun Sikder, Tamotsu Tanaka, Ken-Ichi Ohta, Masaki Ueno, Hiroo Takahashi, Tohru Yamamoto, Makoto Murakami, Toru Uyama, Natsuo Ueda
Biochimica et biophysica acta. Molecular and cell biology of lipids 1867(12) 159222-159222
2022 年 12 月
2. Expression profile of the zinc transporter ZnT3 in taste cells of rat circumvallate papillae and its role in zinc release, a potential mechanism for taste stimulation
Kentaro Nishida, Saho Bansho, Akiko Ikukawa, Teruyo Kubota, Akihiro Ohishi, Kazuki Nagasawa
European Journal of Histochemistry 66(4) 2022 年 11 月 10 日
3. Short peptides derived from hGAPDH exhibit anti-cancer activity.
Junjiro Yoshida, Kentaro Takayama, Manabu Kawada
Bioorganic & medicinal chemistry 71 116953-116953 2022 年 10 月 1 日
4. Combination therapy with anamorelin and a myostatin inhibitor is advantageous for cancer cachexia in a mouse model.
Kako Hanada, Kunpei Fukasawa, Hiroki Hinata, Shú Imai, Kentaro Takayama, Hideyo Hirai, Rina Ohfusa, Yoshio Hayashi, Fumiko Itoh
Cancer science 113(10) 3547-3557 2022 年 10 月
5. Alteration of sweet taste receptor expression in circumvallate papillae of mice with decreased sweet taste preference induced by social defeat stress
Yuka Takahata, Waka Yoshimoto, Eri Kuwagaki, Yukie Yamada, Kazuki Nagasawa
The Journal of Nutritional Biochemistry 107 109055-109055 2022 年 9 月
6. Chemical Synthesis of an HIV-1 Protease Analog with Some Amides in a Polypeptide Main Chain Replaced by Disulfide Bonds
Yan Cui, Akihiro Taguchi, Hayate Shida, Sho Konno, Kentaro Takayama, Atsuhiko Taniguchi, Yoshio Hayashi
Bulletin of the Chemical Society of Japan 95(8) 1156-1162 2022 年 8 月 15 日

7. Development of Myostatin Inhibitory d-Peptides to Enhance the Potency, Increasing Skeletal Muscle Mass in Mice.
Kentaro Takayama, Keisuke Hitachi, Hideyuki Okamoto, Mariko Saitoh, Miki Odagiri, Rina Ohfusa, Takahiro Shimada, Akihiro Taguchi, Atsuhiko Taniguchi, Kunihiro Tsuchida, Yoshio Hayashi
ACS medicinal chemistry letters 13(3) 492-498 2022 年 3 月 10 日
8. Characterization of uptake and metabolism of very long-chain fatty acids in peroxisome-deficient CHO cells.
Hanif Ali, Katsuya Morito, Rumana Yesmin Hasi, Mutsumi Aihara, Junji Hayashi, Ryushi Kawakami, Kaori Kanemaru, Koichiro Tsuchiya, Kazunori Sango, Tamotsu Tanaka
Biochimica et biophysica acta. Molecular and cell biology of lipids 1867(2) 159088-159088 2022 年 2 月
9. Dextran sulfate sodium-induced colitis in C57BL/6J mice increases their susceptibility to chronic unpredictable mild stress that induces depressive-like behavior.
Miki Komoto, Ayumi Asada, Yasuyuki Ohshima, Kayo Miyanaga, Hirotooshi Morimoto, Takeshi Yasukawa, Katsuya Morito, Kentaro Takayama, Yoshinobu Uozumi, Kazuki Nagasawa
Life sciences 289 120217-120217 2022 年 1 月 15 日
10. Lysophosphatidic acid, ceramide 1-phosphate and sphingosine 1-phosphate in peripheral blood of patients with idiopathic pulmonary fibrosis.
Tamotsu Tanaka, Kazuya Koyama, Naoko Takahashi, Katsuya Morito, Hanif Ali, Momoyo Azuma, Kozo Kagawa, Hiroshi Kawano, Rumana Yesmin Has, Mutsumi Aihara, Yasuhiko Nishioka
The journal of medical investigation : JMI 69(3.4) 196-203 2022 年
11. Prophylactic administration of magnesium oxide prevents dextran sulfate sodium-induced colonic injury in mice.
Kayo Miyanaga, Ayumi Asada, Miki Komoto, Yasuyuki Ohshima, Hirotooshi Morimoto, Takeshi Yasukawa, Ruka Matsuura, Katsuya Morito, Kentaro Takayama, Yoshinobu Uozumi, Kazuki Nagasawa
Biological & pharmaceutical bulletin 45(9) 1312-1320 2022 年
12. Peptide Tool-Driven Functional Elucidation of Biomolecules Related to Endocrine System and Metabolism.
Kentaro Takayama
Chemical & pharmaceutical bulletin 70(6) 413-419 2022 年

講演・口頭発表等

1. 社会敗北ストレス負荷マウスの脳における生理活性脂質及びその代謝酵素の解析
森戸克弥, 西村由紀, 原悠介, 羽尻光佑, 安川岳志, 森本博俊, 高山健太郎, 魚住嘉伸, 長澤一樹
第 95 回日本生化学会大会 2022 年 11 月
2. マウスにおけるオキサリプラチン投与によるうつ様所見誘発について
秋永彩華, 築部涼子, 茂木啓佑, 森戸克弥, 高山健太郎, 長澤一樹
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月
3. オキサリプラチン投与マウスにおける慢性的予測不能軽度ストレスに対する感受性の変化に関する研究
築部涼子, 秋永彩華, 茂木啓佑, 安川岳志, 松浦留架, 森本博俊, 森戸克弥, 高山健太郎, 魚住嘉伸, 長澤一樹
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月
4. 社会性低下マウスにおけるニューロメジン U 及びその受容体の mRNA 発現量解析
野本 明日香, 鈴木 優衣, 森戸 克弥, 長澤 一樹, 高山 健太郎
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月
5. 社会敗北ストレス負荷マウス脳の各領域における生理活性脂質代謝酵素発現の解析
森戸克弥, 西村由紀, 原悠介, 羽尻光佑, 高山健太郎, 長澤一樹
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月
6. Molecular function of the C-terminal amidated asparagine-deleted peptide derived from endogenous neuromedin U
K. Takayama, K. Mori, R. Saitoh, Y. Sasaki, A. Taguchi, A. Taniguchi, M. Miyazato, Y. Hayashi
The 59th Japanese Peptide Symposium 2022 年 10 月
7. Dextran sulfate sodium-induced colitis in C57BL/6J mice increases their susceptibility to chronic unpredictable mild stress that induces depressive-like behavior
Kazuki Nagasawa, Miki Komoto, Ayumi Asada, Yasuyuki Ohshima, Kayo Miyanaga, Hirotooshi Morimoto, Takeshi Yasukawa, Katsuya Morito, Yoshinobu Uozumi, Kentaro Takayama
Neuro 2022 2022 年 6 月
8. オキサリプラチンの PEG リポソーム化による腸内細菌叢の変化への影響
茂木啓佑, 森戸克弥, 高山健太郎, 安川岳志, 森本博敏, 松浦留架, 魚住嘉伸, 石田竜弘, 長澤一樹
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

9. 2 型糖尿病モデルラットの味感受性及び有郭乳頭における味受容体発現量の変動について
藤田菜摘, 森分美穂, 田中詩乃, 森戸克弥, 高山健太郎, 長澤一樹
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月
10. 学生の総合的判断力醸成を目的とした栄養化学実習におけるアクティブラーニングの取り組み
高田哲也, 長澤一樹, 高山健太郎, 森戸克弥, 徳山友紀, 金瀬薫, 高尾郁子, 河野享子, 平山恵津子,
木村徹, 藤原洋一
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月
11. ヒト 2 型ニューロメジン U 受容体に対して選択的部分作動活性を示す新規分子基盤の発見
高山 健太郎, 森 健二, 齊藤 梨沙, 佐々木 優羽, 森戸 克弥, 田口 晃弘, 谷口 敦彦, 宮里 幹也,
長澤 一樹, 林 良雄
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月
12. 社会敗北ストレス負荷マウスの脳におけるスフィンゴ脂質代謝酵素発現の解析
森戸 克弥, 西村 由紀, 原 悠介, 羽尻 光佑, 安川 岳志, 森本 博俊, 高山 健太郎, 魚住 嘉伸, 長
澤 一樹
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 抗がん剤のうつ病発症リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証
日本学術振興会: 科学研究費助成事業 基盤研究 C
2022 年 4 月 - 2026 年 3 月 長澤一樹, 森戸克弥, 高山健太郎, 村木優一
2. 白血球細胞外トラップを標的としたクラッシュシンドローム新規治療薬の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月
平橋 淳一, 高山 健太郎
3. 好酸球性副鼻腔炎に対するニューロメジンの機能解析と治療薬への応用
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月
若林 健一郎, 神崎 晶, 高山 健太郎
4. 1 型ニューロメジン U 受容体アンタゴニストの創出と 2 型炎症克服のための創薬基盤構築
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月
高山 健太郎
5. うつ病マウス脳中セラミド 1-リン酸量を減少させる酵素の同定

日本私立学校振興・共済事業団 2021 年度若手・女性研究者奨励金 2021 年 4 月 - 2022 年 3 月
森戸克弥

産業財産権

1. 特許第 7201967 号 ペプチドもしくはその薬学的に許容される塩、またはそれらのプロドラッグ
林 良雄, 高山 健太郎, 宮里 幹也, 寒川 賢治, 森 健二, 山本 昌, 坂根 稔康
2. 特許第 7181550 号 ペプチド、その薬学的に許容される塩、またはそれらのプロドラッグ、およびそれらの用途
林 良雄, 高山 健太郎, 宮里 幹也, 寒川 賢治, 森 健二

論文

1. Anti-proliferative effects of iridoids from *Valeriana fauriei* on cancer stem cells

Hayato Yoshikawa, Takahiro Matsumoto, Takahiro Kitagawa, Masaya Okayama, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Tetsushi Watanabe

International journal of molecular sciences 23(22) 2022 年 11 月

2. Chemical structures and cell death inducing activities of constituents isolated from *Hibiscus tiliaceus*

Takahiro Kitagawa, Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Tetsushi Watanabe

Heterocycles 104(8) 1477-1477 2022 年 6 月

3. Comparison of the concentration of suspended particles and their chemical composition near the ground surface and dust extinction coefficient by LIDAR

Naoko Honda, Souleymane Coulibaly, Kunihiro Funasaka, Mizuka Kido, Tadashi Oro, Atsushi Shimizu, Takahiro Matsumoto, Tetsushi Watanabe

Biological and Pharmaceutical Bulletin 45(6) 709-719 2022 年 6 月

4. Prevention of tumor progression in inflammation-related carcinogenesis by anti-inflammatory and anti-mutagenic effects brought about by ingesting fermented brown rice and rice bran with *Aspergillus oryzae* (FBRA)

Hideyuki Nemoto, Marina Otake, Takahiro Matsumoto, Runa Izutsu, Jumond P. Jehung, Keisuke Goto, Mitsuhiko Osaki, Masafumi Mayama, Masataka Shikanai, Hiroshi Kobayashi, Tetsushi Watanabe, Futoshi Okada

Journal of Functional Foods 88 2022 年 1 月

5. Chemical structures and induction of cell death via heat shock protein inhibition of the prenylated phloroglucinol derivatives isolated from *Hypericum erectum*

Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Erika Ohnishi, Masaya Okayama, Takahiro Kitagawa, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Naoto Kojima, Masayuki Yamashita, Tetsushi Watanabe

Fitoterapia 156 105097-105097 2022 年 1 月

6. Construction of sulfur-containing compounds with anti-cancer stem cell activity using thioacrolein derived from garlic based on nature-inspired scaffolds

Taichi Yoneda, Naoto Kojima, Takahiro Matsumoto, Daisuke Imahori, Tomoe Ohta, Tatsusada Yoshida, Tetsushi Watanabe, Hisashi Matsuda, Seikou Nakamura

Misc

1.熱ショックタンパク質を標的とした天然有機化合物による抗がん剤抵抗性の改善

松本 崇宏, 齊藤 洋平

ファルマシア 58(12) 1105-1109 2022 年 12 月

2.認知症の進行に伴い増悪した糖尿病患者への介入

上妻 加奈, 松本 崇宏, 辻本 雅之, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 3(1) 108-111 2022 年 7 月

3.感染性心内膜炎の治療中に生じた薬剤熱

多賀野 正嗣, 松本 崇宏, 辻本 雅之, 藤村 保夫, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 3(1) 130-134 2022 年 7 月

4.2 型糖尿病患者に対する PL 配合顆粒の漫然投与による口渇症状が薬剤師の介入によって改善された一症例

中野 純希, 今西 孝至, 松本 崇宏, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 3(1) 146-150 2022 年 7 月

講演・口頭発表等

1.がん再発予防を目指した *Penicillium maximae* 由来 HSP 阻害物質の探索

松本崇宏, 大西英里加, 北川翔大, 渡辺徹志

日本環境変異原ゲノム学会第 51 回大会 2022 年 11 月

2.上皮サイトカイン TSLP 遺伝子の発現誘導能評価系の作製及び大気粉塵抽出物による評価

林真由, 山岸伸行, 山村由貴, 岡市彩里, 西田圭佑, 廣川大雅, 松本崇宏, 渡辺徹志

第 72 回日本薬学会関西支部総会 2022 年 10 月

3.新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤のメカニズム解明

北川翔大, 松本崇宏, 渡辺徹志

第 72 回日本薬学会関西支部総会 2022 年 10 月

4.ショウガ科 *Boesenbergia rotunda* 含有シクロヘキセニルカルコン panduratin A の合成とがん幹細胞に対する増殖抑制評価

吉谷優奈, 山下遥加, 高橋彩乃, 小堀由郁子, 玉野優果, 鶴川孔汰, 松本崇宏, 松田久司, 中村誠宏

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

5.アカネ (*Rubia argyi*) 根部含有成分のがん幹細胞に対する増殖抑制評価

田中珠美, 玉野優果, 月岡淳子, 松本崇宏, 中嶋聡一, 松田久司, 中村誠宏

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

6.抗がん剤有害事象の回避を目指した *Penicillium maximae* 由来 HSP105 阻害物質の探索

松本崇宏, 大西英里加, 北川翔大, 太田智絵, 吉田達貞, 渡辺徹志

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

7.マイクロ波加熱連続反応を利用した香辛料カレーリーフ由来カルバゾール成分の合成とがん幹細胞増殖抑制評価

鶴川孔汰, 中尾桃菜, 吉谷優奈, 米田太一, 松本崇宏, 篠崎朱里, 吉治萌, 中村誠宏

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

8.*Bacopa monniera* 由来 A β 結合性低分子化合物による A β の検出と神経保護作用の解析

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木 葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 中村誠宏, 松本崇宏, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 松田久司, 高田和幸

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

9.オトギリソウ (*Hypericum erectum*) 全草から得られた新規成分の HSP105 発現抑制によるがん細胞死誘導

濱井美歩, 松本崇宏, 今堀大輔, 大西英里加, 渡辺徹志

フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー 2022 年 8 月

10.オオツヅラフジ (*Sinomenium acutum*) 含有アルカロイドのがん幹細胞増殖抑制活性評価

齋藤千寿, 松本崇宏, 北川翔大, 太田智絵, 吉田達貞, 渡辺徹志

フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー 2022 年 8 月

11.抗がん剤による有害事象の回避を目指した *Penicillium maximae* 由来 HSP105 阻害物質の探索

松本崇宏, 大西英里加, 北川翔大, 渡辺徹志

フォーラム 2022 衛生薬学・環境トキシコロジー 2022 年 8 月

12.HSP105 発現抑制作用を介したがん細胞死誘導作用をもつ薬用植物由来低分子化合物の探索

吉川勇人, 松本崇宏, 渡辺徹志

第 3 回和漢医薬学会若手研究者フォーラム 2022 年 8 月

13.カノコソウ (*Valeriana fauriei*) 含有成分の HeLa 細胞における HSP105 発現抑制作用を介した細胞死誘導作用

吉川勇人, 松本崇宏, 渡辺徹志

第 29 回日本がん予防学会総会 2022 年 7 月

14.新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤 linderapyrone およびその誘導体のがん幹細胞増殖抑制作用
北川翔大, 松本崇宏, 芦原英司, 渡辺徹志
第 29 回日本がん予防学会総会 2022 年 7 月

15.京都市大気浮遊真菌 *Penicillium maximae* より産生される HSP105 阻害物質の探索
松本崇宏, 大西英里加, 渡辺徹志
第 29 回日本がん予防学会総会 2022 年 7 月

16.マイクロ波加熱連続反応を利用した香辛料オオバグキツ由来カルバゾール成分の合成とがん幹細胞毒性
鶴川孔汰, 中尾桃菜, 羽岡鈴代, 米田太一, 松本崇宏, 篠崎朱里, 吉治萌, 渡辺徹志, 中村誠宏
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

17.カノコソウ (*Valeriana fauriei*)含有セスキテルペンによる Hsp105 発現抑制作用を介したがん細胞死誘導
吉川勇人, 松本崇宏, 北川翔大, 今堀大輔, 岡山真也, 渡辺徹志
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

18.カノコソウ (*Valeriana fauriei*) より得られた新規化合物の化学構造およびがん幹細胞に与える影響
岡山真也, 松本崇宏, 吉川勇人, 今堀大輔, 太田智絵, 吉田達貞, 渡辺徹志
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

19.ナンテン (*Nandina domestica*) 含有成分の P-糖タンパク質阻害を介したがん細胞死誘導作用
大西英里加, 松本崇宏, 今堀大輔, 渡辺徹志
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

20.抗がん剤抵抗性の改善を目指した新規プレニル化フロログルシノールの Hsp105 阻害活性評価,
松本崇宏, 大西英里加, 岡山真也, 今堀大輔, 太田智絵, 吉田達貞, 小島直人, 山下正行, 渡辺徹志
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

21.新規 Wnt/ β -catenin 経路阻害剤のがん幹細胞に与える影響および構造活性相関の検討
北川翔大, 松本崇宏, 今堀大輔, 渡辺徹志
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

共同研究・競争的資金などの研究課題

1.大気粉塵の炎症反応誘発性と喘息発作の関係の解明
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
渡辺 徹志, 松本 崇宏

2.がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月

松本 崇宏, 太田 智絵, 中村 誠宏, 渡部 匡史, 渡辺 徹志, 齊藤 洋平

論文

1. Non-canonical inflammasome activation analysis in a mouse model of *Citrobacter rodentium* infection
Hiroyasu Tsutsuki, Tianli Zhang, Kinnosuke Yahiro, Touya Toyomoto, Tomohiro Sawa
STAR Protocols 3(4) 101741-101741 2022 年 12 月 査読有り
2. Preferential Selection of Low-Frequency, Lipopolysaccharide-Modified, Colistin-Resistant Mutants with a Combination of Antimicrobials in *Acinetobacter baumannii*
Go Kamoshida, Noriteru Yamada, Tomoka Nakamura, Daiki Yamaguchi, Daichi Kai, Maho Yamashita, Chiaki Hayashi, Nana Kanda, Moe Sakaguchi, Hitoshi Morimoto, Teppei Sawada, Tomoko Okada, Yuki Kaya, Norihiko Takemoto, Kinnosuke Yahiro
Microbiology Spectrum 2022 年 9 月 29 日 査読有り
3. Development of a novel tetravalent peptide that absorbs subtilase cytotoxin by targeting the receptor-binding B-subunit
Shinichiro Hama, Miki Nakahara, Miho Watanabe-Takahashi, Eiko Shimizu, Hiroyasu Tsutsuki, Kinnosuke Yahiro, Kiyotaka Nishikawa
Biochemical and Biophysical Research Communications 2022 年 9 月 査読有り
4. Bexarotene-induced cell death in ovarian cancer cells through Caspase-4-gasdermin E mediated pyroptosis.
Tatsuya Kobayashi, Akira Mitsuhashi, Piao Hongying, Masashi Shioya, Katsushi Kojima, Kyoko Nishikimi, Kinnosuke Yahiro, Makio Shozu
Scientific reports 12(1) 11123-11123 2022 年 7 月 1 日 査読有り
5. Controlled Delivery of an Anti-Inflammatory Toxin to Macrophages by Mutagenesis and Nanoparticle Modification
Ayaka Harada, Hiroyasu Tsutsuki, Tianli Zhang, Kinnosuke Yahiro, Tomohiro Sawa, Takuro Niidome
Nanomaterials 12(13) 2161-2161 2022 年 6 月 23 日 査読有り

6. Subtilase cytotoxin from Shiga-toxigenic *Escherichia coli* impairs the inflammasome and exacerbates enteropathogenic bacterial infection
Hiroyasu Tsutsuki, Tianli Zhang, Kinnosuke Yahiro, Katsuhiko Ono, Yukio Fujiwara, Sunao Iyoda, Fan-Yan Wei, Kazuaki Monde, Kazuko Seto, Makoto Ohnishi, Hiroyuki Oshiumi, Takaaki Akaike, Tomohiro Sawa
iScience 25(4) 104050-104050 2022 年 4 月 査読有り

講演・口頭発表等

1. 近赤外発光ライブイメージングによる細菌性肺炎病態の可視化
山口大貴, 鴨志田剛, 山田倫暉, 川久保駿, 成田晴香, 奥田絢音, 八尋錦之助, 加藤伸一
第 75 回日本細菌学会関西支部総会 2022 年 11 月 19 日 (京都)
2. *Acinetobacter baumannii* の二成分制御系 PmrAB により制御される遺伝子群の解明
山田倫暉, 鴨志田剛, 山口大貴, 松岡萌々子, 中村友香, 山内玲佳, 藤室雅弘, 八尋錦之助 第 75 回日本細菌学会関西支部総会 2022 年 11 月 19 日 (京都)
3. 気管挿入チューブに高度接着する *Acinetobacter baumannii* 実験進化株の病原性解析
鴨志田剛, 山口大貴, 山田倫暉, 生駒直樹, 東咲希, 辻隆光, 望田菜摘, 坂口萌, 田中廉太郎, 永井沙彩, 中谷あかり, 富田麻奈葉, 竹本訓彦, 八尋錦之助
第 75 回日本細菌学会関西支部総会 2022 年 11 月 19 日 (京都)
4. *Acinetobacter baumannii* における新規コリスチン耐性メカニズムの解析
鴨志田剛
第 70 回日本化学療法学会西日本支部総会 感染症学会地方会との合同学会 2022 年 11 月 5 日 (長崎)
5. SubAB により高発現する KLHDC7B の細胞致死機構における役割
八尋錦之助, 小倉康平, 津々木博康, 伊豫田淳, 大西真
第 68 回トキシシンポジウム 2022 年 9 月 6 日
6. *Helicobacter pylori* の基礎研究
八尋錦之助
第 28 回日本ヘリコバクター学会学術集会 (ピロリ菌感染症認定医・新規向け教育講演会 基礎) 2022 年 6 月 26 日

7. *Acinetobacter baumannii* コリスチン耐性株のメロペネム併用による変異パターン変化
鴨志田剛
第 96 回日本感染症学会総会 2022 年 4 月 (Web)
8. *Acinetobacter baumannii* マウス肺環境適応株樹立と病原性の解析
山口大貴, 鴨志田剛, 東咲希, 辻隆光, 川久保駿, 田中廉太郎, 成田晴香, 山田倫暉,
八尋錦之助, 加藤伸一
第 142 回日本薬学会 2022 年 3 月 26 日
9. メロペネム併用により変化する *Acinetobacter baumannii* のコリスチン耐性獲得進化機構
山田倫暉, 鴨志田剛, 中村友香, 山口大貴, 甲斐大智, 山下真歩, 坂口萌, 澤田哲平,
神田奈々, 加屋優希, 竹本訓彦, 八尋錦之助, 藤室雅弘
第 142 回日本薬学会 2022 年 3 月 26 日
10. セレウス菌における PlcR 転写制御系の違いがスフィンゴミエリナーゼ産生量に与える影響
横谷篤, 高橋歩実, 青山諒子, 鴨志田剛, 小阪直史, 中西雅樹, 藤田直久
第 95 回日本細菌学会総会 (ワークショップ) 2022 年 3 月 29~31 日
11. 気管内挿管チューブに定着し実験進化した *Acinetobacter baumannii* の病原性解析
鴨志田剛, 山口大貴, 山田倫暉, 竹本調彦, 八尋錦之助
第 95 回日本細菌学会総会 (ワークショップ) 2022 年 3 月 29~31 日
12. SubAB により発言する KLHDC7B は, Harakiri を誘導し細胞死を引き起こす
八尋錦之助, 小倉康平, 津々木博康, 伊豫田淳, 大西真
第 95 回日本細菌学会総会 2022 年 3 月 29~31 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. レンサ球菌高病原化変異株が分泌する aromatic-rich ペプチドの機能解析
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 -
2025 年 3 月 分担 鴨志田剛
2. AI 予測による小胞体ストレス誘導毒素の阻害剤創薬
物質・デバイス領域共同研究拠点 クロスオーバー共同研究 2022 年 10 月 - 2023 年 3 月
代表 八尋錦之助

3. 重症例由来下痢症起因菌のサーベイランス手法および病原性評価系の確立に関する研究
AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 2021 年 4 月 -
2024 年 3 月 分担 八尋錦之助
4. 細菌が LPS 欠損を可能にするメカニズムの解明とその応用
京都薬科大学 京都薬科大学科学振興基金 研究助成金 2020 年 6 月 - 2023 年 3 月
代表 鴨志田 剛
5. 細菌-宿主相互作用により実験進化させた細菌を用いた新視点からの感染症研究
日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2020 年 4 月 - 2023 年 3
月 代表 鴨志田 剛

論文

1. The Contribution of Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus ORF7 and Its Zinc-Finger Motif to Viral Genome Cleavage and Capsid Formation.

Yuki Iwaisako, Tadashi Watanabe, Manami Futo, Rimiko Okabe, Yuichi Sekine, Youichi Suzuki, Takashi Nakano, Masahiro Fujimuro

Journal of virology 96(18) e0068422 2022 年 9 月 8 日

2. Biomolecular Fluorescence Complementation Profiling and Artificial Intelligence Structure Prediction of the Kaposi's Sarcoma-Associated Herpesvirus ORF18 and ORF30 Interaction.

Yoshiko Maeda, Tadashi Watanabe, Taisuke Izumi, Kazushi Kuriyama, Shinji Ohno, Masahiro Fujimuro

International journal of molecular sciences 23(17) 2022 年 8 月 25 日

3. Epstein-Barr virus tegument protein BGLF2 in exosomes released from virus-producing cells facilitates de novo infection.

Yoshitaka Sato, Masahiro Yaguchi, Yusuke Okuno, Hanako Ishimaru, Ken Sagou, Somi Ozaki, Takeshi Suzuki, Tomoki Inagaki, Miki Umeda, Takahiro Watanabe, Masahiro Fujimuro, Takayuki Murata, Hiroshi Kimura

Cell communication and signaling : CCS 20(1) 95-95 2022 年 6 月 21 日

4. A pyridinium-type fullerene derivative suppresses primary effusion lymphoma cell viability via the downregulation of the Wnt signaling pathway through the destabilization of β -catenin.

Ayano Kadota, Misato Moriguchi, Tadashi Watanabe, Yuichi Sekine, Shigeo Nakamura, Takumi Yasuno, Tomoyuki Ohe, Tadahiko Mashino, Masahiro Fujimuro

Oncology reports 47(3) 2022 年 3 月

5. A novel intramolecular negative regulation of mouse Jak3 activity by tyrosine 820.

Yuichi Sekine, Kazuna Kikkawa, Bruce A Witthuhn, Jun-Ichi Kashiwakura, Ryuta Muromoto, Yuichi Kitai, Masahiro Fujimuro, Kenji Oritani, Tadashi Matsuda

International immunology 2022 年 2 月 22 日

6. Signal-transducing adaptor protein-2 modulates T-cell functions

Tadashi Matsuda, Yuto Sasaki, Kota Kagohashi, Kodai Saitoh, Yuichi Sekine, Jun-Ichi Kashiwakura, Kenji Oritani

Exploration of Immunology 771-782 2022 年 12 月 27 日

7.STAP-2 Is a Novel Positive Regulator of TCR-Proximal Signals.

Kodai Saitoh, Jun-Ichi Kashiwakura, Kota Kagohashi, Yuto Sasaki, Shoya Kawahara, Yuichi Sekine, Yuichi Kitai, Ryuta Muromoto, Michiko Ichii, Hiroko Nakatsukasa, Akihiko Yoshimura, Kenji Oritani, Tadashi Matsuda

Journal of immunology (Baltimore, Md. : 1950) 209(1) 57-68 2022 年 6 月 20 日

8.Rabphilin3A reduces integrin-dependent growth cone signaling to restrict axon regeneration after trauma.

Yuichi Sekine, Ramakrishnan Kannan, Xingxing Wang, Stephen M Strittmatter

Experimental neurology 114070-114070 2022 年 4 月 7 日

講演・口頭発表等

1.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV) ORF27 の機能解析

岡部理美子, 祝迫佑紀, 藤室雅弘

第 12 回 4 大学連携研究フォーラム 2022 年 11 月 29 日

2.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス(KSHV)がコードするウイルス性キナーゼ ORF21 の機能解析

山口達生, 渡部匡史, 関根勇一, 藤室雅弘

第 69 回日本ウイルス学会学術集会 2022 年 11 月 13 日

3.KSHV ORF7 はカブシド成熟におけるウイルスゲノムの切断に重要である

祝迫佑紀, 渡部匡史, 関根勇一, 鈴木陽一, 中野隆史, 藤室雅弘

第 69 回日本ウイルス学会学術集会 2022 年 11 月 13 日

4.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスのカブシド修飾因子 ORF32 の機能解析

鳥谷優太, 祝迫佑紀, 関根勇一, 藤室雅弘

第 72 回日本薬学会関西西部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

5.カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス (KSHV) 遺伝子 ORF7 は KSHV ターミナーゼ機能に重要である

祝迫佑紀, 渡部匡史, 関根勇一, 鈴木陽一, 中野隆史, 藤室雅弘

第 72 回日本薬学会関西西部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

6.がんウイルス感染による CD81 の発現低下機構とウイルス学的意義

石丸華子, 細川晃平, 渡部匡史, 藤室雅弘

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 25 日

7.腫瘍ウイルスがコードするウイルス性キナーゼ ORF21 による HER2、EGFR 経路への関与

山口達生, 渡部匡史, 関根勇一, 藤室雅弘

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 25 日

共同研究・競争的資金などの研究課題

1.機能性食品成分による中枢神経再生調節についての研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

関根 勇一

生化学

論文

1.Rad17 Translocates to Nucleolus upon UV Irradiation through Nucleolar Localization Signal in the Central Basic Domain

Yasunori Fukumoto, Masayoshi Ikeuchi, Yuji Nakayama, Yasumitsu Ogra

International Journal of Molecular Sciences 23(20) 12300 2022 年 10 月 査読有り招待有り

学会発表

1.PP1 ホスファターゼ抑制因子 SH2D4A による細胞分裂制御機構の解析, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

2.Hsp105 ファミリータンパク質 Apg-1 の発現抑制が細胞増殖や抗がん剤感受性に及ぼす影響は Hsp105 と異なる, 手島皓子, 渡辺寛子, 安武隆司, 池田有紀, 米津有希子, 岡本菜美子, 柿花采那, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

3.脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 ノックダウンによる細胞分裂の促進と染色体分配異常の増加, 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

4.リガンドに依存しない EphA2 のリン酸化は RhoG の活性制御を介して細胞分裂に関与する, 安武隆司, 海堀祐一郎, 小川実香, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

5.分裂期における Hsp105 ファミリータンパク質のリン酸化, 栗島弘喜, 安武隆司, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

6.細胞分裂進行に及ぼす SEPT2 ノックダウンの影響, 小幡佳嵩, 越智美波, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

7.足場タンパク質 AMOT の細胞分裂における機能, 田中潤奈, 池内正剛, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

8.EphA2 ノックダウンによる二核細胞の形成, 長谷川七海, 池田有紀, 安武隆司, 片山桐子, 海堀祐一郎, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 日本薬学会第 142 年会, 名古屋 (オンライン開催), 202203

9.熱ストレスによる低酸素誘導因子 HIF-1 α の蓄積と転写活性化, 渡辺寛子, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 日

本ハイパーサーミア学会第 39 回大会, 北九州 (オンライン開催), 202209

10. Contribution of abnormal cell division to tyrosine kinase inhibitors-induced suppression of cell proliferation. 中山祐治. 第 81 回日本癌学会学術総会, 横浜, 202209

11. 脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 は細胞分裂進行制御に必要である, 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

12. v-Src 発現細胞での擬似的な細胞質分裂の誘導と AuroraB の局在異常, 太田稜子, 渡邊卓美, 和澤佑樹, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

13. 分裂期における Hsp105 のリン酸化と CDK1 の関与, 栗島弘喜, 佐藤沙紀, 安武隆司, 幸龍三郎, 中山祐治, 齊藤洋平. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

14. EphA2 ノックダウンによる多核細胞形成, 長谷川七海, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

15. アミノ酸トランスポーターLAT1 は細胞分裂を支持する, 柳田さくら, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

16. TNK2 阻害による多核細胞の形成, 村田真優, 太田稜子, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 大阪, 202210

17. v-Src による多極紡錘体形成と Hippo 経路の関与, 中山祐治, 太田稜子, 栗島弘喜, 安武隆司, 幸龍三郎, 齊藤洋平. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

18. 脱リン酸化酵素 PP1 の抑制因子 SH2D4A は細胞分裂進行を支持する, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

19. 脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 ノックダウンによる細胞分裂進行への影響, 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

20. v-Src による AuroraB のキナーゼ活性低下を介した細胞質分裂異常, 太田稜子, 渡邊卓美, 和澤佑樹, 栗島弘喜, 池内正剛, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

21. EphA2 阻害による多核細胞の増加, 長谷川七海, 天野多詠, 海堀祐一郎, 片山桐子, 池田有紀, 安武隆司, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

22.細胞分裂進行におけるアミノ酸トランスポーターLAT1 の機能解析, 柳田さくら, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 95 回日本生化学会大会, 名古屋, 202211

23.脱 SUMO 化タンパク質 DESI1 の過剰発現やノックダウンによる細胞分裂進行への影響, 池田有紀, 幸龍三郎, 齊藤洋平, 中山祐治. 第 45 回日本分子生物学会年会, 千葉, 202212

共同研究・競争的資金の研究課題

1. 熱ストレスによるがん悪性化シグナル活性化とその阻害効果

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月
齊藤洋平

2. 破綻したリン酸化シグナルを基盤としたがん細胞分裂によるがん進展機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
幸龍三郎

3. がん化学療法抵抗性改善機能に基づく天然由来新規医薬品シーズの開拓

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
松本崇宏, 太田智絵, 中村誠宏, 渡部匡史, 渡辺徹志, 齊藤洋平

4. ゲノム分配機構の破綻がもたらす細胞のがん化メカニズムの解析

京都薬科大学 京都薬科大学科学振興基金 研究奨励金 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月
幸龍三郎

MISC

1. 熱ショックタンパク質を標的とした天然有機化合物による抗がん剤抵抗性の改善

松本崇宏, 齊藤洋平
ファルマシア 58(12) 1105-1109 2022 年 12 月 招待有り

2. 転移性大腸癌に対するラムシルマブ + FOLFIRI 療法中に経験した Ca 拮抗薬による浮腫の一症例

澤井健太, 幸龍三郎, 藤村保夫, 楠本正明, 松村千佳子
京都薬科大学紀要 第 3 巻 第 1 号 2022 年 7 月

論文

1.Expression level of BTN3A1 on the surface of CD14+ monocytes is a potential predictor of γ δ T cell expansion efficiency.

Mako Tomogane, Maho Omura, Yusuke Sano, Daiki Shimizu, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Shinya Kimura, Eishi Ashihara

Biochemical and biophysical research communications 588 47-54 2022 年 1 月 15 日

2. The CDK4/6-UCL5-BRD4 axis confers resistance to BET inhibitors in MLL-rearranged leukemia cells by suppressing BRD4 protein degradation

Keigo Amari, Satoru Sasagawa, Natsuki Imayoshi, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Toshihiko Imamura, Eishi Ashihara

Biochemical and Biophysical Research Communications 588 147-153 2022 年 1 月 15 日

3.Successful Incorporation of Exosome-Capturing Antibody-siRNA Complexes into Multiple Myeloma Cells and Suppression of Targeted mRNA Transcripts

Emi Soma, Asako Yamayoshi, Yuki Toda, Yuji Mishima, Shigekuni Hosogi, Eishi Ashihara

Cancers 14(3) 566-566 2022 年 1 月 23 日

4. CN470 is a BET/CBP/p300 multi-bromodomain inhibitor and has an anti-tumor activity against MLL-rearranged acute lymphoblastic leukemia.

Natsuki Imayoshi, Makoto Yoshioka, Kuniaki Tanaka, Shyh-Ming Yang, Koshi Akahane, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Takeshi Inukai, Seiji Okada, David J Maloney, Tatsutoshi Nakahata, Junko Takita, Itaru Kato, Eishi Ashihara

Biochemical and biophysical research communications 590 49-54 2022 年 1 月 29 日

講演・口頭発表等

1.pH-low insertion peptideを用いた転移予定臓器における組織酸性化の検出

松井透磨, 戸田侑紀, 中井亮太, 横川碧, 板垣里奈, 細木誠之, 芦原英司

日本薬学会 第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

2.pH-low insertion peptideで捉える転移予定臓器における組織pHの変化

戸田侑紀, 松井透磨, 細木誠之, 芦原英司

第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会 2022 年 6 月 30 日

3.マウス骨肉腫 LM8 細胞に対するクマリン系化合物の遊走抑制効果とがん転移予防薬としての可能性

杉山雄輝, 中村誠宏, 服部恭尚, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

第 29 回日本がん予防学会総会 2022 年 7 月 1 日

4.人參由来成分KPU-230はエストゲンレセプターを介してマウス気道上皮 粘液線毛クリアランスを活性化する
法山康太, 細木誠之, 岩本和佳奈, 藤堂暢久, 田宮暢代, 中村誠宏, 茂田昌樹, 戸田侑紀, 高山浩一, 芦原英司

第 29 回日本がん予防学会総会 2022 年 7 月 1 日

5.An artichoke-derived compound increase $[Ca^{2+}]_i$ by inhibiting Sarco/Endoplasmic Reticulum Ca^{2+} -ATPase (SERCA) and activates airway ciliary beating in humans.

Nobuhisa Todo, Kohta Noriyama, Nobuyo Tamiya, Masaki Shigeta, Seikoh Nakamura, Eishi Ashihara, Shigekuni Hosogi

ERS International Congress 2022 2022 年 9 月 4 日

6.pH-low insertion peptide accumulated in lung metastatic niche with lactic acidosis.

Toma Matsui, Yuki Toda, Shigekuni Hosogi, Eishi Ashihara

第 81 回日本癌学会学術総会 2022 年 9 月 30 日

7.Antitumor effects of $\gamma\delta T$ cells against hypoxia-adapted myeloma cells were diminished by decreasing the intracellular IPP

佐野友亮, 中川沙織, 清水大器, 戸田侑紀, 細木誠之, 芦原英司

第 81 回日本癌学会学術総会 2022 年 10 月 1 日

8.pH-low insertion peptide detects lactic acidosis contributing metastatic niche formation in lungs.

松井透磨, 戸田侑紀, Mosnikova A, Andreev OA, 細木誠之, Reshetnyak YK, 芦原英司

2022 年 11 月 15 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.新規作用機序に基づくクマリン系がん転移抑制薬の創製

日本医療研究開発機構 橋渡し研究プログラム 2022 年度シーズ A (岡山大学拠点) 2022 年 4 月 - 2023 年 3 月

2.骨髄腫幹細胞のexosome分泌型miRNAを介した低酸素生存適応

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

戸田 侑紀

論文

1.Endothelial group IVA phospholipase A₂ promotes hepatic fibrosis with sinusoidal capillarization in the early stage of non-alcoholic steatohepatitis in mice

Eri Kawashita, Takeyoshi Ozaki, Keiichi Ishihara, Chihiro Kashiwada, Satoshi Akiba

Life Sciences 294 120355-120355 2022 年 4 月 査読有り

2.Trib1 promotes the development of acute myeloid leukemia in a Ts1Cje mouse model of Down syndrome.

Seiko Yoshino, Miwa Tanaka, Yoshitaka Sunami, Tomoko Takahara, Yukari Yamazaki, Mizuki Homme, Akiko Niibori-Nambu, Motomi Osato, Takashi Minami, Keiichi Ishihara, Takuro Nakamura

Leukemia 36(2) 558-561 2022 年 2 月 査読有り

Misc

1.動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした放射性ヨウ素標識酸化 LDL を用いた生体イメージングの解析

井澤 満, 河嶋 秀和, 奥野 結衣, 中谷 純菜, 石原 慶一, 秋葉 聡, 高田 和幸

第 96 回日本薬理学会年会 要旨集 2022 年 11 月

2.酸化 LDL 標識体を用いた動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした動脈硬化巣バイオイメージングの検討

井澤 満, 河嶋 秀和, 奥野 結衣, 中谷 純菜, 石原 慶一, 秋葉 聡, 高田 和幸

第 16 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム 要旨集 2022 年 10 月

3.ダウン症モデルマウスにおける銅蓄積責任遺伝子座の絞り込み

神保 里菜, 高田 修治, 斉藤 美知子, 山川 和弘, 河下 映里, 左合 治彦, 秋葉 聡, 石原 慶一

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 要旨集 2022 年 10 月

4.ダウン症モデルマウス脳での銅蓄積による積情動記憶障害の可能性

千代 華歩, 河下 映里, 秋葉 聡, 石原 慶一

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 要旨集 2022 年 10 月

5.The role of snare proteins in cortical development.

Auguste Vadisiute, Elise Meijer, Florina Szabó, Anna Hoerder-Suabedissen, Eri Kawashita, Shuichi Hayashi, Zoltán Molnár

Developmental neurobiology 82(6) 457-475 2022 年 9 月 査読有り

6.【周産期と最先端サイエンス】境界領域 先天性疾患・遺伝性疾患への挑戦 ダウン症治療研究最前線
Erg 遺伝子と Down 症候群に対する胎児治療の可能性

石原 慶一, 左合 治彦

周産期医学 52(7) 1001-1003 2022 年 7 月

7.The accumulation of copper in the brain of Down syndrome promotes oxidative stress:
possible mechanism underlying cognitive impairment.

Keiichi Ishihara

Journal of clinical biochemistry and nutrition 71(1) 16-21 2022 年 7 月 査読有り

8.【デジタル革命や数理科学を駆使した Disease-Free Society の実現に向けての取り組み】ダウン症候群
の知的障害における脳炎症の関連の可能性

石原 慶一

糖尿病・内分泌代謝科 54(1) 35-41 2022 年 1 月

講演・口頭発表等

1.Suppressive effects of Down syndrome genes on amyloid- β aggregation and mortality
in a mouse model of Alzheimer's disease

Keiichi Ishihara, Eri Kawashita, Mizuki Katsuda, Michiko Saito, Haruhiko Sago, Kazuhiro Yamakawa, Satoshi Akiba, Kazuyuki Takata

日本人類遺伝学会第 67 回大会 2022 年 12 月 16 日

2.Brain Copper Accumulation-Associated Cognitive Impairment in Mouse Models of Down
Syndrome

Keiichi Ishihara

10th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference 2022 年 11 月 29 日 招待有り

3.Possible involvement of brain copper accumulation in emotional memory disturbance
in multiple mouse models of Down syndrome

Keiichi Ishihara, Eri Kawashita, Haruhiko Sago, Kazuhiro Yamakawa, Satoshi Akiba

The 8th International Symposium on Metallomics 2022 年 7 月

4.Neuroprotective effect of neuroserpin in a mouse model of neonatal hypoxic-ischaemic
encephalopathy

Eri Kawashita, Jan Fischer, Yumi Fukuzaki, Lancelot Millar, Peiyun Zhong, Anna Hoerder-Suabedissen, Lei Shi, Zoltán Molnár

Neuro2022 2022 年 7 月 1 日

5. ダウン症関連遺伝子のアミロイドβ蓄積に及ぼす影響の検討

石原 慶一, 河下 映里, 西村 周泰, 斉藤 美知子, 左合 治彦, 山川 和弘, 秋葉 聡, 高田 和幸
Neuro2022 2022 年 6 月 30 日

6. Neuroserpin as a promising candidate for neuroprotection in neonatal hypoxic-ischaemic encephalopathy

Eri Kawashita, Jan Fischer, Yumi Fukuzaki, Lancelot Millar, Peiyun Zhong, Anna Hoerder-Suabedissen, Lei Shi, Zoltán Molnár
Cortical Development Conference 2022 年 5 月 29 日

7. ダウン症知的障害における初期エンドソーム破綻と銅蓄積

石原 慶一
領域会議・生命金属科学シンポジウム 2022 年 5 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. ダウン症胎生期脳発達遅滞のメカニズム解析と胎内治療の開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月
石原 慶一, 高田 和幸

2. ダウン症知的障害における初期エンドソーム破綻と銅蓄積

日本学術振興会 科学研究費助成事業 新学術領域研究(研究領域提案型) 2022 年 4 月 - 2024 年 3 月
石原 慶一

3. プロテアーゼ活性制御による脳神経再生の高効率化と虚血性脳疾患治療への展開

日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A)) 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A)) 2021 年 - 2023 年
河下 映里

4. NASH の新規治療観点となる細胞種特異的 IVA 型 PLA2 の制御による肝線維化抑制

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月
秋葉 聡

5. 脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
高田 和幸, 石原 慶一, 西村 周泰

6. ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子同定と知的障害における役割の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 新学術領域研究(研究領域提案型) 新学術領域研究(研究領

域提案型) 2020 年 4 月 - 2022 年 3 月

石原 慶一

社会貢献活動

1.令和 4 年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ

運営参加・支援

文部科学省『薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和 4 年改訂版)』に基づくカリキュラム実施に向けて
2022 年 8 月 26 日

秋葉 聡

論文

1. Alleviative effects of glutamate against chemotherapeutic agent-induced intestinal mucositis.
S Jonan, N Hamouda, A Fujiwara, K Iwata, T Fujita, S Kato, K Amagase
Journal of physiology and pharmacology : an official journal of the Polish Physiological Society
73(4) 2022 年 8 月 査読有り

2. Repeated psychological stress, chronic vicarious social defeat stress, evokes irritable bowel syndrome-like symptoms in mice.
Toshinori Yoshioka, Misaki Ohashi, Kenjiro Matsumoto, Tomoki Omata, Takumi Hamano, Mayuna Yamazaki, Sayaka Kimiki, Kotaro Okano, Riho Kobayashi, Daisuke Yamada, Noriyasu Hada, Shinichi Kato, Akiyoshi Saitoh
Frontiers in neuroscience 16 993132-993132 2022 年 査読有り

書籍等出版物

1. 新しい疾患薬理学
岩崎, 克典, 徳山, 尚吾 (担当: 共著, 範囲: 6 章 B 消化器内科領域の疾患に用いる薬物)
南江堂 2022 年 12 月 (ISBN: 9784524404063)

講演・口頭発表等

1. TNBS 誘起ラット大腸炎における温度感受性 TRPV2 および TRPV1 の免疫組織学的解析と内蔵痛覚過敏への関与
宮本 早也佳, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 12 月 3 日

2. クスリがわかるシリーズ 消化器系 便秘診療をめぐる薬物療法の新潮流
加藤 伸一
第 96 回日本薬理学会年会/第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月 2 日 招待有り

3. Ca^{2+} 高選択性 TRPV6 のデキストラン硫酸ナトリウム誘起マウス大腸炎の病態における役割
森 風帆, 高山 麻由, 斉藤 美知子, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 12 月 1 日

4. オーフアン G タンパク質共役型受容体 GPR35 のデキストラン硫酸ナトリウム誘起マウス大腸炎の病態における役割

岸 采花, 橘 佑輔, 村瀬 由依, 徳山 琉雅, 斉藤 美知子, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 12 月 1 日

5.Acinetobacter baumannii マウス肺環境適応株の樹立と病原性の解析

山口 大貴, 鴨志田 剛, 東 咲希, 辻 隆光, 川久保 駿, 田中 廉太郎, 成田 晴香, 山田 倫暉, 八尋 錦之助, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

6.Transient receptor potential melastain 2(TRPM2)のマウス大腸炎および線維化の病態制御における異なった役割

中本 智大, 松本 健次郎, 安田 浩之, 森 泰生, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

7.TNBS 誘起内臓痛覚過敏ラットの腸管神経系における TRPV1 および TRPV2 発現解析

水野 俊輝, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

8.Transient receptor potential vanilloid 6(TRPV6)の大腸炎の病態との関連

横山 未佳, 西澤 美帆子, 山岡 みずき, 斉藤 美知子, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

9.オーファン G タンパク質共役型受容体 GPR35 の腸炎に対する保護的役割

枅岡 実思, 元川 典子, 杉本 彩貴, 徳山 こう雅, 榎原 梨華, 斉藤 美知子, 安田 浩之, 松本 健次郎, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

10.TNBS 誘起大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 2 を介した細胞外トラップの関与

下村 菜里乃, 安田 浩之, 宇野 綾花, 甲田 紗弥, 田中 義也, 斉藤 美知子, 松本 健次郎, 加藤 伸一

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.オーファン G タンパク質共役型受容体 GPR35 の炎症性腸疾患の病態における役割解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

加藤 伸一

2.細胞外トラップの消化管炎症における役割解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

安田 浩之

論文

1. Angelica acutiloba Exerts Antihypertensive Effect and Improves Insulin Resistance in Spontaneously Hypertensive Rats Fed with a High-Fat Diet

Yusuke Watanabe, Naseratun Nessa, Hiroe Toba, Miyuki Kobara, Tetsuo Nakata

Pharmacology 1-9 2022 年 1 月 17 日

2. Secreted protein acidic and rich in cysteine (SPARC) and a disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin type 1 motif (ADAMTS1) increments by the renin-angiotensin system induce renal fibrosis in deoxycorticosterone acetate-salt hypertensive rats

Hiroe Toba, Mitsushi J. Ikemoto, Miyuki Kobara, Tetsuo Nakata

European Journal of Pharmacology 914 174681-174681 2022 年 1 月

3. Raman Study of Pathogenic Candida auris: Imaging Metabolic Machineries in Reaction to Antifungal Drugs.

Giuseppe Pezzotti, Miyuki Kobara, Tamaki Nakaya, Hayata Imamura, Tenma Asai, Nao Miyamoto, Tetsuya Adachi, Toshiro Yamamoto, Narisato Kanamura, Eriko Ohgitani, Elia Marin, Wenliang Zhu, Ichiro Nishimura, Osam Mazda, Tetsuo Nakata, Koichi Makimura

Frontiers in microbiology 13 896359-896359 2022 年 4 月

4. Raman Spectroscopy of Oral Candida Species: Molecular-Scale Analyses, Chemometrics, and Barcode Identification.

Giuseppe Pezzotti, Miyuki Kobara, Tamaki Nakaya, Hayata Imamura, Nao Miyamoto, Tetsuya Adachi, Toshiro Yamamoto, Narisato Kanamura, Eriko Ohgitani, Elia Marin, Wenliang Zhu, Ichiro Nishimura, Osam Mazda, Tetsuo Nakata, Koichi Makimura

International journal of molecular sciences 23(10) 2022 年 5 月 11 日

5. Three-Dimensional Culture of Cartilage Tissue on Nanogel-Cross-Linked Porous Freeze-Dried Gel Scaffold for Regenerative Cartilage Therapy: A Vibrational Spectroscopy Evaluation.

Tetsuya Adachi, Nao Miyamoto, Hayata Imamura, Toshiro Yamamoto, Elia Marin, Wenliang Zhu, Miyuki Kobara, Yoshihiro Sowa, Yoshiro Tahara, Narisato Kanamura, Kazunari Akiyoshi, Osam Mazda, Ichiro Nishimura, Giuseppe Pezzotti

International journal of molecular sciences 23(15) 2022 年 7 月 22 日

6. Raman Metabolomics of Candida auris Clades: Profiling and Barcode Identification.

Giuseppe Pezzotti, Miyuki Kobara, Tamaki Nakaya, Hayata Imamura, Tomoya Fujii, Nao Miyamoto, Tetsuya Adachi, Toshiro Yamamoto, Narisato Kanamura, Eriko Ohgitani, Elia Marin, Wenliang Zhu, Toshihisa Kawai, Osam Mazda, Tetsuo Nakata, Koichi Makimura
International journal of molecular sciences 23(19) 2022 年 10 月 3 日

7.Roles of autophagy in angiotensin II-induced cardiomyocyte apoptosis.

Miyuki Kobara, Hiroe Toba, Tetsuo Nakata

Clinical and experimental pharmacology & physiology 49(12) 1342-1351 2022 年 12 月

Misc

1.アンジオテンシン II 誘発性オートファジーの心筋細胞アポトーシスに対する影響

小原 幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

日本薬理学会年会プログラム抄録集 2022 年 3 月

2.Honokiol preserves mitochondrial sirtuin 3 and attenuates hypoxia-reoxygenation injury in cultured myocytes

小原 幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

日本循環器学会年会プログラム抄録集 2022 年 3 月

3. GLP-1 受容体作動薬の高血糖誘導性糸球体足細胞障害無に対する影響

長井皓平、小原 幸、赤倉章仁、清水美乃莉、鳥羽裕恵、中田徹男

第 141 回日本薬理学会近畿部会プログラム抄録集 2022 年 7 月

4.Nicorandil suppresses ischemia-induced cardiac norepinephrine enhancement and ventricular arrhythmias in pressure overload-induced hypertrophic hearts.

小原 幸、鳥羽裕恵、中田徹男

The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension 2022 年 9 月

5.心筋細胞低酸素再酸素化障害に対するホノキオールの特チン 3 を介した保護効果

谷島 旭, 小原 幸, 鳥羽裕恵, 中田徹男

日本薬理学会年会プログラム抄録集 2022 年 12 月

講演・口頭発表等

1.血管内皮機能障害時における 細胞外マトリックス SPARC の役割の検討

鳥羽裕恵, 小原幸, 中田徹男

第 95 回日本薬理学会年会 2022 年 3 月 8 日

2.SPARC and ADAMTS1 are induced as anti-inflammatory factors at the early stage of vascular endothelial injury in DOCA-salt hypertensive rats

Hiroe Toba, Miyuki Kobara, Tetsuo Nakata

The 86th annual scientific meeting of the Japanese Circulation Society 2022 年 3 月 12 日

3.慢性腎臓病増悪因子としての細胞外マトリックスの役割

鳥羽裕恵

第 41 回公益財団法人蓬庵社研究助成発表会 2022 年 7 月 15 日

4.SPARC is induced at the early stage of vascular endothelial dysfunction to compensate inflammation in DOCA-salt hypertensive rats

Hiroe Toba, Miyuki Kobara, Tetsuo Nakata

The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension 2022 年 10 月 14 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.動脈硬化治療薬開発を目指した細胞外マトリックス研究

日本私立学校振興・共済事業団 女性研究者奨励金 2021 年 4 月 - 2022 年 3 月

2.バイオセラミックス・コーティングによる骨伝導性の強化とインプラント周囲炎の予防

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

PEZZOTTI G., 足立 哲也, Marin Elia, 小原 幸, 扇谷 えり子

3.細胞外ミトコンドリア放出を伝達ツールとした心不全病態悪化の検討及び治療への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

小原 幸

4.貧血治療薬エリスロポエチンの動脈硬化抑制薬としてのドラッグ・リポジショニング研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

鳥羽 裕恵

5.SPARC 関連細胞外マトリックスとマトリックス分解酵素からの動脈硬化治療ターゲットの探索

武田科学振興財団 薬学系研究助成 2022 年 - 2027 年

6.ラマン分光法を用いた歯周病菌によるアルツハイマー病発症の分子病態の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

足立 圭司, 狩生 徹, 足立 哲也, 山本 俊郎, 金村 成智, PEZZOTTI G., 小原 幸

薬理学

論文

1. Tacrolimus suppresses itch-related response in diet-induced atopic dermatitis model mice by reducing chloroquine-sensitive sensory neurons

Masanori Fujii, Shota Imahori, Misao Nakayama, Takeshi Nabe, Susumu Ohya

Itch 7(1) e62-e62 2022 年 4 月

Misc

- 1.「研究スキル売買」から見えるもの

田中智之

化学 77(2) 11-11 2022 年 2 月

- 2.アルコール摂取や睡眠時における痒み増悪メカニズム

藤井正徳

日本皮膚科学会雑誌 132(4) 633-637 2022 年 4 月

3. “Novel insights into the roles of mast cells and basophils”: Joint Webinar of the Japanese and the European Histamine Research Societies (JHRS/EHRS)

Ekaterini Tiligada, Bernhard F. Gibbs, Satoshi Tanaka

Inflammation Research 71(7-8) 991-993 2022 年 5 月 4 日

- 4.研究公正：現状と ELSI/RRI における重要性

田中智之, 加納圭, 小出隆規

研究 技術 計画 37(3) 325-338 2022 年 11 月

講演・口頭発表等

- 1.アトピー性皮膚炎モデルマウスの痒みの原因物質の探索

藤井 正徳, 中嶋 雅幸, 櫻井 千浩, 田中 里奈, 田中 智之

第 23 回日本ヒスタミン学会 2022 年 1 月 7 日

- 2.痒み、どうして起こる？ ～臨床と基礎の立場から～「痒みの発生メカニズムと薬物治療」

藤井 正徳

京都薬科大学 生涯教育センター 2022 年度卒後教育講座 2022 年 5 月 22 日 招待有り

3.アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いた痒みメカニズムの解析

藤井 正徳

第3回 Atopic Itch Consensus Meeting 2022年7月10日 招待有り

4.第7回日本薬学教育学会(8/21, 2022) (東京、オンライン) シンポジウム：薬学人のアイデンティティを支える研究倫理(入江徹美、有田悦子)

望ましい研究のあり方

○田中 智之

5.アトピー性皮膚炎モデルマウスの掻痒行動に及ぼすニューロステロイド脳内投与の影響

田中 里奈, 田中 智之, 藤井 正徳

第72回日本薬学会関西支部総会・大会 2022年10月8日

6.アトピー性皮膚炎マウスにおいて急性ストレスは掻痒行動を増悪させる：脳内アロプレグナロンの関与の可能性

藤井 正徳, 今林 怜矢, 岸 美羽, 山根 優, 田中 里奈

第31回国際痒みシンポジウム 2022年11月12日

7.JPW2022/第96回日本薬理学会(11/30-12/3, 2022) (横浜) シンポジウム：免疫応答の制御におけるマスト細胞、好塩基球の新たな役割(田中智之、見尾光庸) GPCRを介するマスト細胞活性化の制御機構

○田中 智之

8.アトピー性皮膚炎に対する治療薬シーズとしての多価不飽和脂肪酸

藤井 正徳

第96回日本薬理学会年会/第43回日本臨床薬理学会学術総会 2022年12月1日

9.スポンサードシンポジウム：解き明かそう！かゆみのダイバーシティ「疾患マウスモデルから考えるアトピー性皮膚炎の多様な痒みメカニズム」

藤井 正徳

第52回日本皮膚免疫アレルギー学会 2022年12月17日 招待有り

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.アトピー性皮膚炎マウスにおける痒み行動増悪の脳内メカニズムの解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2019年4月 - 2022年3月

藤井 正徳

論文

1. γ -Glutamylcyclotransferase, a novel regulator of HIF-1 α expression, triggers aerobic glycolysis.

Keiko Taniguchi, Susumu Kageyama, Chiami Moyama, Shota Ando, Hiromi Ii, Eishi Ashihara, Mano Horinaka, Toshiyuki Sakai, Shigehisa Kubota, Akihiro Kawauchi, Susumu Nakata
Cancer gene therapy 29(1) 37-48 2022 年 1 月

2. Stat5b inhibition blocks proliferation and tumorigenicity of glioblastoma stem cells derived from a de novo murine brain cancer model.

Chiami Moyama, Mitsugu Fujita, Shota Ando, Keiko Taniguchi, Hiromi Ii, Seisuke Tanigawa, Naoya Hashimoto, Susumu Nakata
American journal of cancer research 12(3) 1129-1142 2022 年

3. Fluorizoline Blocks the Interaction between Prohibitin-2 and γ -Glutamylcyclotransferase and Induces p21Waf1/Cip1 Expression in MCF7 Breast Cancer Cells.

Hiroko Takagi, Chiami Moyama, Keiko Taniguchi, Kota Ando, Ryohei Matsuda, Shota Ando, Hiromi Ii, Susumu Kageyama, Akihiro Kawauchi, Nora Chouha, Laurent Désaubry, Susumu Nakata
Molecular pharmacology 101(2) 78-86 2022 年 2 月

4. JCI-20679 suppresses autophagy and enhances temozolomide-mediated growth inhibition of glioblastoma cells.

Shota Ando, Chiami Moyama, Naoto Kojima, Mitsugu Fujita, Kaito Ohta, Yukina Kohno, Hiromi Ii, Susumu Nakata
Biochemical and biophysical research communications 591 62-67 2022 年 2 月 5 日

5. Administration of Gapmer-type Antisense Oligonucleotides Targeting γ -Glutamylcyclotransferase Suppresses the Growth of A549 Lung Cancer Xenografts.

Hiromi Ii, Yuuya Kasahara, Harumi Yamaguma, Susumu Kageyama, Akihiro Kawauchi, Satoshi Obika, Susumu Nakata
Anticancer research 42(3) 1221-1227 2022 年 3 月

6. JCI-20679 suppresses the proliferation of glioblastoma stem cells by activating AMPK and decreasing NFATc2 expression levels

Shota Ando, Naoto Kojima, Chiami Moyama, Mitsugu Fujita, Kaito Ohta, Hiromi Ii, Susumu

Nakata

Molecular Medicine Reports 26(1) 2022 年 5 月 27 日

7. Development of fluorizoline analogues as prohibitin ligands that modulate C-RAF signaling, p21 expression and melanogenesis.

Nora Chouha, Hussein Abou-Hamdan, Hajime Yurugi, Riku Yoshii, Hiromi Ii, Ahmad Najem, Ghanem E Ghanem, Susumu Nakata, Krishnaraj Rajalingam, Yu Peng, Dong Wang, Canan G Nebigil, Laurent Désaubry

European journal of medicinal chemistry 242 114635-114635 2022 年 8 月 4 日

8. The γ -Glutamylcyclotransferase Inhibitor Pro-GA Induces an Antiproliferative Effect Through the Generation of Mitochondrial Reactive Oxygen Species.

Hiromi Ii, Keiko Taniguchi, Taku Yoshiya, Yukie Nohara, Susumu Kageyama, Akihiro Kawauchi, Susumu Nakata

Anticancer research 42(9) 4311-4317 2022 年 9 月

MISC

1. Anti-tumor effects by inhibition of γ -glutamylcyclotransferase

Hiromi Ii, Taku Yoshiya, Shinya Oishi, Hiroko Takagi, Keiko Taniguchi, Chiami Moyama, Shota Ando, Susumu Kageyama, Susumu Nakata

第 5 回国際がん研究シンポジウム, 2022 年 1 月

2. 新規アセトゲニン誘導体 NK-134 はヒト肺がん A549 細胞の細胞増殖を抑制し担癌マウスにおいて抗腫瘍効果を示す

小西 洸之助, 岡本 斉子, 小島 直人, 江川 季生, 安藤 翔太, 茂山 千愛美, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 27PO10-08S 2022 年 3 月

3. 膠芽腫細胞に対するアセトゲニン誘導体 JCI-20679 とテモゾロミドの併用による抗腫瘍効果

岡本 仁志, 安藤 翔太, 茂山 千愛美, 小島 直人, 河野 雪那, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 27PO10-07S 2022 年 3 月

4. Fluorizoline によるがん細胞増殖抑制効果には p21Waf1/Cip1 誘導が関与する

金田 裕太, 茂山 千愛美, 吉井 陸, 安藤 孝太, 松田 凌平, 安藤 翔太, 高木 寛子, 谷口 恵香, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 27PO10-06S 2022 年 3 月

5. γ -Glutamylcyclotransferase(GGCT)の発現抑制は膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する

野瀬 梢, 椎 達哉, 吉田 百花, 大草 由佳子, 南 京香, 茂山 千愛美, 安藤 翔太, 藤田 貢, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 27PO10-05S 2022 年 3 月

6. 15-16 位を threo 配置に固定したアセトゲニンチオフェン誘導体の構造活性相関研究

細見 紘幸, 小柴 佐和子, 松本 卓也, 上田 拓, 小菅 真央, 飯居 宏美, 中田 晋, 岩崎 宏樹, 山下 正行, 小島 直人

日本薬学会年会要旨集 142 年会 27S-pm18S 2022 年 3 月

7. マウス膠芽腫モデルにおける Stat5b を標的とした抗腫瘍メカニズムの解明

茂山 千愛美, 藤田 貢, 安藤 翔太, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 26G-pm19S 2022 年 3 月

8. アセトゲニン誘導体 JCI-20679 は p-AMPK タンパク質の発現上昇と NFATc2 の発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する

安藤 翔太, 小島 直人, 茂山 千愛美, 藤田 貢, 飯居 宏美, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 142 年会 26G-pm18S 2022 年 3 月

9. 膠芽腫幹細胞における Stat5b の阻害は Cyclin E2 と Myb の発現抑制を誘導する(Inhibition of Stat5b in glioblastoma stem cells induced downregulation of Cyclin E2 and Myb expression.)

茂山 千愛美, 藤田 貢, 安藤 翔太, 飯居 宏美, 中田 晋

日本癌学会総会記事 81 回 P-2117 2022 年 9 月

10. 膠芽腫幹細胞では JCI-20679 処理により AMPK の活性化と NFATc2 の発現低下が引き起こされる(AMPK activation and decrease of NFATc2 expression levels are caused by JCI-20679 treatment in glioblastoma stem cells)

安藤 翔太, 小島 直人, 茂山 千愛美, 藤田 貢, 飯居 宏美, 中田 晋

日本癌学会総会記事 81 回 J-2063 2022 年 9 月

11. γ -Glutamylcyclotransferase 発現抑制は大腸がん細胞において細胞増殖を抑制する(Anti-proliferative activity of γ -glutamylcyclotransferase knockdown in colorectal cancer cells)

飯居 宏美, 伊藤 公成, 中田 晋

日本癌学会総会記事 81 回 P-1060 2022 年 9 月

12. 大腸がん細胞における GGCT 発現抑制は抗腫瘍効果を示す

飯居 宏美, 木下 晴菜, 近藤 真帆, 伊藤 公成, 中田 晋

日本癌治療学会学術集会抄録集 60 回 P39-3 2022 年 10 月

13. ヒト大腸がん HCT116 細胞における GGCT ノックダウンによる増殖抑制機構.

木下晴菜, 近藤真帆, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

14. 新規 PHB2 阻害剤による p21Waf1/Cip1 誘導を介した MCF7 乳がん細胞の増殖抑制効果

土持歩夢, 吉井陸, 金田裕太, 松本流風, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

15. GGCT ノックダウンによる脳腫瘍幹細胞の増殖抑制機構とその抗腫瘍効果

椎達哉, 野瀬梢, 茂山千愛美, 安藤翔太, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

16. GGCT ノックダウンは Dhh 発現低下を介してマウス膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する

森昌也, 吉田百花, 野瀬梢, 茂山千愛美, 安藤翔太, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

17. 膠芽腫幹細胞モデルにおける GGCT およびヘッジホッグ経路リガンドの発現制御機構.

山向千晶, 松下眞子, 橋本彩花, 野瀬梢, 茂山千愛美, 安藤翔太, 藤田貢, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

18. ヒト膠芽腫 U87MG 細胞に対する GGCT 阻害剤 pro-GA と xCT 阻害剤エラスチンの併用効果

隈元春奈, 櫻井夏奈, 野瀬梢, 茂山千愛美, 安藤翔太, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

19. 膠芽腫幹細胞における Stat5b 阻害による細胞増殖抑制には Cyclin E2 及び Myb の発現抑制が関与する

茂山千愛美, 藤田貢, 安藤翔太, 飯居宏美, 中田晋

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

20. γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ活性検出用化学発光プローブ LISA-103 (Chemiluminescence probe LISA-103 for the detection of γ -glutamyl cyclotransferase activity)

野原 由江, 谷口 恵香, 飯居 宏美, 増田 駿, 河上 紘子, 松本 正勝, 中田 晋, 酒井 敏行, 吉矢 拓

日本生化学会大会プログラム・講演要旨集 95 回 3P-376 2022 年 11 月

21. γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ阻害薬による MCF7 乳がん細胞の増殖抑制効果に対するミトコンドリア ROS 産生の寄与

飯居 宏美, 野瀬 梢, 茂山 千愛美, 安藤 翔太, 谷口 恵香, 吉矢 拓, 野原 由江, 影山 進, 中田 晋

日本生化学会大会プログラム・講演要旨集 95 回 1T16a-05 2022 年 11 月

講演・口頭発表等

1. γ グルタミルシクロトランスフェラーゼ阻害剤 pro-GA は MCF7 担癌マウスにおいて抗腫瘍効果を示す

飯居 宏美, 高木 寛子, 谷口 恵香, 茂山 千愛美, 安藤 翔太, 吉矢 拓, 野原 由江, 増田 駿, 津田 修吾, 影山 進, 中田 晋

日本薬学会年会要旨集 2022 年 3 月 (公社)日本薬学会

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. GGCT による代謝変容が誘導する新規 Hedgehog 経路活性化機構の解明

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

中田 晋, 飯居 宏美, 藤田 貢

2. バイオインフォマティクス的手法による放射線脳壊死関連 M2 マクロファージの機能解析

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

藤田 貢, 山下 公大, 中田 晋, 宮武 伸一

3. GGCT と xCT のダブル阻害によりフェロトーシスを増強する全く新しいがん治療戦略

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

飯居 宏美, 中田 晋

産業財産権

1. WO/2022/255499 NOVEL AMP-ACTIVATED PROTEIN KINASE ACTIVATOR

Susumu Nakata, Naoto Kojima

論文

1.A Dense Layer of Polyethyleneglycol and Zwitterionic Bone Targeting Peptide on the Surface of Stereocomplex Polylactide-Polyethyleneglycol Nanoparticles Improves Shelf-storage Stability and the Serum Compatibility.

Kohei Ogawa, Hidemasa Katsumi, Daiki Nomura, Yasushi Moroto, Masaki Morishita, Akira Yamamoto
Journal of pharmaceutical sciences 111(10) 2888-2897 2022 年 6 月 6 日

2.L-Serine-Modified Poly-L-Lysine as a Biodegradable Kidney-Targeted Drug Carrier for the Efficient Radionuclide Therapy of Renal Cell Carcinoma

Hidemasa Katsumi, Sho Kitada, Shintaro Yasuoka, Rie Takashima, Tomoki Imanishi, Rina Tanaka, Satoru Matsuura, Hiroyuki Kimura, Hidekazu Kawashima, Masaki Morishita, Akira Yamamoto
Pharmaceutics 14(9) 1946-1946 2022 年 9 月 14 日

3.Phosphorylated Serine-Modified Polyamidoamine Dendrimer as an Osteoid Surface-Targeting Drug Carrier

Shugo Yamashita, Hidemasa Katsumi, Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto
Molecular Pharmaceutics 19(7) 2573-2582 2022 年 7 月 4 日

4.Processing Parameters and Ion Excipients Affect the Physicochemical Characteristics of the Stereocomplex-Formed Polylactide-b-Polyethylene Glycol Nanoparticles and Their Pharmacokinetics.

Kohei Ogawa, Hidemasa Katsumi, Yasushi Moroto, Masaki Morishita, Akira Yamamoto
Pharmaceutics 14(3) 2022 年 3 月 4 日

5.Activation of Host Immune Cells by Probiotic-Derived Extracellular Vesicles via TLR2-Mediated Signaling Pathways.

Masaki Morishita, Risa Sagayama, Yuta Yamawaki, Marina Yamaguchi, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto
Biological & pharmaceutical bulletin 45(3) 354-359 2022 年

6.Simultaneous determination of active pharmaceutical ingredients and water-soluble polymers: Analysis of dissolution profiles from sustained-release formulations and mechanisms involved.

Mariko Kimoto, Toshiyasu Sakane, Hidemasa Katsumi, Akira Yamamoto
Chem Pharm Bull 70 138-145 2022 年

講演・口頭発表等

1. セリン修飾を用いた腎臓ターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発～体内動態制御による腎臓疾患治療効果の向上と副作用軽減～

勝見英正, 森下将輝, 山本 昌

日本薬学会第 142 年会 (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

2. プロバイオティクス由来細胞外小胞が自然免疫反応に及ぼす影響の解明と有用性評価.

森下将輝, 勝見英正, 山本昌

日本薬学会第 142 年会 (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

3. 免疫賦活剤としての活用へ向けた酵母由来細胞外小胞の免疫学的特性解析

樋口 綾香, 森下 将輝, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬学会第 142 年会, (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

4. 免疫療法 DDS への応用を志向したビフィズス菌及び乳酸菌由来細胞外小胞の体内動態の評価

元村 友美, 森下 将輝, 木田 昌克, 阿多利 みずほ, 塚本 梨仁, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬学会第 142 年会, (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

5. プロバイオティクス由来細胞外小胞の自然免疫反応活性化に及ぼす免疫細胞上の TLR2 の機構解明.

山脇佑太, 森下将輝, 山口真里奈, 勝見英正, 山本昌

日本薬学会第 142 年会 (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

6. 新規吸収促進剤 sodium methyl lauroyl taurate (LMT) による消化管吸収促進機構の解析～膜流動性、膜抵抗値及びタイトジャンクション関連タンパク質の発現量に対する LMT の影響～

上田 祥吾, 細川 実里, 鶴飼 裕紀, 森下 将輝, 勝見 英, 山本 昌

日本薬学会第 142 年会, (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

7. 腎細胞癌治療を目的としたセリン修飾高分子を利用したメトトレキサートの腎臓ターゲティング法の開発

木村 葉, 勝見 英正, 辰己 日向子, 安富 彰一龍, 北田 翔, 安岡 慎太郎, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬学会第 142 年会, (オンライン開催/名古屋) 2022 年 3 月

8. セリン修飾を用いた新規腎臓ターゲティング型ドラッグデリバリーシステムの開発とその腎臓疾患治療への展開

勝見英正

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

9.一酸化窒素の腎臓ターゲティングによる腎細胞癌治療を目指したセリン修飾高分子型一酸化窒素供与体の開発

正木 克弥, 勝見 英正, 今西 智暉, 田中 里奈, 高島 梨恵, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

10.乳酸菌由来細胞外小胞が腸管に与える影響の解明及び経口投与を指向した製剤化に関する研究

村上 浩起, 森下 将輝, 笠井 美希, 山口 真里奈, 山脇 佑太, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

11.骨粗鬆症治療薬 alendronate の効率的な経皮送達を目的としたヒアルロン酸ゲルシートの開発

佐伯 美沙, 勝見 英正, 内藤 千尋, 米戸 邦夫, 大村 麻緒, 西殿 麻友子, 亀井 咲知, 溝口 瑛弥, 丹波 綾香, 田中 晶子, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

12.セリン修飾高分子を利用したメトトレキサートの腎臓ターゲティングによる腎細胞癌治療法の開発

安富 彰一龍, 勝見 英正, 木村 葉, 辰己 日向子, 北田 翔, 安岡 慎太郎, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

13.Labrasol 関連製剤併用による経鼻投与後のインスリン吸収性の改善及び吸収促進機構の解明

島田 帆嘉, 寺村 紗知, 鶴飼 裕紀, 森下 将輝, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

14.ビフィズス菌及び乳酸菌由来細胞外小胞の体内動態の解明と生理活性評価,

木田昌克, 森下 将輝, 元村 友美, 阿多利 みずほ, 塚本 梨仁, 勝見 英正, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

15.貧溶媒析出法における良溶媒中のイオン強度と総流速が及ぼす Stereocomplex 形成ポリ乳酸-ポリエチレングリコールブロック共重合体ナノ パーティクルの製剤特性への影響と体内動態解析

小川 耕平, 勝見 英正, 諸戸 康志, 森下 将輝, 山本 昌

日本薬剤学会第 37 年会, (オンライン開催/京都) 2022 年 5 月

16.鼻腔内投与による oxytocin の脳内送達- Glymphatic system の影響-

田中晶子, 谷口貴子, 西野真由, 井上大輔, 勝見英正, 山本 昌, 古林呂之, 坂根稔康

第 38 日本 DDS 学会学術集会 (オンライン開催/岡山) 2022 年 6 月

17.乳酸菌由来細胞外小胞を利用した腸管機能制御と経口投与を可能とする製剤化研究

森下 将輝, 村上 浩起, 笠井 美希, 山口 真里奈, 山脇 佑太, 勝見 英正, 山本 昌

第 38 日本 DDS 学会学術集会 (オンライン開催/岡山) 2022 年 6 月

18.セリン修飾高分子薬物担体を利用した活性酸素消去酵素の腎臓ターゲティング型 DDS の開発

今西智暉, 勝見英正, 田中里奈, 正木克弥, 森下将輝, 山本 昌

第 38 日本 DDS 学会学術集会 (オンライン開催/岡山) 2022 年 6 月

19.セリン修飾高分子を利用したメトトレキサートの腎臓ターゲティングならびにその腎細胞癌治療への応用

辰己 日向子, 勝見 英正, 木村 葉, 安富 彰一龍, 北田 翔, 安岡 慎太郎, 森下 将輝, 山本 昌

第 72 回 日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪) 2022 年 10 月

20.アミノ酸代謝機構とクリックケミストリーを利用したビフィズス菌由来細胞外小胞への分子搭載法の確立

真壁 瑞歩, 森下 将輝, 篠原 知紗, 勝見 英正, 山本 昌

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 (大阪) 2022 年 10 月

21.酵母由来細胞外小胞の基礎的特性の解明-物理化学的性質及び免疫活性化能の評価

森下将輝, 樋口綾香, 勝見英正, 山本 昌

第 12 回 4 大学連携研究フォーラム (京都) 2022 年 11 月

書籍等出版物

1. 中分子創薬に向けた DDS 開発の新展開. 山本昌, 鶴飼裕紀, 森下将輝, 勝見英正 (担当:分担執筆, 範囲:新規吸収促進剤 Capryol90 によるペプチド・タンパク性医薬品の消化管吸収性改善ならびにその吸収促進機構の解析) シーエムシー出版 2022 年 3 月

2. 次世代マイクロニードルの開発と応用. 勝見英正, 権 英淑, 神山文男, 山本 昌 (担当:分担執筆, 範囲:第 2 章 ヒアルロン酸マイクロニードルを用いた骨粗鬆症治療薬テリパラチド (hPTH1-34)の経皮デリバリー) シーエムシー出版 2022 年 12 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1.森下 将輝. ビフィズス菌の糖代謝機構を利用した機能性細胞外小胞の創製とがん免疫療法への応用, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月

2.勝見英正. 中分子医薬品の腎臓標的化 DDS の開発による腎臓疾患治療法の開発, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

3.勝見英正. セリン修飾を用いた腎臓への新規薬物送達技術に基づく腎疾患治療, キヤノン財団 2021 年 4 月-2024 年 3 月

論文

1. Predictive marker for exposure-driven haematological toxicity of tegafur-uracil and proposed modified-dosage regimen by pharmacometric approach in rats.
Shinji Kobuchi, Megumi Matsui, Yukako Ito
Xenobiotica; the fate of foreign compounds in biological systems 52(7) 697-706 2022 年 10 月
2. Comparing the pharmacokinetics and organ/tissue distribution of anti-methicillin-resistant Staphylococcus aureus agents using a rat model of sepsis.
Shinji Kobuchi, Naoya Kanda, Taichi Okumi, Yuma Kano, Himawari Tachi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
Xenobiotica; the fate of foreign compounds in biological systems 52(6) 1-27 2022 年 7 月 11 日
3. Associations of Plasma Concentration Profiles of Dapagliflozin, a Selective Inhibitor of Sodium-Glucose Co-Transporter Type 2, with Its Effects in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.
Tetsuo Hayakawa, Ken-Ichiro Kato, Shinji Kobuchi, Kaede Kataoka, Toshiyuki Sakaeda
Pharmaceuticals (Basel, Switzerland) 15(2) 2022 年 2 月 7 日
4. Assessment of drug-drug interaction and optimization in capecitabine and irinotecan combination regimen using a physiologically based pharmacokinetic model.
Shuhei Sakai, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
Journal of Pharmaceutical Sciences 2022 May;111(5):1522-1530.

講演・口頭発表等

1. FOLFIRINOX 療法の骨髄抑制に関する薬物動態／毒性薬力学的評価
三井和樹, 水本萌, 河津真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第 96 回日本薬理学会年会／第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月
2. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin による脂質プロファイル改善およびメカニズムの検討
三好達也, 谷手智, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 柴田敏之
第 96 回日本薬理学会年会／第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月
3. がん診療時の急性腎障害発症による capecitabine 体内動態の変動
上浦順子, 河津真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第 96 回日本薬理学会年会／第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月

4. フィブラート系薬剤 pemafibrate による筋肉系障害に対するスタチン系薬剤併用の影響
早川萌風, 飯間杏奈, 西田美沙緒, 前川頼子, 河渕真治, 伊藤由佳子, 上田ひかる, 横山聡, 細見光一, 高田
充隆, 柴田敏之
第 96 回日本薬理学会年会/第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月
5. SOX 療法時におけるオキサリプラチンの後根神経節中への移行性と概日リズムとの関連性
池本生, 河渕真治, 柴田敏之, 伊藤由佳子
第 96 回日本薬理学会年会/第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月
6. 急性腎障害発症が及ぼす SOX (S-1 + オキサリプラチン)療法の予後への影響
田中拓実, 河渕真治, 伊藤由佳子, 柴田敏之
第 96 回日本薬理学会年会/第 43 回日本臨床薬理学会学術総会 2022 年 12 月
7. Alternative proposal of dose reduction method of capecitabine for cancer patients with pre-existing
chronic kidney disease
Moe Taraki, Shinji Kobuchi, Toshiyuki Sakaeda, Yukako Ito
日本薬物動態学会第 37 回年会 2022 年 11 月
8. Role of uracil and dihydrouracil plasma ratio as a fluoropyrimidine-related toxicity biomarker in
FOLFIRINOX treatment to pancreatic cancer model rats
Moe Mizumoto, Shinji Kobuchi, Toshiyuki Sakaeda, Yukako Ito
日本薬物動態学会第 37 回年会 2022 年 11 月
9. Explorative study for dose limiting factor in acute kidney injury during SOX treatment by
population pharmacokinetic approach
Michi Kouno, Takumi Tanaka, Shinji Kobuchi, Toshiyuki Sakaeda, Yukako Ito
日本薬物動態学会第 37 回年会 2022 年 11 月
10. Pharmacokinetic/toxicodynamic modeling to elucidate the roles of dorsal root ganglion neuron in
oxaliplatin-induced peripheral neuropathy
Yasuhito Tsukushi, Shinji Kobuchi, Yukako Ito, Toshiyuki Sakaeda
日本薬物動態学会第 37 回年会 2022 年 11 月
11. フィブラート系薬剤 pemafibrate による筋肉系障害に関する基礎的検討
前川頼子, 飯間杏奈, 西田美沙緒, 早川萌風, 河渕真治, 伊藤由佳子, 上田ひかる, 横山聡, 細見光一, 高田
充隆, 柴田敏之
第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月

12. Sequential detection of circulating tumor cells by liquid biopsy after long-term therapy in pancreatic cancer mice
Amiri Kawakita, Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Shizuka Jonan, Kikuko Amagase, Toshiyuki Sakaeda, Hayao Nakanishi
第 81 回日本癌学会学術総会 2022 年 9 月
13. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与に伴う低マグネシウム血症の改善に関する臨床的、基礎的検討
太田哲平, 新野征志郎, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 栄田敏之
第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2022 年 9 月
14. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin の服薬アドヒアランスの客観的評価と有効性との関係について
小畑端穂, 市木香名, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 栄田敏之
第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2022 年 9 月
15. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与後の HbA1c の経時的変化を規定する因子について
市木香名, 小畑端穂, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 栄田敏之
第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2022 年 9 月
16. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin 投与に伴う血清リン酸濃度の上昇に関する臨床的、基礎的検討
新野征志郎, 太田哲平, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 栄田敏之
第 10 回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2022 年 9 月
17. ナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin の血漿中濃度と血糖降下作用の関係について
飯阪紗希, 片岡楓, 石垣遥香, 河津真治, 伊藤由佳子, 加藤健一郎, 早川哲雄, 栄田敏之
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月
18. I 型糖尿病モデルラットにおけるナトリウム・グルコース共輸送体 2 阻害剤 dapagliflozin の血漿中濃度と血糖降下作用との関係性
八島侃也, 片岡楓, 石垣遥香, 飯阪紗希, 河津真治, 伊藤由佳子, 栄田敏之
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. リキッドバイオプシーを活用する肺癌化学療法マネジメント実用化への展開
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
伊藤 由佳子

2. がん化学療法施行時の悪心・嘔吐リスク予測システムの構築と戦略的制吐療法の確立
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
河渕 真治

論文

1. Optimal Sampling Strategy and Threshold of Serum Vancomycin Concentration in Elderly Japanese Patients undergoing High-flux Hemodialysis

Akio Ogawa, Daiki Hira, Masayuki Tsujimoto, Kohshi Nishiguchi, Masanori Endo, Toshiaki Ono, Tsuguru Hatta, Tomohiro Terada, Shin-ya Morita

Therapeutic Drug Monitoring 44(3) 396-403 2022 年 8 月

2. Research on the relationship between serum indoxyl sulfate concentration and iron dynamics index in patients with end-stage kidney disease: a cross-sectional study

Takuya Yoshida, Masayuki Tsujimoto, Sachiyo Kawakami, Haruno Fujioka, Yuko Irie, Saki Nakatani, Ayako Iso, Ayaka Sugiyama, Mizuho Miyake, Kazumi Hirato, Rie Tanaka, Tomoko Oda, Taku Furukubo, Satoshi Izumi, Tomoyuki Yamakawa, Tetsuya Minegaki, Kohshi Nishiguchi

Renal Replacement Therapy 8(1) 2022 年 11 月 12 日

Misc

1. 乳癌患者に対するペルツズマブ併用がん化学療法投与時の infusion reaction 発現リスクの増強とその発現要因の探索

田淵 祐輔, 辻本 雅之, 山本 皓介, 小阪 直史, 阪口 晃一, 土淵 尚也, 西口 工司, 四方 敬介

日本薬学会年会要旨集 142 年会 28H-pm08S 2022 年 3 月

2. 乳癌患者に対するトラスツズマブ療法施行時の infusion reaction 発現要因および回避方法の探索

田淵祐輔, 辻本雅之, 山本皓介, 小阪直史, 阪口晃一, 西口工司, 四方敬介

第 30 回医療薬学フォーラム 2022 年 7 月

3. Retrospective Study of Risk Factors for Infusion Reactions in Patients with Breast Cancer Receiving Pertuzumab Combination Therapy

Yusuke Tabuchi, Masayuki Tsujimoto, Kosuke Yamamoto, Tadashi Kosaka, Koichi Sakaguchi, Naoya Dobuchi, Kohshi Nishiguchi, Keisuke Shikata

The 10th AASP Conference 2022 2022 年 7 月

4. デュロキシセチンに起因すると疑われる肺がん術後嘔吐に介入した慢性腎臓病患者症例

土岐 敦美, 辻本 雅之, 村木 優一

京都薬科大学紀要 3(1) 139-145 2022 年 7 月

5. 認知症の進行に伴い増悪した糖尿病患者への介入

上妻 加奈, 松本 崇宏, 辻本 雅之, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 3(1) 108-111 2022 年 7 月

6. 感染性心内膜炎の治療中に生じた薬剤熱

多賀野 正嗣, 松本 崇宏, 辻本 雅之, 藤村 保夫, 楠本 正明

京都薬科大学紀要 3(1) 130-134 2022 年 7 月

7. 皮下出血に不安を抱えるエドキサバン服用中の患者への対応

清水 隆也, 辻本 雅之

京都薬科大学紀要 3(1) 125-129 2022 年 7 月

8. なぜ、論文はリジェクトされるのか？

辻本 雅之

日本腎臓病薬物療法学会誌 11(特別号) S141-S141 2022 年 10 月

9. ADME の学び直し CKD 患者の薬物動態

辻本 雅之

日本腎臓病薬物療法学会誌 11(特別号) S130-S130 2022 年 10 月

講演・口頭発表等

1. 腎機能低下患者の 薬物動態の基本的な考え方～分布と消失の理解～

辻本雅之

第 43 回 日本病院薬剤師会 近畿学術大会 シンポジウム 2022 年 1 月 29 日

2. 「研究者に聴く」

西口工司

京都府立園部高等学校 第一学年中高一貫コース 2022 年 3 月

3. 論文検索術概論

辻本雅之

京都薬科大学 2022 年度 Lehmann プログラム 2022 年 4 月

4. 医療を支える薬物動態学

辻本雅之

京都薬科大学 2022 年度 Lehmann プログラム 2022 年 6 月

5. 論文作成概論

西口工司

京都薬科大学 2022 年度 Lehmann プログラム 2022 年 10 月

6. ADME の学び直し～CKD 患者の薬物動態～

辻本雅之

第 16 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2022 よくわかるシリーズ 2022 年 10 月 29 日

7. なぜ、論文はリジェクトされるのか？

辻本雅之

第 16 回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会 2022 学会誌編集委員会セミナー 2022 年 10 月 30 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 小細胞肺癌患者におけるUDP-グルクロン酸転移酵素 1A1 の遺伝子多型がエトポシドの体内動態及びその副作用発現に及ぼす影響

大学間連携等による共同研究 2019 年 10 月 - 2024 年 3 月

辻本雅之, 西口工司

2. 金属カチオン製剤によるロスバスタチン濃度低下メカニズムの解明と関連医薬品への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

辻本雅之, 西口工司

3. 長期間反復投与患者におけるワルファリン投与量の低下要因の解明と予測法の確立

京都薬科大学科学振興基金研究奨励金 2021 年 4 月-2024 年 3 月

辻本雅之

論文

1. Influence of pharmacists and infection control teams or antimicrobial stewardship teams on the safety and efficacy of vancomycin: A Japanese administrative claims database study.
Ryota Goto, Yuichi Muraki, Ryo Inose, Yoshiki Kusama, Akane Ono, Ryuji Koizumi, Masahiro Ishikane, Norio Ohmagari
PloS one 17(9) e0274324 2022 年
2. Cost and healthcare utilization of methicillin-resistant Staphylococcus aureus bacteremia estimated from linked antimicrobial resistance surveillance and hospital claims data in Japan.
Tomokazu Shoji, Ryusei Muto, Haruhisa Fukuda, Yuichi Muraki, Keishi Kawata, Manabu Akazawa
Antimicrobial stewardship & healthcare epidemiology : ASHE 2(1) e147 2022 年
3. Clinical Implication of the Relationship between Antimicrobial Resistance and Infection Control Activities in Japanese Hospitals: A Principal Component Analysis-Based Cluster Analysis.
Tomokazu Shoji, Natsu Sato, Haruhisa Fukuda, Yuichi Muraki, Keishi Kawata, Manabu Akazawa
Antibiotics (Basel, Switzerland) 11(2) 2022 年 2 月 10 日
4. Exploration of Trends in Antimicrobial Use and Their Determinants Based on Dispensing Information Collected from Pharmacies throughout Japan: A First Report.
Yuichi Muraki, Masayuki Maeda, Ryo Inose, Koki Yoshimura, Naoki Onizuka, Masao Takahashi, Eiji Kawakami, Yoshiaki Shikamura, Naotaka Son, Makoto Iwashita, Manabu Suzuki, Masayuki Yokoi, Hirokazu Horikoshi, Yasuaki Aoki, Michiyo Kawana, Miwako Kamei, Hajime Hashiba, Choichiro Miyazaki
Antibiotics (Basel, Switzerland) 11(5) 2022 年 5 月 18 日
5. A study of trends and factors associated with therapeutic drug monitoring (TDM) implementation for arbekacin treatment using a large Japanese medical claims database.
Saki Ito, Ryota Goto, Ryo Inose, Yoshiki Kusama, Akane Ono, Ryuji Koizumi, Masahiro Ishikane, Norio Ohmagari, Yuichi Muraki
Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy 28(9) 1266-1272 2022 年 5 月 20 日
6. Search for Indexes to Evaluate Trends in Antibiotic Use in the Sub-Prefectural Regions Using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan.

Kanako Mizuno, Ryo Inose, Yuna Matsui, Mai Takata, Daisuke Yamasaki, Yoshiki Kusama, Ryuji Koizumi, Masahiro Ishikane, Masaki Tanabe, Hiroki Ohge, Norio Ohmagari, Yuichi Muraki
Antibiotics (Basel, Switzerland) 11(6) 2022 年 6 月 2 日

7. 全国 98 の保険薬局から収集した 2013 年から 2018 年の経口抗菌薬の使用動向：パイロット調査
猪瀬 諒, 村木 優一, 吉村 昂樹, 鬼塚 直樹, 後藤 良太, 河上 英治, 金内 幸子, 武田 直子, 田城 涼子,
徳吉 淳一, 山田 英俊, 堀越 博一, 原口 亨, 島田 光明, 橋場 元, 宮崎 長一郎
日本薬剤師会雑誌 = Journal of the Japan Pharmaceutical Association 74(10) 1129-1135 2022 年
10 月

8. 医療的ケア児に対する薬学的ケアの実態および薬剤師の役割の考察
川名 三知代, 大場 延浩, 高橋 正夫, 河上 英治, 孫 尚孝, 村木 優一, 堀越 博一, 亀井 美和子, 橋場
元, 宮崎 長一郎
日本薬剤師会雑誌 74(11) 1315-1324 2022 年 11 月

9. Association between Carbapenem Consumption and Clinical Outcomes in an In-Hospital
Setting: Analysis of a Japanese Nationwide Administrative Database in 2020.
Kozue Yamaguchi, Masayuki Maeda, Norio Ohmagari, Yuichi Muraki
Antibiotics (Basel, Switzerland) 11(12) 2022 年 12 月 13 日

Misc

1. 【具体的な症例があるから、理解しやすい!!抗菌薬適正使用の ICT 実践講座】抗菌薬の副作用をどのように見極
めるか?
村木 優一
INFECTION CONTROL 31(2) 143-147 2022 年 2 月

2. 日本の大規模保険請求情報を用いたアルベカシン投与患者における TDM の実施と薬剤師の介入や感染症に
関わる診療報酬の算定状況との関連性
伊藤 早紀, 猪瀬 諒, 後藤 良太, 一井 萌乃, 下木 美里, 村木 優一
日本薬学会年会要旨集 142 年会 27G-am08S 2022 年 3 月

3. AST 加算に応じた抗菌薬適正使用支援のアプローチ 抗菌薬適正使用支援加算は、AST の活動に影響を与え
たか
村木 優一
日本化学療法学会雑誌 70(2) 251-252 2022 年 3 月

4. 有害事象自発報告データベースから得られた結果は大規模保険請求情報で検証できるのか?

大見 里奈, 猪瀬 諒, 中村 有沙, 岳野 秀二郎, 村木 優一

日本臨床腫瘍薬学会雑誌 25 342-342 2022 年 5 月

5. 大規模保険請求情報を用いた関節リウマチに対するメトトレキサート療法による悪性腫瘍と日本における悪性腫瘍の発現率の比較

中村 有沙, 猪瀬 諒, 大見 里奈, 岳野 秀二郎, 村木 優一

日本臨床腫瘍薬学会雑誌 25 244-244 2022 年 5 月

6. リアルワールドデータを用いたグリコペプチド系薬とピペラシリン/タゾバクタムの併用と急性腎障害の評価及び使用状況への影響

漣 航平, 猪瀬 諒, 後藤 良太, 村木 優一

日本化学療法学会雑誌 70(Suppl.A) 305-305 2022 年 5 月

7. コロナ後の AMR 対策の行方 日本における抗菌薬の使用動向

村木 優一

日本化学療法学会雑誌 70(Suppl.A) 169-169 2022 年 5 月

8. 保険請求情報等のリアルワールドデータを用いた感染症領域における研究をどう展開するか 目的に応じたデータソースの使い分け

村木 優一

日本化学療法学会雑誌 70(Suppl.A) 151-151 2022 年 5 月

9. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学(第 2 回) β -ラクタム系薬/マクロライド系薬

松元 一明, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 64(8) 1662-1671 2022 年 6 月

10. 抗血栓薬服用中の患者における消化管出血時の薬剤選択に関わった症例

横井 裕一, 古田 巧, 村木 優一

京都薬科大学紀要 3(1) 155-160 2022 年 7 月

11. ロスバスタチンと酸化マグネシウムの相互作用を疑った症例

平野 徹, 猪瀬 諒, 村木 優一

京都薬科大学紀要 3(1) 151-154 2022 年 7 月

12. デュロキセチンに起因すると疑われる肺がん術後嘔吐に介入した慢性腎臓病患者症例

土岐 敦美, 辻本 雅之, 村木 優一

京都薬科大学紀要 3(1) 139-145 2022 年 7 月

13. FOLFOXIRI+ベバシズマブ療法に伴う悪心および下痢の予防に関わった症例

竹内 隆馬, 猪瀬 諒, 村木 優一, 四方 敬介

京都薬科大学紀要 3(1) 135-138 2022 年 7 月

14. リファンピシンによる酵素誘導がポリコナゾールの薬物動態に影響した症例

柏原 陽平, 村木 優一

京都薬科大学紀要 3(1) 98-103 2022 年 7 月

15. 菌血症患者に対する ICT 専任の認定薬剤師による介入の影響

中嶋 里佳, 森 章哉, 榎屋 友幸, 村木 優一, 別所 裕二, 小林 百合, 川上 恵基, 守田 寛

医療薬学 48(8) 350-357 2022 年 8 月

16. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学(第 4 回)(Case1) 抗真菌薬(内服・外用)

浜田 幸宏, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 64(11) 2384-2392 2022 年 8 月

17. 日本で初めて明らかとなった全国の薬局から収集した調剤情報に基づく抗菌薬使用動向とその影響因子の探索

村木 優一, 前田 真之, 猪瀬 諒, 高橋 正夫, 河上 英治, 堀越 博一, 橋場 元, 宮崎 長一郎

日本薬剤師会学術大会講演要旨集 55 回 238-238 2022 年 10 月

18. 抗菌薬の適正使用にかかわる薬剤師の現状と課題解決に向けた研究

三宅 健文, 猪瀬 諒, 上田 寛, 北原 篤志, 前田 真之, 眞継 賢一, 村木 優一

日本病院薬剤師会雑誌 58(10) 1222-1224 2022 年 10 月

19. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学 副鼻腔炎・中耳炎/肺炎(市中肺炎・細菌性)

西村 信弘, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 64(13) 2717-2724 2022 年 10 月

20. 医療的ケア児に対する薬学的ケアの実態および薬剤師の役割の考察

川名 三知代, 大場 延浩, 高橋 正夫, 河上 英治, 孫 尚孝, 村木 優一, 堀越 博一, 亀井 美和子, 橋場 元, 宮崎 長一郎

日本薬剤師会雑誌 74(11) 1315-1324 2022 年 11 月

21. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学 肺炎(市中肺炎・非定型肺炎)/肺炎(医療介護
関連肺炎・院内肺炎)

三星 知, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 64(15) 3241-3247 2022 年 11 月

22. ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学 尿路感染症/皮膚感染症(尋常性ざ瘡)

杉田 直哉, 山崎 博史, 村木 優一, 辻 泰弘

薬事 64(16) 3439-3445 2022 年 12 月

講演・口頭発表等

1. 有害事象自発報告データベースから得られた結果は大規模保険請求情報で検証できるのか？

大見里奈, 猪瀬諒, 中村有沙, 岳野 秀二郎, 村木 優一

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022 2022 年 3 月

2. 大規模保険請求情報を用いた関節リウマチに対するメトトレキサート療法による悪性腫瘍と日本における悪性腫瘍の発現率の比較

中村有沙, 猪瀬 諒, 大見里奈, 岳野秀二郎, 村木優一

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2022 2022 年 3 月

3. 大規模保険診療情報を用いた小児におけるポリコナゾールの適正使用に関する評価

後藤良太, 沢田佳祐, 猪瀬諒, 村木優一

第 8 回日本医真菌学会関西支部「深在性真菌症研究会」 2022 年 3 月

4. 日本の大規模保険請求情報を用いたアルベカシン投与患者における TDM の実施と薬剤師の介入や感染症に関わる診療報酬の算定状況との関連性

伊藤早紀, 猪瀬諒, 後藤良太, 一井萌乃, 下木美里, 村木優一

第 142 回日本薬学会 2022 年 3 月

5. Antimicrobial use monitoring in countries experiencing population ageing needs incorporating changes in population structure

Ryuji Koizumi, Yoshiki Kusama, Yusuke Asai, Shinya Asai, Masahiro Ishikane, Yuichi Muraki, Norio Ohmagari

ECCMID 2022 2022 年 4 月

6. J-SIPHE

村木 優一

令和 4 年度日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師講習会(第 1 回) 2022 年 5 月

7. リアルワールドデータを用いたグリコペチド系薬とピペラシリン／タゾバクタムの併用と急性腎障害の評価及び使用状況への影響

漣 航平, 猪瀬 諒, 後藤 良太, 村木 優一

第 70 回日本化学療法学会総会 2022 年 6 月

8. 目的に応じたデータソースの使い分け

村木 優一

第 70 回日本化学療法学会総会 2022 年 6 月

9. 日本における抗菌薬の使用動向

村木 優一

第 70 回日本化学療法学会総会 2022 年 6 月

10. 日本の大規模保険請求情報を用いたアルベカシン投与患者における治療薬物モニタリング (TDM) の実施に関する影響因子の探索

伊藤 早紀, 猪瀬 諒, 後藤 良太, 一井 萌乃, 下木 美里, 村木 優一

医療薬学フォーラム 2022/第 30 回クリニカルファーマシーシンポジウム 2022 年 7 月

11. 薬学部における感染症領域の教育：京都薬科大学の場合

村木 優一

第 5 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum 2022 年 7 月

12. 大規模診療情報データベースを用いた悪性リンパ腫治療薬の二次がんリスクに関する多角的評価

土手 賢史, 猪瀬 諒, 後藤 良太, 小林 由佳, 村木 優一

第 32 回日本医療薬学会年会 2022 年 9 月

13. 膀胱がん S-1 術後補助化学療法における重篤な有害事象の発現に関する現状調査

野口 裕介, 大坪 達弥, 小林 大祐, 加藤 良隆, 猪瀬 諒, 村木 優一, 友金 幹視

第 32 回日本医療薬学会年会 2022 年 9 月

14. NAP2016 後の薬学部における活動と NAP2023 に向けて薬剤師としてどう関わるべきか

村木 優一

第 32 回日本医療薬学会年会 2022 年 9 月

15. 日本で初めて明らかとなった全国の薬局から収集した調剤情報に基づく抗菌薬使用動向とその影響因子の探索

村木 優一

第 55 回日本薬剤師会学術大会 2022 年 10 月

16. Cross-sectional survey on education of clinical infectious diseases and antimicrobial resistance in pharmaceutical department in Japanese universities

Ryuji Koizumi, Chika Tanaka, Mio Endo, Yumiko Fujitomo, Shinya Tsuzuki, Yusuke Asai, Akane Ono, Yuichi Muraki, Takashi Kitahara, Norio Ohmagari

IDWeek 2022 2022 年 10 月

17. 規模保険診療情報を用いたバンコマイシン投与後の急性腎障害発生率および 30 日死亡率に対する治療薬物
モニタリングの効果

後藤良太, 猪瀬諒, 村木優一

第 70 回日本化学療法学会西日本支部総会 2022 年 11 月

18. バンコマイシンの安全性および有効性に対する薬剤師や感染症に関連するチームの影響

後藤良太, 村木優一, 猪瀬諒, 日馬由貴, 大野茜子, 小泉龍士, 石金正裕, 大曲貴夫

第 12 回 京都 4 大学連携研究フォーラム 2022 年 11 月

19. 外来抗菌薬の使用状況と適正使用の評価に求められる仕組みとは

村木 優一

第 92 回日本感染症学会西日本地方会学術集会／第 65 回日本感染症学会中日本地方会学術集会／第 70
回日本化学療法学会西日本支部総会 2022 年 11 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 薬剤耐性 (AMR) アクションプランの実行に関する研究

厚生労働省(MHLW) 厚生労働科学研究費補助金(厚生科研費) 2020 年 - 2022 年

大曲 貴夫

2. 基礎や臨床研究で得られた臨床上での有用性はリアルワールドデータで検証できるのか

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

村木 優一

3. 診療所及び高齢者施設を対象とする効率的・効果的な薬剤耐性菌制御手法の確立のための研究

厚生労働省(MHLW) 厚生労働科学研究費補助金(厚生科研費) 2022 年 4 月 - 2025 年 3 月

大毛 宏喜

4. 抗がん剤のうつ病誘発リスクに関する基礎的および薬剤疫学的検証

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月

長澤 一樹, 森戸 克弥, 村木 優一, 高山 健太郎

論文

1. Rapid conversion of human induced pluripotent stem cells into dopaminergic neurons by inducible expression of two transcription factors.

Kaneyasu Nishimura, Tatsumi Nitta, Keisuke Doi, Kazuyuki Takata

Stem Cells and Development 2022 年 4 月 14 日

Misc

1. 多能性幹細胞の運命決定における薬学的制御と再生医療への発展

西村周泰, 高田和幸

京都薬科大学紀要 3(1) 37-55 2022 年 7 月 13 日

2. Nicotinic Acetylcholine Receptors and Microglia as Therapeutic and Imaging Targets in Alzheimer's Disease.

Kazuyuki Takata, Hiroyuki Kimura, Daijiro Yanagisawa, Koki Harada, Kaneyasu Nishimura, Yoshihisa Kitamura, Shun Shimohama, Ikuo Tooyama

Molecules 27(9) 2780-2780 2022 年 4 月 27 日

講演・口頭発表等

1. ダウン症候群関連遺伝子によるアルツハイマー病モデルマウスにおけるアミロイドβ凝集と致死性の抑制効果

石原慶一, 河下映里, 勝田瑞生, 斉藤美知子, 左合治彦, 山川和弘, 秋葉聡, 高田和幸

日本人類遺伝学会第 67 回大会 2022 年 12 月 16 日

2. 動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした放射性ヨウ素標識酸化 LDL を用いた生体イメージングの解析

井澤満, 河嶋秀和, 奥野結衣, 中谷純菜, 武田麻友子, 石原慶一, 秋葉聡, 高田和幸

第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 12 月 1 日

3. 生薬由来低分子化合物の Aβ 神経毒性に対する保護作用と Aβ イメージングに向けた解析

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 中村誠宏, 松本崇宏, 高田和幸

第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 11 月 30 日

4. 生薬由来 Aβ 結合性低分子化合物の神経保護作用の解析

松田英里香, 福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 花木葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 岡崎瑞紀, 田中雪衣, 中村誠宏, 松田久司, 西村周泰, 高田和幸

第 41 回日本認知症学会学術集会 2022 年 11 月 26 日

5. 酸化 LDL 標識体を用いた動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした動脈硬化巣バイオイメージングの検討

井澤満, 河嶋秀和, 奥野結衣, 中谷純菜, 石原慶一, 秋葉聡, 高田和幸

第 16 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム 2022 年 10 月 29 日

6. タイプ別 $\alpha 7$ ニコチン受容体作用薬によるミクログリア機能制御の解析

末吉真梨, 原田考輝, 大川満咲, 荒木里緒奈, 北村佳久, 下濱俊, 高田和幸

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

7. 2 つの転写因子 ASCL1 と LMX1A の誘導性発現によるヒト人工多能性幹細胞からドパミン神経細胞への迅速な変換法の開発

土居佳祐, 西村周泰, 仁田達海, 高田和幸

第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会 2022 年 10 月 8 日

8. Bacopa monniera 由来 $A\beta$ 結合性低分子化合物による $A\beta$ の検出と神経保護作用の解析

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木葵, 河嶋秀和, 木村寛之, 中村誠宏, 松本崇宏, 岡崎瑞紀, 松田英里香, 田中雪衣, 松田久司, 高田和幸

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月 10 日

9. CRISPR-Cas9 を用いた α -シヌクレインノックアウトヒト iPS 細胞の作製とドパミン神経毒に対する抵抗性の評価

井上自然, 西村周泰, 儀間芹菜, 中野舞, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2022 2022 年 8 月 27 日

10. 生薬由来化合物の $A\beta$ への結合性とヒト iPS 細胞由来神経細胞に対する $A\beta$ 誘発細胞死抑制作用の解析

花木葵, 福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 河嶋秀和, 木村寛之, 松田英里香, 岡崎瑞紀, 田中雪衣, 中村誠宏, 松田久司, 高田和幸

次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2022 2022 年 8 月 27 日

11. ニコチン性アセチルコリン受容体の薬理学的刺激による原始マクロファージおよびドパミン神経の分化への影響

岩崎良太, 原田考輝, 加藤丈使, 平尾真大, 西村周泰, 下濱俊, 高田和幸

次世代を担う若手のための 創薬・医療薬理シンポジウム 2022 2022 年 8 月 27 日

12. ニコチン性アセチルコリン受容体の薬理学的刺激による原始マクロファージおよびドパミン神経の分化への影響

原田考輝, 加藤丈使, 平尾真大, 岩崎良太, 西村周泰, 下濱俊, 高田和幸

生体機能と創薬シンポジウム 2022 2022 年 8 月 25 日

13. 多能性幹細胞由来原始マクロファージならびにドパミン神経細胞の誘導におけるニコチン性アセチルコリン受容体の機能解析

原田考輝, 加藤丈使, 平尾真大, 西村周泰, 下濱俊, 高田和幸

第 65 回日本神経化学学会大会 2022 年 7 月 1 日

14. ダウン症関連遺伝子のアミロイドβ蓄積に及ぼす影響の検討

石原慶一, 河下映里, 西村周泰, 斉藤美知子, 左合治彦, 山川和弘, 秋葉聡, 高田和幸

第 65 回日本神経化学学会大会 2022 年 6 月 30 日

15. Stem cell-derived microglia and Alzheimer's disease.

Kazuyuki Takata

Novel Approaches On PET Research-Total-Body Imaging, Radiopharmaceuticals, And Machine Learning. Joint symposium 2022 年 6 月 8 日

16. ヒト人工多能性幹細胞由来アセチルコリン作動性神経細胞を用いた *Bacopa monniera* から抽出した Aβ 結合性化合物の神経保護作用の解析

福田愛菜, 中嶋聡一, 尾田好美, 西村周泰, 花木葵, 細田依里, 松田英里香, 中村誠宏, 松田久司, 高田和幸

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

17. 黒質線条体経路を再現する多領域性を持つ脳モデルの作製

西村周泰, 網本直弥, 中野舞, 高田和幸

第 21 回日本再生医療学会総会 2022 年 3 月 18 日

18. iPS 細胞由来ミクログリアを用いたニコチン性アセチルコリン受容体を標的とした機能制御の解析

末吉真梨, 西村周泰, 下濱俊, 高田和幸

第 95 回薬理学会年会 2022 年 3 月 7 日

19. 発生原理の再現によるミクログリアの誘導と脳領域特異的な神経誘導技術を用いた病態の解析と神経機能再生研究基盤の確立に向けて

西村周泰, 高田和幸

第 95 回日本薬理学会年会 2022 年 3 月 7 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 脳内免疫環境変化の解析によるアルツハイマー病の病態解明と治療への応用

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
高田 和幸, 石原 慶一, 西村 周泰

2. 脳免疫細胞ミクログリアの発生から迫る脳機能構築機序の解明と脳疾患治療への応用の研究

公益財団法人小林財団 公益財団法人小林財団 第 10 回（令和 3 年度）研究助成 2022 年 3 月 - 2025 年 2 月

3. 細胞分化、組織生着ならびに成熟に対するニコチン性アセチルコリン受容体の機能解析

公益財団法人喫煙科学研究財団 公益財団法人喫煙科学研究財団 令和 4 年度（2022 年度）助成研究
2022 年 4 月 - 2023 年 3 月

論文

1. Effect of One-side-shoulder Bag Holding with Different Weights on Center of Gravity Shaking during a Standing Posture in Young Women
Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura, Hiroshi Hirai
American Journal of Sports Science and Medicine 10(1) 1-5 2022 年
2. Effects of Intensive Up-to-Exhaustion Walking Exercise on the Center of Gravity Sway
Yoshinori Nagasawa, Shinichi Demura
International Journal of Clinical and Experimental Medicine Research 6(3) 314-320 2022 年
3. Associations of circulating xanthine oxidoreductase activity with cardiometabolic risk markers in overweight and obese Japanese men: a cross-sectional pilot study
Keisei Kosaki, Atsumu Yokota, Koichiro Tanahashi, Kanae Myoenzono, Jiyeon Park, Toru Yoshikawa, Yasuko Yoshida, Takayo Murase, Seigo Akari, Takashi Nakamura, Seiji Maeda
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 71(2) 122-128 2022 年

Misc

1. 地域医療推進および健康づくりに適用可能な身体機能評価法の開発に関する研究、大学院等の機能の高度化への支援 大学間連携等による共同研究
長澤吉則
私立大学等経常費補助金 特別補助 報告書 2022 年 3 月

講演・口頭発表等

1. 若年者における開眼及び閉眼静止立位姿勢時の重心動揺の変動特性
長澤吉則, 出村慎一, 青木宏樹, 内田雄, 山次俊介
日本体育測定評価学会 第 21 回大会 新潟(オンライン開催) 2022 年 3 月
2. 高齢者における四肢の連続選択反応テストの試行間信頼性
青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則
日本体育測定評価学会 第 21 回大会 新潟(オンライン開催) 2022 年 3 月
3. 疲労困憊に至るハードな歩行運動が重心動揺に及ぼす影響

長澤吉則, 出村慎一, 青木宏樹

第 69 回日本教育医学会大会, 大阪(オンライン開催) 2022 年 8 月

4. 児童における規定テンポステップ時の重心動揺変数の試行間信頼性

青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則

第 69 回日本教育医学会大会, 大阪(オンライン開催) 2022 年 8 月

5. 児童における規定テンポステップ時の重心動揺変数間の関係

青木宏樹, 出村慎一, 長澤吉則

日本体育・スポーツ・健康学会 第 72 回大会 2022 年 9 月

6. 下肢の等尺性筋力発揮調整能の性差及び年代差

長澤吉則, 出村慎一, 青木宏樹, 沼尾成晴, 棚橋嵩一郎

日本体育・スポーツ・健康学会 第 72 回大会(千葉) 2022 年 9 月

7. 小学校 1 年から 3 年生男子児童の立位姿勢時における足裏形態値の比較

浮田咲子, 出村慎一, 佐藤敏郎, 長澤吉則

第 77 回日本体力医学会大会, 栃木(オンライン開催) 2022 年 9 月

8. 若年者における下肢の等張性筋力発揮調整能の性差

長澤吉則, 出村慎一, 沼尾成晴, 棚橋嵩一郎

第 77 回日本体力医学会大会, 栃木(オンライン開催) 2022 年 9 月

9. 加齢に伴う血中 ADMA 濃度の増加と有酸素性運動能力の関係

棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 松井公宏, 吉岡将輝, 森翔也, 西谷菜津美, 金子萌子, 朴志娟, 斎藤知栄,
黒尾誠, 山縣邦弘, 前田清司

第 41 回 日本臨床運動療法学会 2022 年 9 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 重心動揺により身体異常や体調不良を評価しうるか

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2018 年 4 月 - 2022 年 3 月

出村 慎一, 山次 俊介, 山田 孝禎, 青木 宏樹, 内田 雄, 石川 多加子, 長澤 吉則

2. オープンスキル系競技選手の敏捷性を評価する新規テスト開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2018 年 4 月 - 2022 年 3 月

青木 宏樹, 内田 雄, 出村 慎一, 長澤 吉則, 山次 俊介, 山田 孝禎, 浮田 咲子

3. 高齢者の転倒予防のための新規転倒回避テストの開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2019 年 4 月 - 2023 年 3 月
当麻 成人, 出村 慎一, 川端 悠, 長澤 吉則, 松浦 義昌, 青木 宏樹

4. 運動競技選手の浮き趾を含む足裏形態, 履物, 関節痛との関係

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020 年 4 月 - 2024 年 3 月
佐藤 敏郎, 出村 慎一, 長澤 吉則, 浮田 咲子, 青木 宏樹

5. 簡便且つ安全な児童の動的バランステストの開発

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月
青木 宏樹, 出村 慎一, 長澤 吉則, 浮田 咲子

6. 習慣的な有酸素性運動が動脈硬化の進行を抑制する機序の解明 : ADMA に着目して

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2020 年 4 月 - 2023 年 3 月
棚橋 嵩一郎

社会貢献活動

1. すこやかに良い人生をかさねる : サクセスフル・エイジングと高齢者の体力、身体機能、運動

講師 (長澤吉則)

NPO 法人助けあいグループ りぼん講演会 2022 年 9 月

物理学

論文

1. Measurement of spatial fluence distribution of neutrons and gamma rays using MAGAT-type gel detector doped with LiCl for BNCT at Kyoto University Reactor
Kenichi Tanaka, Tsuyoshi Kajimoto, Aruma Mitsuyasu, Yuto Ito, Shin-ichiro Hayashi, Yoshinori Sakurai, Hiroki Tanaka, Takushi Takata, Gerard Bengua, Satoru Endo
Journal of Physics: Conference Series 2167(1) 012006-012006 2022 年 1 月 1 日 査読有り
2. "Measurement of BNCT beam component fluence with multi imaging plate system",
K.Tanaka, Y.Sakurai, C.Hatori, T.Kajimoto, H.Tanaka, T.Takata, G.Bengua, S.Endo
KURNS Progress Report 2021, (2022) 60(R3P6-10). 60-60 2022 年 8 月 査読無し
3. 高村侑汰、田中憲一、梶本剛、遠藤暁「BaFBr:Eu²⁺蛍光体 LET 依存性の測定」、医学物理 42 Sup. 3 (2022) 134. 査読有り

MISC

1. 高村侑汰, 梶本剛, 田中憲一, 山本智也, 鈴木 正敏, Chary RANGACHARYULU, 遠藤暁「¹³⁴Cs、¹³⁷Cs、¹³¹I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数の推定」日本原子力学会中国・四国支部第 16 回研究発表会要旨集、(2022) 55-57.
2. 高村侑汰, 梶本剛, 鈴木正敏, 田中憲一, 遠藤暁「¹³⁴Cs、¹³⁷Cs、¹²⁹I、¹³¹I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数」日本原子力学会 2023 年秋の大会要旨集、(2023) 33.
3. 尾崎将也, 田中憲一, 遠藤暁, 梶本剛, 「色素ゲルを用いた線量計の開発」日本原子力学会中国・四国支部第 16 回研究発表会要旨集、(2022) 1-3.

学会発表

1. 高村侑汰, 梶本剛, 田中憲一, 山本智也, 鈴木 正敏, Chary RANGACHARYULU, 遠藤暁「¹³⁴Cs、¹³⁷Cs、¹³¹I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数の推定」日本原子力学会中国・四国支部第 16 回研究発表会、(2022.12.17)広島
2. 尾崎将也, 田中憲一, 遠藤暁, 梶本剛, 「色素ゲルを用いた線量計の開発」日本原子力学会中国・四国支部第 16 回研究発表会、(2022.12.17)広島.
3. 高村侑汰, 梶本剛, 田中憲一, 山本智也, 鈴木正敏 Chary RANGACHARYULU, 遠藤暁、「¹³⁴Cs、¹³⁷Cs、¹³¹I における二ホンザルの内部被ばく臓器線量率換算係数の推定」第 7 回 福島原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会 (2022.8.28) 仙台
4. 高村侑汰, 田中憲一, 梶本剛, 遠藤暁、「BaFBr:Eu²⁺蛍光体 LET 依存性の測定」第 124 回日本医学物理学学会学術大会 (2022.9.15-17) 長崎

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 代表者、基盤研究（C）（一般）、2020～2022 年度（課題番号：20K08050）「BNCT 治療中のビーム強度・線質の照射面内 2 次元分布を測定する手法の開発」、直接経費計 340 万円、間接経費含めて計 442 万円

数学

書籍等出版物

1.薬科系の基礎数学 Part 1 –微分–

上野嘉夫

学術図書出版社 2022 年 4 月 (ISBN: 9784780610246)

2.薬科系の基礎数学 Part 2 –積分, 微分方程式–

上野嘉夫

学術図書出版社 2022 年 4 月 (ISBN: 9784780610383)

講演・口頭発表等

1.統計多様体の余接バンドル上のハミルトン力学系 –対称性, 簡約化の観点から–

上野嘉夫

Poisson 幾何とその周辺 22 2022 年 12 月 3 日

論文

1. Threonine phosphorylation regulates the molecular assembly and signaling of EGFR in cooperation with membrane lipids.

Ryo Maeda, Hiroko Tamagaki-Asahina, Takeshi Sato, Masataka Yanagawa, Yasushi Sako

Journal of cell science 135(15) 2022 年 8 月 1 日 査読有り

2. Effect of hydrophobic moment on membrane interaction and cell penetration of apolipoprotein E-derived arginine-rich amphipathic α -helical peptides

Yuki Takechi-Haraya, Takashi Ohgita, Mana Kotani, Hiroki Kono, Chihiro Saito, Hiroko Tamagaki-Asahina, Kazuchika Nishitsuji, Kenji Uchimura, Takeshi Sato, Ryuji Kawano, Kumiko Sakai-Kato, Ken-ichi Izutsu, Hiroyuki Saito

Scientific Reports 12(1) 4959-4959 2022 年 12 月 査読有り

3.金亀山福王寺が所蔵する『小部類集』に含まれている「律蔵目録」について：近世後期の律理解

岸野良治

京都薬科大学紀要 3(1) 1-13 2022 年 7 月 査読有り

4.A Translation of the Story of an Angry Monk Who Became a Poisonous Snake in the Mukataka of the Mulasarvastivada-vinaya: Part Two, Partial Parallels to the Avadana-sataka.

Kishino Ryohji

佛教學セミナー 115(1) 1-33 2022 年 6 月 査読有り

5.學如（1716-73）の編纂した義浄訳『根本薩婆多部律攝』に付せられた密門（1719-88）の序文と、そこに加えられた書き込みについて

岸野良治

西山禪林学報 33 1-130 2022 年 3 月

Misc

1.2022 年学会回顧「法哲学（1 一般（年報・専門誌／論文集・雑誌特集／教科書・入門書その他）、4 正義論・政治哲学・倫理学、担当）」

野崎亜紀子, 近藤圭介, 菅原寧格

法律時報 94(1184)(13) 221-226 2022 年 12 月

2.リベラリズムと出生前検査制度——個人・専門家集団・公権力の関係から考える

野崎亜紀子

α SYNODOS (303) 2022 年 10 月

3.公的規律の観点からみた NIPT 等の出生前検査について

野崎亜紀子

母子保健情報誌 (7) 9-14 2022 年 3 月

4.「ひと手間多い」オーストリアの医療事情

坂本尚志

京都薬報 (530) 69-70 2022 年 10 月 招待有り筆頭著者

5.書評 松野充貴著『ミシェル・フーコーの歴史的「批判」——カントと対話するフーコー』

坂本尚志

フランス哲学・思想研究 27 269-272 2022 年 9 月 1 日

6.コロナ禍のオーストリアで暮らす

坂本尚志

京都薬報 (528) 65-66 2022 年 8 月 招待有り筆頭著者

7.フランスの論述教育を日本の教育に取り入れるには —論述とテキスト読解—

ジロー ジャン ピエール, 坂本 尚志, 林 洋輔, 井上 直子

大阪教育大学紀要. 総合教育科学 70 429-448 2022 年 2 月 28 日

8.ウィーンから見るフランス

坂本尚志

フランス教育学会紀要 (34) 181-182 2022 年

書籍等出版物

1.バカロレアの哲学 : 「思考の型」で自ら考え、書く

坂本尚志

日本実業出版社 2022 年 2 月 (ISBN: 9784534059031)

講演・口頭発表等

1.プロフェッショナリズムと ELSI : 研究審査の観点から研究公正を考える

野崎亜紀子

HAB 研究機構 Human Tissue Center「2022 年度第 2 回 人を対象とする研究倫理指針研修会」2022 年 12 月 13 日

2.リベラリズムと出生前検査制度 -個人・専門家集団・公権力の関係から考える- (ワークショップ III「NIPT 等出生前検査制度の今とこれからを考える」)

野崎亜紀子

第 52 回日本医事法学会研究大会 2022 年 11 月 26 日

3.How to teach a framework for thinking? - Dissecting philosophy education in France

Takashi Sakamoto

Vortragsreihe: Pädagogik – Zwischen ihrem Zentrum und ihren Rändern 2022 年 6 月 27 日 招待有り

4.ミシェル・フーコー、その生、思想、誤謬

坂本尚志

多賀茂『概念と生 ドゥルーズからアガンベンまで』合評会 2022 年 4 月 29 日

5.空海の遺志を継ぐ江戸期の学匠たち：戒律文献の実見調査と解説

岸野良治

第 12 回京都 4 大学連携フォーラム 2022 年 11 月 29 日

6.The Narrative Story about the One Who Became a Poisonous Snake Preserved in the Mulasarvastivada-vinaya and the Avadana-sataka.

Kishino Ryohji

Thus Have I Heard: Patterns and Logics in Buddhist Narrative Literature 2022 年 11 月 26 日 招待有り

7.金亀山福王寺が所蔵する『小部類集』に含まれている「律蔵目録」について：近世後期の「根本説一切有部律」理解

岸野良治

日本印度学佛教学会第 73 回学術大会 2022 年 9 月 4 日

8.チャンダカ・ビクシャナ（Skt. chandaka-bhiksana）をめぐる一考察

岸野良治

日本印度学佛教学会第 73 回学術大会 2022 年 9 月 4 日

9.Japanese Mulasarvastivada-vinaya Tradition in the Late Edo 江戸 Period: Shingon 真言 Monks' Views about the Authenticity of the Mulasarvastivada-vinaya

Kishino Ryohji

XIXth Congress of the International Association of Buddhist Studies 2022 年 8 月 17 日

10.戒律と説話：「根本説一切有部律」と『アヴァダーナ・シャタカ』に見られる毒蛇譚について

岸野良治

第 32 回西日本インド学仏教学会学術大会 2022 年 7 月 23 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. Notch 受容体機能の膜組成への依存性の解析とシグナリング機構の解明

日本学術振興会：科学研究費助成事業 基盤研究(C)

2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

佐藤 毅

2. がん全ゲノム解析における患者還元の出口に向けた ELSI の検討

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED） 革新的がん医療実用化研究事業「全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践」2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

野崎亜紀子

3. 患者への説明と同意取得・患者還元を行う方法についての倫理的検討

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 AMED 令和 3 年度「革新的がん医療実用化研究事業」【領域 1-7】がん全ゲノム解析等における患者還元に関する研究 全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践 2022 年 4 月 - 2023 年 3 月

野崎亜紀子

4. 「最初のフーコー」の総合的研究－フランス国立図書館所蔵の未公刊資料に基づく考察

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2022 年 4 月 - 2026 年 3 月

坂本尚志

5. 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月

林 篤裕, 坂本 尚志, 児玉 忠, 鈴木 慶子

6. フランスの論述型大学入試で問われる思考力・判断力・表現力とその育成法の総合的研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 基盤研究(B) 2019 年 4 月 - 2022 年 3 月

細尾 萌子, 夏目 達也, 田川 千尋, 渡邊 雅子, 大津 尚志, 大場 淳, 坂本 尚志, 上垣 豊, 三好 美織, 荒尾 一彦

7. 『分析手帖』と『マルクス＝レーニン主義手帖』—60 年代フランスにおける学知と革命

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2019 年 4 月 - 2022 年 3 月

坂本尚志

8. 空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」宣揚運動

日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤 C） 2022 年 4 月 - 2027 年 3 月

岸野良治

9.空海の遺志を継ぐ学僧たち：近世後期の「根本説一切有部律」研究

三菱財団 人文科学研究助成 2022 年 4 月 - 2023 年 3 月

岸野良治

10.光感受性ナノポア形成能をもつ人工 BAX タンパク質の構築

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2018 年 4 月 - 2022 年 3 月

朝比奈 裕子

メディア報道

1.『バカロレアの哲学：「思考の型」で自ら考え、書く』

公益社団法人 全国学校図書館協議会 学校図書館速報版 23 2022 年 5 月 新聞・雑誌

坂本尚志

2.田中孝太郎「思考の型」が浮き彫りにする民主主義の難しさ

株式会社啓文社 表現者クライテリオン 240 2022 年 5 月

坂本尚志

3.『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』坂本尚志著（日本実業出版社） 1 8 7 0 円 評：佐藤義雄

読売新聞社 読売新聞 2022 年 4 月 24 日 新聞・雑誌

坂本尚志

4.坂本尚志著『バカロレアの哲学「思考の型」で自ら考え、書く』評：津崎良典

株式会社読書人 週刊読書人 4 2022 年 3 月 18 日 新聞・雑誌

坂本尚志

著書

- 1) 開章宏(分担執筆). 第 1 章 基礎的な学びのスキル 1.3 講義を終えてから-学修の定着に向けて-,「京薬生のためのアカデミック・スキル(2022 年度版)」, 坂本尚志, 開章宏, 高尾郁子; 京都薬科大学アカデミック・スキル育成研究会, 2022, 26-31.

論文

1.The Occurrence of Encephalitis Due to Immune Checkpoint Inhibitors: A Pharmacovigilance Study.

Yugo Chisaki, Hiroki Hata, Chikako Matsumura, Yoshitaka Yano

Therapeutic innovation & regulatory science 56(2) 323-332 2022 年 1 月 10 日 査読有り

2.A Retrospective Cohort Study of Multiple Immune-Related Adverse Events and Clinical Outcomes Among Patients With Cancer Receiving Immune Checkpoint Inhibitors.

Hiroki Hata, Chikako Matsumura, Yugo Chisaki, Kae Nishioka, Misaki Tokuda, Kazuyo Miyagi, Tomoki Suizu, Yoshitaka Yano

Cancer control : journal of the Moffitt Cancer Center 29 10732748221130576-10732748221130576
2022 年 10 月 18 日 査読有り

3.Monitoring of serum magnesium levels during long-term use of proton pump inhibitors in elderly japanese patients: is it really necessary or not?

Nobuhiko Nakamura, Kanaha Yoneda, Takashi Higo, Masaaki Kusumoto

Journal of pharmaceutical health care and sciences 8(1) 35 2022 年 12 月 14 日 査読有り

4.ドセタキセル注射液 160mg の複数回使用による廃棄コストの削減

中村 暢彦, 春名 康裕, 武田 智子, 長谷川 晃司, 矢野 義孝, 楠本 正明

ジェネリック研究 16(1) 14-21 2022 年 6 月 査読有り

5.食道扁平上皮がんにおける Wnt 関連遺伝子のマイクロアレイデータマイニング

地寄 悠吾, 奥村 真由, 北風 陽菜, 岡本 章吾, 水野 翔子, 吉澤 正人, 中田 晋, 芦原 英司, 矢野 義孝

京都薬科大学紀要 3(1) 67-78 2022 年 7 月 査読有り

6.臨床推論や患者の病態アセスメントから薬学的介入につなげるための「フィジカルアセスメント講座(実践コース)」の有用性の検証と受講後のフィジカルアセスメント実践状況に関する追跡調査

今西孝至, 五十嵐恵美子, 淵田真一, 門田典子, 佐古守人, 西村 豊, 細木誠之, 楠本正明

薬学教育 6 315-322 2022 年 11 月 査読有り

7.トシズマブ製剤の適正使用に関するバイアル規格の妥当性評価

中村暢彦

医薬品情報学. 2022, 24(3), 154-158. 査読有り

8.京都府下におけるラタノプロスト,ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液の後発医薬品への使用を推進するための

実態調査

中村 暢彦, 太田 実伶, 光岡 由利子, 中林 保, 楠本 正明

ジェネリック研究 16(2) 77-84 2022 年 12 月 査読有り

Misc

1. 京都府下における後発医薬品ロキソプロフェンナトリウムテープの使用を促進するための実態調査

西田 朱音, 中村 暢彦, 中林 保, 楠本 正明

日本薬学会年会要旨集 142 年会 28PO1-41S 2022 年 3 月

2. エルロチニブとランソプラゾール服用患者の消化器症状に対するフォローアップの 1 症例

小畑 志保, 中村 暢彦, 吉田 勝好, 吉田 知香, 楠本 正明

日本臨床腫瘍薬学会雑誌 25 90-90 2022 年 5 月

3. トシズマブ製剤の適正使用に向けたバイアル規格の妥当性の評価

中村 暢彦, 岡 奈々美

日本医薬品情報学会総会・学術大会講演要旨集 24 回 114-114 2022 年 6 月

4. 2021 年度 Lehmann プログラム成果報告 2 型糖尿病患者に対する PL 配合顆粒の漫然投与による口渇症状が薬剤師の介入によって改善された 1 症例

中野純希, 今西孝至, 松本崇宏, 楠本正明

京都薬科大学紀要 3(1) 146-150 2022 年 7 月 招待有り責任著者

5. エルデカルシトール服用中に高カルシウム血症を生じた 1 例

河野 太治, 中村 暢彦

京都薬科大学紀要 3(1) 112-115 2022 年 7 月

6. 低用量スピロラクトンと ACE 阻害薬の併用で生じた高カリウム血症

澤森 聡, 中村 暢彦

京都薬科大学紀要 3(1) 121-124 2022 年 7 月

7. アセトアミノフェン静注液 500mg 製剤の必要性に関する検討

中田 明代, 中村 暢彦, 春名 康裕, 青木 有希, 長谷川 晃司

ジェネリック研究 16(増刊号) 42-42 2022 年 8 月

8. 高齢患者におけるプロトンポンプ阻害剤の長期服用による低マグネシウム血症発症との関係

米田夏奈葉, 中村暢彦, 肥後 孝, 楠本正明

第 32 回日本医療薬学会年会. 群馬, 2022 年 9 月

9.京都府下におけるラタノプロスト、ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液の後発医薬品の使用を推進する取り組み

太田 実伶, 中村 暢彦, 光岡 由利子, 中林 保, 楠本 正明

日本薬剤師会学術大会講演要旨集 55 回 193-193 2022 年 10 月

10.学位と専門職学位

今西孝至

京都薬報 11 月号 531 63-64 2022 年 11 月 招待有り筆頭著者

11.「8つ星薬剤師」とは？：世界が求めている理想的な薬剤師像

今西孝至

京都薬報 1 月号 521 79-81 2022 年 1 月 招待有り筆頭著者

12. アメリカの薬学情報 電子処方箋・リフィル制度について

津島美幸

京都薬報 6 月号 526 76-77 2022 年 6 月 招待有り筆頭著者

13. 熱中症予防対策

津島美幸

京都薬報 7 月号 527 34-36 2022 年 7 月 招待有り筆頭著者

14. 大学における臨床薬学教育 –“ヒトを診る力”を兼ね備えた薬剤師教育について–

今西孝至

薬学教育 6 125-129 2022 年 8 月 査読有り

書籍等出版物

1.症例から考える代表的な 8 疾患 2022-23 -解答・解説付-

一般社団法人京都府薬剤師会編集, 今西孝至 (担当:分担執筆)

じほう 2022 年 4 月 (ISBN: 9784840754279)

2.薬学生のためのアカデミック・スキル (2022 年度版)

坂本尚志, 開章宏, 高尾郁子編集, 今西孝至 (担当:分担執筆)

京都薬科大学アカデミック・スキル育成研究会 2022 年 4 月

3.臨床腫瘍薬学

日本臨床腫瘍薬学会

中村暢彦. 第 3 章 薬剤編 7・6. セリン・スレオニンキナーゼ阻害薬.じほう 2022 年 9 月 (ISBN: 9784840754552)

講演・口頭発表等

1. 医薬品副作用データベースを用いた漢方薬の腸間膜静脈硬化症に関するシグナル検出

地寄 悠吾, 桐山 舞子, 松村 千佳子, 矢野 義孝

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 27 日

2. 2020 年度薬学共用試験 OSCE の結果解析報告と 2021 年度 OSCE 結果の速報

野田幸裕, 有田悦子, 石田志朗, 入江徹美, 岡村 昇, 小澤孝一郎, 木内祐二, 向後麻里, 田村 豊, 富岡佳久, 中嶋幹郎, 橋詰 勉, 松下 良, 松元一明, 吉富博則, 渡邊真知子, 木津純子, 伊藤智夫, 奥 直人

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

3. 在宅医療で活躍できる薬剤師の教育プログラムの構築と実践

今西孝至

第 7 回日本薬学教育学会大会 2022 年 8 月 20 日

4. 2021 年度薬学共用試験報告

石川はと子, 伊藤智夫, 中村明弘, 増野匡彦, 石塚忠男, 野田幸裕, 松野純男, 前田定秋, 小澤孝一郎, 出口芳春, 三田智文, 橋詰 勉, 岡村 昇, 田村 豊, 飯島史朗, 宮崎 智, 矢ノ下良平, 奥 直人

第 54 回日本医学教育学会大会 2022 年 8 月

5. 2021 年度第 13 回薬学共用試験 OSCE の結果解析

田村 豊, 有田悦子, 石田志朗, 入江徹美, 岡村 昇, 小澤孝一郎, 木内祐二, 向後麻里, 富岡佳久, 中嶋幹郎, 野田幸裕, 橋詰 勉, 松下 良, 松元一明, 吉富博則, 渡邊真知子, 木津純子, 奥 直人

第 7 回日本薬学教育学会大会 2022 年 8 月

6. Monte Carlo simulation to determine optimal ceftazidime dosing in patients receiving continuous hemodiafiltration

Yugo Chisaki, Manami Mitsuyama, Miyu Yasukawa, Yoshitaka Yano

第 32 回日本医療薬学会年会 2022 年 9 月 23 日

7. 京都府における薬局薬剤師の在宅医療活動の特徴

工藤優佳, 今西孝至, 楠本正明

第 55 回日本薬剤師会学術大会 2022 年 10 月 9 日

8. パーキンソン病患者の非運動症状である便秘治療に対する薬剤師の処方提案による介入について

久留米愛, 石原祐作, 細木誠之, 今西孝至

日本プライマリ・ケア連合学会第 35 回近畿地方会 2022 年 11 月 20 日

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. 数理モデルを用いたインフルエンザの流行と治療法の評価

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 若手研究 2019 年 4 月 - 2023 年 3 月

地寄 悠吾

2. 早期から終末期における緩和ケアの質向上をめざした薬学的支援方法の確立

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2019 年 4 月 - 2022 年 3 月

松村 千佳子, 矢野 義孝

社会貢献活動

1. かかりつけ薬剤師・薬局って？～薬や健康についての「なんでもよろず相談所」～

今西孝至

京都市「学まち連携大学」促進事業 2022 年度市民向け共同公開講座「京のやくたちばなし 第 1 回」2022 年 9 月 18 日

2. 京都薬科大学における臨床薬学教育：「ヒトを診る力」を兼ね備えた薬剤師教育について

今西孝至

2022 年度大津市薬剤師会生涯教育研修会 2022 年 9 月 29 日

MISC

1) パターン・ランゲージの開発を通じた相互研修型 FD の実践コミュニティに関する事例検討

長田尚子, デイヴィス恵美, 高尾郁子, 神崎秀嗣, 田中浩朗

日本教育工学会研究報告集 2022(3) 34-41 2022 年 10 月

講演、口頭発表等

1) コロナ禍における市民組織と協働で行う地域児童対象の理科実験講座

金瀬薫, 高尾郁子, 高田哲也, 徳山友紀, 河野享子, 平山恵津子, 木村徹, 山口貴, 谷垣朱美,
藤原洋一

2021 年度第 27 回 FD フォーラム 2022 年 2 月 19 日

2) 学生の総合的判断力醸成を目的とした栄養化学実習におけるアクティブラーニングの取り組み

高田哲也, 長澤一樹, 高山健太郎, 森戸克弥, 徳山友紀, 金瀬薫, 高尾郁子, 河野享子, 平山恵津子,
木村徹, 藤原洋一

日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月 26 日

3) 油脂の変質試験に着目した実験実習教材の開発

高田哲也, 徳山友紀, 金瀬薫, 高尾郁子, 河野享子, 平山恵津子, 木村徹, 藤原洋一

第 7 回日本薬学教育学会大会 2022 年 8 月 20 日

4) パターン・ランゲージの開発を通じた相互研修型 FD の実践コミュニティに関する事例検討

長田尚子, デイヴィス恵美, 高尾郁子, 神崎秀嗣, 田中浩朗

日本教育工学会研究会 2022 年 10 月 8 日

5) 当事者による実践コミュニティ理解の意味：パターン・ランゲージ開発活動中の談話に着目して

長田尚子, デイヴィス恵美, 高尾郁子, 神崎秀嗣, 田中浩朗

日本認知科学会「教育環境のデザイン分科会」(SIG-DEE) 2022 年度研究会 2022 年 11 月 26 日

社会貢献活動

1) 理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2022 イン山科」

助言・指導, 企画, 運営参加・支援, 報告書執筆

京都薬科大学 身近な夏の不思議体験 2022 イン山科 2022 年 7 月 31 日

薬用植物園

Misc

1. サンシュユの種子発芽に及ぼす偽果の採取時期の影響について

野島佳帆, 北田明日香, 西森菜織鹿, 月岡淳子

薬用植物栽培研究会第4回研究総会 2022 大阪講演要旨集 26-26 2022年11月

2. アカネ (*Rubia argyi*) 根部含有成分のがん幹細胞に対する増殖抑制評価

田中珠美, 玉野優果, 月岡淳子, 松本崇宏, 中嶋聡一, 松田久司, 中村誠宏

日本生薬学会年会講演要旨集 68回 286-286 2022年8月

社会貢献活動

1. (公社)京都市保育園連盟 園長研修会「身近にある注意すべき植物について」

講師

公益社団法人 京都市保育園連盟 安全対策委員会・食育委員会 2022年5月24日

2. 令和4年度 漢方薬・生薬研修会 薬用植物園実習研修

講師

公益財団法人 日本薬剤師研修センター

論文

1. L-Serine-Modified Poly-L-Lysine as a Biodegradable Kidney-Targeted Drug Carrier for the Efficient Radionuclide Therapy of Renal Cell Carcinoma
Hidemasa Katsumi, Sho Kitada, Shintaro Yasuoka, Rie Takashima, Tomoki Imanishi, Rina Tanaka, Satoru Matsuura, Hiroyuki Kimura, Hidekazu Kawashima, Masaki Morishita, Akira Yamamoto
Pharmaceutics 14(9) 1946-1946 2022 年 9 月 14 日
2. Copper-mediated radioiodination and radiobromination via aryl boronic precursor and its application to $^{125}\text{I}/^{77}\text{Br}$ -labeled prostate-specific membrane antigen imaging probes
Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Ichiro Sasaki, Shigeki Watanabe, Yasuhiro Ohshima, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Manami Koda, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui, Noriko S. Ishioka
Bioorganic & Medicinal Chemistry 69 116915-116915 2022 年 9 月

書籍等出版物

1. 臨床放射薬学：薬学領域における放射化学の理論と実践
河嶋, 秀和, 木村, 寛之, 有光, 健治, 戸崎, 充男, 永津, 弘太郎
京都廣川書店 2022 年 8 月 (ISBN: 9784910844039)

講演・口頭発表等

1. Synthesis of Radioiodinated Peptides by Direct and Indirect Radiolabeling Using a Copper-Mediated Iododeboronation
Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Minon Sasaki, Yasunao Hattori, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui
The 5th International Symposium on Halogen Bonding 2022 年 11 月
2. Improved Image Quality in X-ray Fluorescence Computed Tomography by Combining Dual-Energy Scatter Correction and High-Sensitivity Multi-Pinhole Collimator
Yuta Tsushima, Masahiro Matsuoka, Tenta Sasaya, Naoki Sunaguchi, Hidekazu Kawashima, Kazuyuki Hyodo, Tetsuya Yuasa, Tsutomu Zeniya
2022 IEEE Nuclear Science Symposium 2022 年 11 月
3. 動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした放射性ヨウ素標識酸化 LDL を用いた生体イメージングの解析

井澤 満, 河嶋 秀和, 奥野 結衣, 中谷 純菜, 武田 麻友子, 石原 慶一, 秋葉 聡, 高田 和幸
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 11 月

4. 生薬由来 A β 結合性低分子化合物の神経保護作用の解析

松田 英里香, 福田 愛菜, 中嶋 聡一, 尾田 好美, 花木 葵, 河嶋 秀和, 木村 寛之, 岡崎 瑞紀, 田中 雪衣, 中村 誠宏, 松田 久司, 西村 周泰, 高田 和幸
第 41 回日本認知症学会学術集会 2022 年 11 月

5. 酸化 LDL 標識体を用いた動脈硬化モデルマウスにおける泡沫化マクロファージを標的とした動脈硬化巣バイオイメージングの検討

井澤 満, 河嶋 秀和, 奥野 結衣, 中谷 純菜, 石原 慶一, 秋葉 聡, 高田 和幸
第 16 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (和歌山) 2022 年 10 月

6. 放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会活動報告 2022

坂口 修一, 赤石 泰一, 阿部 利明, 池本 祐志, 伊藤 正悟, 岩崎 智之, 尾上 昌平, 垣下 典永, 河嶋 秀和, 小山 由起子, 近藤 真理, 角山 雄一, 都留 忍, 外山 実千留, 東山 真二, 菱本 純次, 松田 淑美, 宮武 秀男, 宮本 裕介, 三輪 美代子, 吉岡 潤子
令和 4 年度放射線安全取扱部会年次大会 2022 年 10 月

7. 銅触媒を用いた脱ホウ素ハロゲン化反応に基づく放射性ヨウ素標識ペプチドの効率的合成

近藤 悠斗, 木村 寛之, 佐々木 美音, 服部 恭尚, 河嶋 秀和, 安井 裕之
第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会, 第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月

8. Erythropoietin-producing hepatocellular A2 受容体を標的とした放射性ヨウ素標識低分子化合物の合成と評価

古川 武典, 木村 寛之, 志賀 智華, 吉村 茜音, 屋木 祐亮, 河嶋 秀和, 安井 裕之
第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会, 第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月

9. ^{191}Pt 標識白金錯体の合成とマウスにおける体内分布評価

面川 真里奈, 木村 寛之, 初川 雄一, 河嶋 秀和, 安井 裕之
第 5 回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会, 第 21 回放射性医薬品・画像診断薬研究会 2022 年 9 月

10. *Bacopa monniera* 由来 A β 結合性低分子化合物による A β の検出と神経保護作用の解析

福田 愛菜, 中嶋 聡一, 尾田 好美, 西村 周泰, 花木 葵, 河嶋 秀和, 木村 寛之, 岡崎 瑞紀, 松田 英里香, 田中 雪衣, 中村 誠宏, 松田 久司, 高田 和幸

日本生薬学会第 68 回年会 2022 年 9 月

11. 生薬由来化合物の A β への結合性とヒト iPS 細胞由来神経細胞に対する A β 誘発細胞死抑制作用の解析
花木 葵, 福田 愛菜, 中嶋 聡一, 尾田 好美, 西村 周泰, 河嶋 秀和, 木村 寛之, 松田 英里香, 岡崎 瑞
紀, 田中 雪衣, 中村 誠宏, 松田 久司, 高田 和幸
次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2022 2022 年 8 月

12. 新規糖連結白金錯体の ^{191}Pt 標識体の合成と薬剤特性の評価
面川 真里奈, 木村 寛之, 初川 雄一, 河嶋 秀和, 安井 裕之
第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月

13. Erythropoietin-producing hepatocellular A2 受容体を標的とした腫瘍イメージングプローブの開発
古川 武典, 木村 寛之, 志賀 智華, 吉村 茜音, 屋木 祐亮, 河嶋 秀和, 安井 裕之
第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会 2022 年 7 月

14. In vivo imaging of metabolic tissue using oxidized LDL
Hidekazu Kawashima
Joint symposium supported by Japan Society for the Promotion of Science and Academy of
Finland 2022 年 6 月

15. 褐色脂肪組織における新規酸化 LDL 代謝機構の解明
細見 謙登, 河嶋 秀和, 中野 厚史, 岡松 優子, 垣野 明美, 杠 俊介, 飯田 秀博, 沢村 達也
第 86 回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム 2022 年 5 月

16. 新規糖連結白金錯体を用いたがん治療薬の開発
面川 真里奈, 木村 寛之, 初川 雄一, 河嶋 秀和, 安井 裕之
日本薬学会第 142 年会 2022 年 3 月

共同研究・競争的資金等の研究課題

1. スカベンジャー受容体のイメージングに基づく生活習慣病および悪性腫瘍の評価
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月 - 2024 年 3 月
河嶋 秀和

2. 細胞指向性送達理論に基づくエクソソーム捕捉型核酸医薬による多発性骨髄腫治療の開発
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2019 年 4 月 - 2022 年 3 月
芦原 英司, 戸田 侑紀, 河嶋 秀和

MISC

- 1) TNBS 誘起大腸炎の病態における peptidylarginine deiminase 4 を介した細胞外トラップの役割
田中義也、安田浩之、宇野綾花、甲田紗弥、斎藤美知子、松本健次郎、加藤伸一
日本薬学会年会要旨集 143 年会 2023 年 3 月
- 2) Ca^{2+} 高透過性 TRPV6 の炎症性腸疾患の病態における保護的役割
高山麻由、森風帆、斎藤美知子、安田浩之、松本健次郎、加藤伸一
日本薬学会年会要旨集 143 年会 2023 年 3 月
- 3) ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子座の絞り込み
神保里菜、高田修治、斎藤美知子、山川和弘、河下映里、左合治彦、秋葉聡、石原慶一
日本薬学会年会要旨集 143 年会 2023 年 3 月
- 4) Suppressive effects of Down syndrome genes on amyloid- β aggregation and mortality in a mouse model of Alzheimer's disease.
Keiichi Ishihara, Eri Kawashita, Mizuki Katsuda, Michiko Saito, Haruhiko Sago, Kazuhiro Yamakawa, Satoshi Akiba, Kazuyuki Takata
人類遺伝学会第 67 回大会 2022 年 12 月
- 5) Ca^{2+} 高選択性 TRPV6 のデキストラン硫酸ナトリウム誘起マウス大腸炎の病態における役割,
森風帆、高山麻由、斎藤美知子、安田浩之、松本健次郎、加藤伸一
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 11 月
- 6) オープン G タンパク質共役型受容体 GPR35 のデキストラン硫酸ナトリウム誘起マウス大腸炎の病態における役割
岸采花、橋佑輔、村瀬由衣、徳山珖雅、斎藤美知子、安田浩之、松本健次郎、加藤伸一
第 96 回日本薬理学会年会 2022 年 11 月
- 7) ダウン症関連遺伝子のアミロイド β 蓄積に及ぼす影響の検討
石原慶一、河下映里、西村周泰、斎藤美知子、左合治彦、山川和弘、秋葉 聡、高田和幸
Neuro2022 2022 年 7 月

社会貢献活動

- 1) 斎藤美知子: 教育訓練(講師) 株式会社国際電気通信基礎技術研究所(奈良), 2022.11

- 2) 齊藤美知子: 教育訓練(講師) 大阪国際がんセンター動物実験教育訓練(大阪), 2023.1
- 3) 齊藤美知子: 動物実験に関する外部検証事業 外部検証調査(主査) 公益財団法人 東洋食品研究所 (大阪), 2022.11

論文

1. Copper-mediated radioiodination and radiobromination via aryl boronic precursor and its application to $^{125}\text{I}/^{77}\text{Br}$ -labeled prostate-specific membrane antigen imaging probes
Yuto Kondo, Hiroyuki Kimura, Ichiro Sasaki, Shigeki Watanabe, Yasuhiro Ohshima, Yusuke Yagi, Yasunao Hattori, Manami Koda, Hidekazu Kawashima, Hiroyuki Yasui, Noriko S. Ishioka
Bioorganic and Medicinal Chemistry 69 2022 年 9 月 1 日

2. Concise Synthesis of Procyanidin B2 3,3''-Digallate Using $\text{Yb}(\text{OTf})_3$ -Mediated Self-Condensation
Yuuri Tanaka, Shu-hei Kobayashi, Atsushi Kawamura, Hidefumi Makabe, Yasunao Hattori
Synlett 33(11) 1071-1074 2022 年 5 月 9 日

3. The Effects of Side-Chain Configurations of a Retro-Inverso-Type Inhibitor on the Human T-Cell Leukemia Virus (HTLV)-1 Protease.
Chiyuki Awahara, Daiki Oku, Saki Furuta, Kazuya Kobayashi, Kenta Teruya, Kenichi Akaji, Yasunao Hattori
Molecules (Basel, Switzerland) 27(5) 2022 年 3 月 2 日

講演・口頭発表

1. 近藤悠斗, 木村寛之, 小池澄奈, 田村優衣, 服部恭尚, 安井裕之、銅触媒下脱ホウ素ヨウ素化反応及びヒュスゲン環化付加反応の連続制御による放射性ヨウ素標識ペプチドの効率的合成、第 25 回ヨウ素学会シンポジウム（千葉、オンライン開催）、講演要旨集IV-⑨、2022 年 9 月

2. 小林数也、大谷拓也、安藤駿、川北百花、石沢克康、井関梨紗、北嶋太志、進藤尚加、大川晃汰、上田康太、服部恭尚、赤路健一、ヒドロキシエチルアミン型 BACE1 阻害剤における P1'位の構造活性相関研究、日本薬学会第 142 年会（名古屋、オンライン開催）、講演要旨集 27S-pm16、2022 年 3 月

3. 近藤悠斗、木村寛之、佐々木美音、小池澄奈、服部恭尚、安井裕之、ボロン酸前駆体を用いた銅触媒下での放射性ヨウ素化反応を用いたペプチド直接標識法に与える含水溶媒の影響、日本薬学会第 142 年会（名古屋、オンライン開催）、講演要旨集 26H-pm10S、2022 年 3 月

4. 福本晴菜、安東友繁、小林数也、赤路健一、服部恭尚、長谷川功紀、上皮成長因子受容体(EGFR)を標的とした細胞溶解薬剤の開発、日本薬学会第 142 年会（名古屋、オンライン開催）、講演要旨集 28PO1-am2-41S、2022 年 3 月

5. 板野一就、西脇侑司、島恭平、岸本翔、大西康司、吉澤慎一郎、小林数也、服部恭尚、赤路健一、1 位を置換したデカヒドロイソキノリンを有する SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の設計と合成研究、日本薬学会第 142 年会（名古屋、オンライン開催）、講演要旨集 27PO4-pm2-10S、2022 年 3 月
6. 藤本和也、大谷拓也、木村明穂、内海慈乃、小林数也、服部恭尚、赤路健一、P1-P3 側鎖間にアリール型架橋構造を導入した大環状 BACE1 阻害剤の合成研究、日本薬学会第 142 年会（名古屋、オンライン開催）、講演要旨集 27PO4-pm2-06S、2022 年 3 月
7. 服部恭尚、吉澤慎一郎、小林数也、赤路健一、オキサ-デカリン型 SARS 3CL プロテアーゼ阻害剤の設計と合成、阻害活性評価ならびに立体化学、日本農芸化学会 2022 年度大会（京都、オンライン開催）、講演要旨集 4F07-11、2022 年 3 月

京都薬科大学教育研究業績録第 41 集(2022)

発行日 2023 年 9 月

発行者 学校法人京都薬科大学

〒607-8414

京都市山科区御陵中内町 5

TEL 075-595-4716

FAX 075-595-4750